

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(教養科目)【2025年度生以降対象】

科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数			実務経験のある教員等による授業科目	備 考
				年次	学期	必修	選択必修	選択		
教養科目	言語・文化領域	英会話	演習	1	前期	2				
		日本の伝統文化	講義	1	前期			2		
		多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期			2		
		英語Ⅰ	演習	1	後期			2		
		英語Ⅱ	演習	2	前期			2		
		英語Ⅲ	演習	2	前期			2		
		英語Ⅳ	演習	2	後期			2		
		(小計7科目)	7	—	—	2	0	12	0	
	汎用的技能領域	コンピュータリテラシーⅠ	演習	1	前期	2				
		体育実技	実技	1	前期			1		
		非認知能力育成Ⅰ	講義	1	前期	2				
		TOEICⅠ	講義	1	前期			2		
		TOEICⅢ	講義	1	前期			2		
		コンピュータリテラシーⅡ	演習	1	後期	2				
		体育理論	講義	1	後期			1		
		非認知能力育成Ⅱ	講義	1	後期			2		
		TOEICⅡ	講義	1	後期			2		
		TOEICⅣ	講義	1	後期			2		
		コンピュータリテラシーⅢ	演習	2	前期			2		
		統計学	講義	3	前期			2		
		コンピュータリテラシーⅣ	演習	3	前期			2		
		(小計13科目)	13	—	—	6	0	18	0	
	人間・表現領域	表現活動による人間力養成Ⅰ	演習	1	通年			2		
		心理学	講義	1	前期			2		
		哲学	講義	1	前期			2		
		倫理学(宗教を含む)	講義	1	後期			2		
		表現活動による人間力養成Ⅱ	演習	2	通年			2		
		人権と教育	講義	2	前期			2		
		表現活動による人間力養成Ⅲ	演習	3	通年			2		
		コミュニケーションの心理学	講義	3	前期			2		
		表現活動による人間力養成Ⅳ	演習	4	通年			2		
		人間と法	講義	4	前期			2		
		(小計10科目)	10	—	—	0	0	20	0	
	数理領域	数学基礎Ⅰ	講義	2	前期			2		
		数学基礎Ⅱ	講義	2	後期			2		
		自然科学基礎	講義	3	前期			2		
		食育論	講義	3	前期			2		
		生命科学基礎	講義	3	前期			2		
		(小計5科目)	5	—	—	0	0	10	0	
	社会領域	日本国憲法	講義	1	後期			2	2	
		国際関係論	講義	2	前期			2		
		労働法規	講義	3	前期			2		
		近現代史	講義	3	後期			2		
		地理・地政学	講義	3	前期			2		
		労働安全衛生法	講義	3	後期			2		
		(小計6科目)	6	—	—	0	0	12	2	
	キャリア領域	基礎ゼミナールⅠ	演習	1	通年	2				
		フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2			2	
		ボランティア活動	演習	1	集中			2		
		コーチング基礎	演習	1	集中			2		
		基礎ゼミナールⅡ	演習	2	通年	2				
		キャリアディベロップメント	講義	2	通年	2			2	
		ビジネスコーチング	演習	2	集中			2		
		ライフコーチング	演習	2	集中			2		
		キャリアデザインⅠ	講義	3	前期	1			1	
		キャリアデザインⅡ	講義	3	後期	1			1	
		キャリアサポート	講義	4	前期			2	2	
		(小計11科目)	11	—	—	10	0	10	8	
	合計(52科目)		52	—	—	18	0	82	10	

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	全学共通
		10

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(体育学部 体育学科)【2025年度生以降対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数			実務経験のある 教員等による授業 科目		備 考
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	身体文化領域	体育原理	講義	1	前期	2			2		
		スポーツ心理学	講義	1	前期			2			
		健康科学概論	講義	1	前期	2					
		発育と発達	講義	1	後期			2	2		
		スポーツ経営学	講義	1	後期			2			
		体育社会学	講義	2	前期			2			
		公衆衛生学	講義	2	前期			2			
		体育授業のリスクマネジメント	講義	2	後期			2			
		体育史	講義	3	後期			2			
		(小計9科目)	9	—	—	4	0	14	4	0	
	身体機能領域	トレーナー論	講義	1	前期			2			
		スポーツ科学入門	講義	1	前期			2			
		人体の解剖と機能	講義	1	前期			2			
		運動学	講義	1	後期			2			
		生理学	講義	1	後期			2			
		スポーツデータサイエンス入門	演習	1	後期			2			
		運動器の解剖と機能	講義	1	後期			2		2	
		運動生理学	講義	2	前期			2			
		解剖生理学	講義	2	前期			2			
		コーチング論	講義	2	前期			2			
		救急処置	演習	2	前期			2			
		トレーニング論Ⅰ(基礎)	講義	2	後期			2			
		スポーツバイオメカニクス	講義	2	後期			2			
		スポーツ栄養学	講義	2	後期			2			
		(小計14科目)	14	—	—	0	0	28	0	2	
	合計(23科目)		23	—	—	4	0	42	4	2	
コア科目	身体文化領域	教育の思想と原理	講義	1	前期			2			
		教職入門	講義	1	前期			2			
		保健体育科指導法Ⅰ(基礎)	講義	1	後期			2		2	
		スポーツ施設論	講義	2	前期			2			
		スポーツイベント論	講義	2	前期			2			
		保健体育科指導法Ⅱ(応用)	講義	2	前期			2		2	
		フィットネスプログラム論	講義	2	前期			2			
		発達心理学	講義	2	後期			2			
		総合的な学習の時間の指導法	講義	2	後期			2			
		教育相談(中等)	講義	2	後期			2			
		学校保健	講義	2	後期			2			
		特別活動の指導法	講義	2	後期			2			
		生徒指導・進路指導論	講義	2	後期			2			
		保健体育科指導法Ⅲ(発展)	講義	2	後期			2			
		キャリアマネジメントⅠ	講義	2	後期			2		2	
		総合型地域SC運営演習	演習	2	集中			2			
		学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中			1			
		障害者スポーツ論	講義	3	前期			2			
		教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	2	前期			2			
		道徳教育の理論及び指導法	講義	3	前期			2			
		スポーツ文化論	講義	3	前期			2			
		公務員と法	講義	3	前期			2		2	
		労働衛生学	講義	3	後期			2			
		教育課程論	講義	2	後期			2			
		特別支援教育論	講義	2	後期			2			
		キャリアマネジメントⅡ	講義	3	前期			2			
		スポーツイベント運営実習	実習	3	集中			1			
		キャリアマネジメントⅢ	講義	3	後期			2			
		保健体育科指導法Ⅳ(実践)	講義	4	前期			2			
		教職実践演習	演習	4	後期			2			
		キャリアマネジメントⅣ	演習	4	通年			2			
		(小計31科目)	31	—	—	0	0	60	0	8	
	身体機能領域	トレーニング演習Ⅰ(基礎)	演習	1	後期			2			
		健康管理概論	講義	1	後期			2			
		スポーツ医学Ⅰ	講義	2	前期			2			
		検査・測定と評価	講義	2	前期			2	2		
		アスレティックトレーナー実習Ⅰ	実習	1	前期			1			
		運動生理学演習Ⅰ	演習	2	前期			2			
		運動生理学演習Ⅱ	演習	2	後期			2			
		アスレティックトレーナー実習Ⅱ	実習	1	後期			1			
		スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ	講義	2	集中			2			
		スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	講義	2	後期			2			

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(体育学部 体育学科)【2025年度生以降対象】

科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数			実務経験のある教員等による授業科目		備考
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門	
身体機能領域		トレーニング演習Ⅱ(応用)	演習	2	後期			2			
		スタジオエクササイズ	演習	2	後期			2			
		スポーツアナリティクスⅠ	演習	2	通年			2			
		スポーツバイオメカニクス実習	実習	3	前期			1			
		トレーニング論Ⅱ(応用)	講義	3	前期			2			
		トレーニング指導実習	実習	3	前期			1			
		体育測定・評価	講義	3	前期			2			
		健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期			2		2	
		スポーツ健康論	講義	3	後期			2			
		スポーツ相談の実際	講義	3	後期			2			
		病理学	講義	3	後期			2			
		スポーツ・レクリエーション演習	演習	3	後期			2			
		スポーツ栄養学実習	実習	3	通年			2			
		体力学実習	実習	3	通年			2			
		スポーツアナリティクスⅡ	演習	3	通年			2			
		運動障害と予防および救急処置	講義	3	前期			2			
		(小計26科目)	26	—	—	0	0	48	2	2	
コア科目	身体活動実践領域	陸上Ⅰ(基礎)	実技	1	前期		1				※1 器械運動Ⅰ(基礎)、陸上Ⅰ(基礎)、ダンスⅠ(基礎)から1科目以上選択必修 ※2 柔道Ⅰ(基礎)、剣道Ⅰ(基礎)から1科目以上選択必修 ※3 バスケットボールⅠ(基礎)、バレーボールⅠ(基礎)、ラグビー、サッカー、ソフトボール、ハンドボールⅠ(基礎)から1科目以上選択必修 ※4 防災キャンプ、水泳Ⅰ(基礎)、雪上スポーツから1科目のみ選択必修
		器械運動Ⅰ(基礎)	実技	1	後期		1				
		ダンスⅠ(基礎)	実技	2	前期		1				
		剣道Ⅰ(基礎)	実技	1	後期		1				
		柔道Ⅰ(基礎)	実技	2	前期		1				
		バレーボールⅠ(基礎)	実技	1	後期		1			1	
		バスケットボールⅠ(基礎)	実技	2	前期		1			1	
		ラグビー	実技	2	後期		1			1	
		サッカー	実技	2	後期		1			1	
		ソフトボール	実技	2	後期		1			1	
		ハンドボールⅠ(基礎)	実技	2	後期		1			1	
		水泳Ⅰ(基礎)	実技	1	前期		1				
		防災キャンプ	実技	1	集中		1				
		雪上スポーツ	実技	1	集中		1				
		教育心理学	講義	1	前期			2			
		体育方法学・実習	実習	1	前期			1			
		レクリエーション論	講義	1	後期			2			
		体づくり運動	実技	1	後期			1			
		インクルーシブスポーツ	実技	1	集中			1			
		キャンプ実習	実習	1	集中			1			
		スポーツ指導理論・実習Ⅰ(基礎)	実習	1	通年			2			
		レクリエーション演習	演習	2	前期			1			
		器械運動Ⅱ(応用)	実技	2	前期			1			
		陸上Ⅱ(応用)	実技	2	前期			1			
		ダンスⅡ(応用)	実技	2	後期			1			
		柔道Ⅱ(応用)	実技	2	後期			1			
		剣道Ⅱ(応用)	実技	2	後期			1			
		バスケットボールⅡ(応用)	実技	2	後期			1			
		武道指導論	講義	2	後期			2			
		スポーツ指導理論・実習Ⅱ(応用)	実習	2	通年			2			
		武道指導演習Ⅰ(基礎)	演習	3	前期			2			
		ハンドボールⅡ(応用)	実技	3	前期			1			
		バレーボールⅡ(応用)	実技	3	前期			1		1	
		教育社会学	講義	3	後期			2			
		武道指導演習Ⅱ(応用)	演習	3	後期			2			
		剣道Ⅲ(発展)	実技	3	後期			1			
		健康運動実習	実習	3	集中			1			
		ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4					
		スポーツ指導理論・実習Ⅲ(発展)	実習	3	通年			2			
		ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4					
		卒業研究	演習	4	通年			4			
		スポーツ指導理論・実習Ⅳ(実践)	実習	4	通年			2			
		(小計42科目)	42	—	—	8	14	39	0	7	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(体育学部 体育学科)【2025年度生以降対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数			実務経験のある 教員等による授業 科目		備 考
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	インター ンシ ップ	海外研修	実習	1・2・3	集中			1			
		国際交流実習Ⅰ（基礎）	実習	1・2・3	集中			1			
		国際交流実習Ⅱ（応用）	実習	1・2・3	集中			1			
		サービスラーニングⅠ	実習	1	集中			1			
		サービスラーニングⅡ	実習	2	集中			1			
		介護等体験実習	実習	2・3・4	集中			1			
		スポーツ健康演習	演習	3	前期			2			
		サービスラーニングⅢ	実習	3	集中			1			
		インターンシップ	実習	3	集中			2			
		教育実習事前・事後指導（保健体育）	演習	3・4	集中			1			
		教育実習Ⅰ（中学校・高等学校）	実習	3・4	集中			2			
		教育実習Ⅱ（中学校）	実習	3・4	集中			2			
		サービスラーニングⅣ	実習	4	集中			1			
		（小計13科目）		13	—	—	0	0	17	0	
	合計(112科目)		112	—	—	8	14	164	2	17	
その他科目	他学部・他学科科目										
	他大学科目										
合計(187科目)			187	—	—	30	14	288	88	101	

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		6	19

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	体育学	体育原理	講義	1	前期		2			
		体育測定・評価	講義	1	前期		2			
		スポーツ科学入門	講義	1	前期		2			
		スポーツ心理学	講義	1	前期		2			
		障害者スポーツ論	講義	1	後期		2			
		発育と発達	講義	1	後期		2	2		
		健康科学概論	講義	1	後期		2			
		コーチング論	講義	2	前期		2			
		体育社会学	講義	2	前期		2			
		トレーニング論Ⅰ（基礎）	講義	2	後期		2			
		スポーツ法学	講義	2	後期		2			
		スポーツバイオメカニクス	講義	2	後期		2			
		運動生理学	講義	2	後期		2			
		スポーツ栄養学	講義	2	後期		2			
		トレーニング論Ⅱ（応用）	講義	3	前期		2			
		スポーツバイオメカニクス実習	実習	3	前期		1			
		スポーツ相談の実際	講義	3	後期		2			
		（小計17科目）	17	—	—	0	33	2	0	
	健康科学	解剖学Ⅰ	講義	1	前期		1			
		解剖学Ⅱ	講義	1	後期		1			
		生理学Ⅰ	講義	1	前期		1			
		解剖学Ⅱ	講義	1	後期		1			
		運動学特論A	講義	1	前期		2			
		基礎柔道整復学Ⅰ（総論）	講義	1	前期		2			
		健康管理概論	講義	1	後期		2			
		運動学特論B	講義	1	後期		2			
		基礎柔道整復学Ⅱ（骨折）	講義	1	後期		2		2	
		トレーニング演習Ⅰ（基礎）	演習	1	後期		2			
		トレーニング演習Ⅱ（応用）	演習	2	後期		2			
		病理学Ⅰ	講義	2	前期		2		2	
		基礎柔道整復学Ⅲ（脱臼）	講義	2	前期		2		2	
		柔道整復解剖生理演習Ⅰ	演習	2	前期		2		2	
		基礎柔道整復学Ⅳ（捻挫）	講義	2	後期		2		2	
		柔道整復解剖生理演習Ⅱ	演習	2	後期		2			
		スポーツ装具論	講義	3	後期		2			
		公衆衛生学Ⅰ	講義	3	前期		2			
		解剖・生理学実習Ⅰ	実習	3	前期		1			
		柔道整復解剖生理演習Ⅲ	演習	3	前期		2			
		柔道整復解剖生理演習Ⅳ	演習	3	後期		2			
		解剖・生理学実習Ⅱ	実習	3	後期		1			
		基礎柔道整復学Ⅴ（保存療法）	演習	3	集中		2			
		（小計23科目）	23	—	—	0	40	0	10	
		合計（35科目）	40	—	—	0	73	2	10	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	健康運動分野	スポーツ健康演習	演習	2	前期		2			
		運動障害と予防および救急処置	講義	2	前期		2			
		スポーツ健康論	講義	2	後期		2			
		スタジオエクササイズ	演習	2	後期		2			
		フィットネスプログラム論	講義	2	前期		2			
		(小計5科目)	5	—	—	0	10	0	0	
	スポーツ医学分野	アスレティックトレーナーの役割	講義	1	前期		2			
		救急処置	演習	2	集中		2			
		リコンディショニングⅠ	講義	2	後期		2			
		スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	講義	2	後期		2			
		スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ	講義	2	集中		2			
		検査・測定と評価	講義	2	前期		2	2		
		スポーツ医学Ⅰ	講義	2	前期		2			
		スポーツ医学Ⅱ	講義	2	後期		2			
		健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期		2	2		
		リコンディショニングⅡ	講義	3	前期		2			
		リコンディショニングⅢ	講義	3	後期		2			
		運動生理学Ⅱ(応用)	講義	3	前期		2			
		労働衛生学	講義	3	後期		2			
		(小計13科目)	13	—	—	0	26	4	0	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<体育学部 健康科学科 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
		関係法規	講義	1	前期		1			※1
		臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)	講義	1	後期		2		2	※1
		解剖学Ⅲ	講義	2	前期		1			※1
		解剖学Ⅳ	講義	2	後期		1			※1
		生理学Ⅲ	講義	2	前期		1			※1
		生理学Ⅳ	講義	2	後期		1			※1
		外科学Ⅰ	講義	2	前期		2			※1
		臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)	講義	2	前期		2		2	※1
		病理学Ⅱ	講義	2	後期		2		2	※1
		外科学Ⅱ	講義	2	後期		2			※1
		内科学Ⅰ	講義	2	後期		2			※1
		臨床柔道整復学Ⅲ(脱臼)	講義	2	後期		2			※1
		内科学Ⅱ	講義	3	前期		2			※1
		整形外科Ⅰ	講義	3	前期		2			※1
		リハビリテーション医学Ⅰ	講義	3	前期		2			※1
		臨床柔道整復学Ⅳ(社会保障制度と職業倫理)	講義	3	前期		2			※1
		臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)	講義	3	前期		2		2	※1
		公衆衛生学Ⅱ	講義	3	後期		2			※1
		整形外科Ⅱ	講義	3	後期		2		2	※1
		リハビリテーション医学Ⅱ	講義	3	後期		2			※1
		臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)	講義	3	後期		2		2	※1
		臨床柔道整復学Ⅶ(臨床応用)	実習	3	後期		2			※1
		臨床柔道整復学演習Ⅰ	演習	3	集中		1			※1
		柔道整復治療学	講義	4	前期		2			※1
		臨床柔道整復学演習Ⅱ	演習	4	集中		1			※1
		臨床柔道整復学演習Ⅲ	演習	4	集中		1			※1
	(小計26科目)		26	—	—	0	44	0	12	
	体育実技・柔道整復実技	整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)	実技	1	前期		2			※1
		ダンスⅠ(基礎)	実技	1	後期		1			
		整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)	実技	1	後期		2			※1
		水泳Ⅰ(基礎)	実技	1	集中		1			
		ダンスⅡ(応用)	実技	2	前期		1			
		柔道Ⅰ(基礎)	実技	2	前期	1				※1
		整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)	実技	2	前期		2			※1
		柔道Ⅱ(応用)	実技	2	後期	1				※1
		整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)	実技	2	後期		2			※1
		整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)	実技	3	前期		2			※1
		整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)	実技	3	後期		2			※1
		整復学実技Ⅶ(総合)	実技	4	前期		2			※1
		(小計12科目)		12	—	—	2	17	0	0
	インターンシップ	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	実習	1	前期		1			※1
		アスレティックトレーナー実習Ⅱ	実習	1	後期		1			※1
		アスレティックトレーナー実習Ⅲ	実習	2	前期		1			
		整復臨床実習Ⅰ	実習	2	通年		1			※1
		アスレティックトレーナー実習Ⅳ	実習	3	前期		1			
アスレティックトレーナー実習Ⅴ		実習	3	通年		2				
健康運動実習		実習	3	前・後		1			集中 ※1	
整復臨床実習Ⅱ		実習	3	通年		1			※1	
整復臨床実習Ⅲ		実習	4	集中		1			※1	
整復臨床実習Ⅳ		実習	4	集中		1				
海外研修		実習	1・2・3	後期		1			集中	
(小計11科目)		11	—	—	0	12	0	0		
ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4				※1	
	課題研究Ⅰ	演習	3	通年		2				
	ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4				※1	
	卒業研究	演習	4	通年		4				
	課題研究Ⅱ	演習	4	通年		2				
	(小計5科目)		5	—	—	8	8	0	0	
合計(58科目)		72	—	—	10	117	4	12		
その他科目	他学部・他学科科目									
	他大学科目									
合計(145科目)		164	—	—	32	268	84	100		

※1 柔道整復師学校必修科目
※2 柔道整復師学校選択必修科目

実務経験のある教員等による授業 科目単位数	計	学部共通	学科専門
		6	22

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(体育学部 競技スポーツ科学科)【2025年度生以降対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数			実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	身体文化領域	アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)	演習	1	前期	2					
		トレーナー論	講義	1	前期			2			
		健康科学概論	講義	1	前期			2			
		体育原理	講義	1	前期			2	2		
		コーチング論	講義	2	前期			2			
		公衆衛生学	講義	2	前期			2			
		アスリートキャリアⅡ(スポーツコンプライアンス)	演習	2	後期	2					
		アスリートキャリアⅢ(スポーツリスクマネジメント)	演習	3	前期	2					
		スポーツ史	講義	3	前期			2			
		アスリートキャリアⅣ(メディアマネジメント)	演習	4	後期	2					
		(小計10科目)	10	—	—	8	0	12	2	0	
	身体機能領域	スポーツ科学入門	演習	1	前期	2					
		人体の解剖と機能	講義	1	前期			2			
		スポーツデータサイエンス入門	演習	1	後期	2					
		トレーニング科学Ⅰ(基礎)	演習	1	後期			2			
		運動学	講義	1	後期			2			
		生理学	講義	1	後期			2			
		救急処置	演習	2	前期	2					
		スポーツ栄養学	演習	2	前期			2			
		スポーツ心理学	演習	2	前期			2			
		スポーツ生理学	演習	2	前期			2			
		トレーニング科学Ⅱ(応用)	演習	2	前期			2			
		スポーツバイオメカニクス	演習	2	後期			2			
		(小計12科目)	12	—	—	6	0	18	0	0	
	合計(22科目)		22	—	—	14	0	30	2	0	
コア科目	身体文化領域	フィットネスプログラム論	講義	2	前期			2			
		障害者スポーツ論	講義	3	前期			2			
		(小計2科目)	2	—	—	0	0	4	0	0	
	身体機能領域	トレーニング演習Ⅰ(基礎)	演習	1	前期			2			
		競技スポーツアナリティクス演習A(レース分析)	演習	2	前期			2			
		アスレティックトレーナー実習Ⅰ	実習	1	前期			1			
		アスレティックトレーナー実習Ⅱ	実習	1	後期			1			
		スポーツ医学Ⅰ	講義	2	前期			2			
		トレーニング演習Ⅱ(応用)	演習	2	前期			2			
		競技スポーツアナリティクス演習B(ゲーム分析)	演習	2	後期			2			
		競技スポーツ栄養学演習A(体調管理)	演習	2	後期			2			
		競技スポーツ心理学演習A(競技能力心理検査)	演習	2	後期			2			
		スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	講義	2	後期			2			
		スポーツ外傷・障害の予防Ⅱ	講義	2	集中			2			
		トレーニング演習Ⅲ(発展)	演習	3	前期			2			
		競技スポーツアナリティクス演習C(レースプラン)	演習	3	前期			2			
		競技スポーツ栄養学演習B(競技力向上)	演習	3	前期			2			
		競技スポーツ心理学演習B(メンタルトレーニング)	演習	3	前期			2			
		競技スポーツバイオメカニクス演習A(動作分析)	演習	3	前期			2			
		体力科学実験演習I(基礎)	演習	3	前期			2			
		競技スポーツアナリティクス演習D(ゲームプラン)	演習	3	後期			2			
		競技スポーツバイオメカニクス演習B(スキル分析)	演習	3	後期			2			
		体力科学実験演習Ⅱ(応用)	演習	3	後期			2			
		健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期			2	2		
		トレーニング指導実習	実習	3	通年			1			
		トレーニング演習Ⅳ(専門)	演習	4	前期			2			
		(小計23科目)	23	—	—	0	0	43	2	0	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(体育学部 競技スポーツ科学科)【2025年度生以降対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数			実務経験のある教 員等による授業科目		備 考	
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門		
コア科目	身体 活動 実践 領域	水泳Ⅰ（基礎）	実習	1	前期		1				※1	
		陸上Ⅰ（基礎）	実習	1	前期		1				※2	
		雪上スポーツ	実習	1	後期		1				※1	
		器械運動Ⅰ（基礎）	実習	1	後期		1				※2	
		ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ	演習	1	通年			2			※1 水泳、雪上スポーツ、キャンプ実 習から1科目から1科目以上選択必修	
		インクルーシブスポーツ	実習	1	通年			1				
		競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	実習	1	通年			2				
		競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	実習	2	通年			2				
		スポーツ指導理論・実習Ⅰ（基礎）	実習	1	通年			2				
		スポーツ指導理論・実習Ⅱ（応用）	実習	2	通年			2				
		スポーツ指導理論・実習Ⅲ（発展）	実習	3	通年			2				
		スポーツ指導理論・実習Ⅳ（実践）	実習	4	通年			2				
		キャンプ実習	実習	1	前期		1					※1
		ダンスⅠ（基礎）	実習	2	前期		1					※2
		バスケットボールⅠ（基礎）	実習	2	前期		1		1			※2
		剣道Ⅰ（基礎）	実習	2	前期		1			1		※2
		柔道Ⅰ（基礎）	実習	2	前期		1				※2	
		サッカー	実習	2	後期		1		1		※2	
		ソフトボール	実習	2	後期		1		1		※2	
		ラグビー	実習	2	後期		1		1		※2	
		バスケットボールⅡ（応用）	実習	2	後期		1				※2	
		剣道Ⅱ（応用）	実習	2	後期		1				※2	
		柔道Ⅱ（応用）	実習	2	後期		1				※2	
		陸上Ⅱ（応用）	実習	2	後期		1				※2	
		バレーボールⅠ（基礎）	実習	2	後期		1		1		※2	
		ハンドボールⅠ（基礎）	実習	2	後期		1		1		※2	
		ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ	演習	2	通年			2			※2 サッカー、ソフトボール、ダンス、 ラグビー、器械運動、バスケットボー ルⅠ（基礎）、バスケットボールⅡ（応 用）、剣道Ⅰ（基礎）、剣道Ⅱ（応用）、 柔道Ⅰ（基礎）、柔道Ⅱ（応用）、陸上 Ⅰ（基礎）、陸上Ⅱ（応用）、バレー ボールⅠ（基礎）、バレーボールⅡ（応 用）、ハンドボールⅠ（基礎）、ハンド ボールⅡ（応用）から1科目以上選択	
		ハンドボールⅡ（応用）	実習	3	前期		1					
		バレーボールⅡ（応用）	実習	3	前期		1		1			
		ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅲ	演習	3	通年			2				
		競技スポーツパフォーマンス実習Ⅲ	実習	3	通年			2				
		ゼミナールⅠ（基礎）	演習	3	通年	4						
		ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅳ	演習	4	通年			2				
		競技スポーツパフォーマンス実習Ⅳ	実習	4	通年			2				
		ゼミナールⅡ（応用）	演習	4	通年	4						
		卒業研究	演習	4	通年			4				
		(小計36科目)	36	—	—	8	20	29	7	1		
コア科目	イン ター ン シ ッ プ	海外研修	実習	1	通年			1				
		インターンシップ	実習	3	通年			2				
		(小計2科目)	2	—	—	0	0	3	0		0	
		合計(63科目)	63	—	—	8	20	79	9		1	
その他科目	他学部・他学科科目											
	他大学科目											
合計(137科目)			137	—	—	74	72	161				

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		11	1

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<次世代教育学部 こども発達学科 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数			実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	次世代教育学	次世代教育学	講義	1	前期	2					6単位 選択必修
		(小計1科目)	1	—	—	2	0	0	0	0	
	保育・幼児教育の基礎理論	教育の思想と原理	講義	1	前期	2					
		教職入門	講義	1	後期	2					
		保育原理	講義	1	前期	2				2	
		保育者論	講義	1	後期	2					
		社会的養護Ⅰ	講義	2	前期	2					
		社会的養護Ⅱ	演習	2	後期			2			
		教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	2	前期	2					
		(小計7科目)	7	—	—	12	0	2	0	2	
	保育・幼児教育の基礎技能	器楽演習Ⅰ	演習	1	後期			2		2	
		図画工作	演習	1	後期			1			
		器楽演習Ⅱ	演習	2	前期			2		2	
		(小計3科目)	3	—	—	0	0	5	0	4	
	領域・基礎科目等に関する	幼児と健康	講義	1	後期		2				
		幼児と言葉	講義	1	後期		2				
		幼児と人間関係	講義	1	後期		2				
		幼児と環境	講義	1	前期		2				
		幼児と表現	講義	1	前期		2				
		(小計5科目)	5	—	—	0	10	0	0	0	
	合計(16科目)		16	—	—	14	10	7	0	6	
コア科目	子どもの発達に関する領域	教育心理学	講義	1	前期	2					
		子ども家庭支援の心理学	講義	3	前期	2					
		子どもの理解と援助	演習	3	後期	2				2	
		発達心理学	講義	2	後期	2					
		こども心理学	演習	3	後期			1			
		教育社会学	講義	3	後期	2				2	
		特別支援教育論	講義	3	後期	2					
		(小計7科目)	7	—	—	12	0	1	0	4	
	保育・幼児教育に関する領域	社会福祉学	講義	1	前期			2			
		子どもの保健	講義	1	前期			2			
		子ども家庭福祉	講義	1	後期			2			
		保育内容総論	演習	2	前期			2			
		障害児保育	演習	2	前期			2			
		保育内容「環境」指導法	演習	2	前期	2					
		保育内容「身体表現」指導法	演習	2	前期	2					
		保育内容「人間関係」指導法	演習	2	後期	2					
		保育内容「言葉」指導法	演習	2	後期	2					
		保育内容「健康」指導法	演習	2	前期	2					
		保育内容「造形表現」指導法	演習	2	後期	2					
		保育内容「音楽表現」指導法	演習	2	後期	2					
		乳児保育Ⅰ	講義	2	後期	2					
		子ども子育て教育相談	演習	3	前期	2					
		子どもの食と栄養	演習	3	後期			2			
		子ども家庭支援論	講義	3	前期			2			
		乳児保育Ⅱ	演習	3	前期			2			
		教育課程論	講義	2	後期	2					
		(小計18科目)	18	—	—	20	0	16	0	0	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<次世代教育学部 こども発達学科 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数			実務経験のある教員 等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	保育・幼児教育実践に関する領域	ニュージーランド保育	演習	1	後期			1			
		保育実習指導ⅠB(施設)	演習	2	前期			1		1	
		保育実習指導ⅠA(保育所)	演習	2	後期			1		1	
		保育実習ⅠA(保育所)	実習	2	集中			2			
		保育実習ⅠB(施設)	実習	2	集中			2			
		学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中			1			
		こども英語指導法	演習	3	前期			1			
		こどもスポーツ指導法	演習	3	前期			1			
		保育実習指導Ⅱ(保育所)	演習	3	集中			1		1	
		保育実習Ⅱ(保育所)	実習	3	集中			2			
		保育実習指導Ⅲ(施設)	演習	3	集中			1			
		保育実習Ⅲ(施設)	実習	3	集中			2			
		教育実習事前・事後指導(幼稚園)	実習	3・4	通年			1		1	
		教育実習Ⅰ(幼稚園)	実習	3・4	集中			2			
		教育実習Ⅱ(幼稚園)	実習	3・4	集中			2			
		教職実践演習	演習	4	後期			2			
	(小計16科目)	16	—	—	0	0	23	0	4		
	インターンシップ	国際交流実習Ⅰ(基礎)	実習	1・2・3	前期			1			
		国際交流実習Ⅱ(応用)	実習	1・2・3	後期集中			1			
		海外研修	実習	1・2・3	集中			1			
		インターンシップ	実習	3	集中			2			
		(小計4科目)	4	—	—	0	0	5	0	0	
	ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4					
		ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4					
		卒業研究	演習	4	通年			4			
		(小計3科目)	3	—	—	8	0	4	0	0	
	合計(48科目)		48	—	—	40	0	49	0	8	
その他科目		他学部・他学科科目									
		他大学科目									
合計(116科目)		116	—	—	73	10	137				

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		0	14

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜次世代教育学部 教育経営学科〔小学校教育専攻〕 教育課程＞【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	次 育世 学代	次世代教育学	講義	1	通年	2			2	
		(小計1科目)	1	—	—	2	0	0	2	
	教育・指導に関する領域	教育の思想と原理	講義	1	前期	2				
		教職入門	講義	1	後期		2			
		器楽演習Ⅰ	演習	2	前期		2			
		教育課程論	講義	2	前期		2			
		総合的な学習の時間の指導法	講義	2	後期		2			
		特別活動の指導法	講義	2	後期		2			
		生徒指導・進路指導論	講義	2	後期		2			
		器楽演習Ⅱ	演習	2	後期		2			
		道德教育の理論及び指導法	講義	3	前期		2			
		教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	2	前期		2			
		特別支援教育論	講義	2	前期		2			
		自立活動実践論	講義	3	後期		2			
		(小計12科目)	12	—	—	2	22	0	0	
	教科等に関する領域	言葉の理解	講義	1	前期		2			
		数の理解	講義	1	前期		2			
		英語の理解	講義	1	前期		2			
		自然の理解	講義	1	後期		2			
		社会の理解	講義	1	後期		2		2	
		生活の理解	演習	2	前期		2			
		音楽の理解	演習	2	前期		2			
		美術の理解	演習	2	前期		2		2	
		運動・健康の理解	演習	2	前期		2			
		衣・食・住の理解	講義	2	後期		2			
		(小計10科目)	10	—	—	0	20	0	4	
	日本語教育に関する領域	日本語教育概論Ⅰ	講義	2	後期		2			
		日本語学Ⅰ	講義	2	後期		2			
		日本語教育概論Ⅱ	講義	3	前期		2			
		日本語学Ⅱ	講義	3	前期		2			
		言語学	講義	3	前期		2			
		社会言語学	講義	3	前期		2			
		(小計6科目)	6	—	—	0	12	0	0	
	学教育に関する領域	社会学概論	講義	2	後期		2			
		社会調査法	講義	3	前期		2			
		(小計2科目)	2	—	—	0	4	0	0	
	合計(30科目)		31	—	—	4	58	0	6	
コア科目	心理・社会の領域	教育心理学	講義	1	前期	2				
		発達心理学	講義	2	前期		2			
		教育の諸問題	講義	3	後期		2			
		地域の教育と文化	講義	4	後期		2			
		(小計4科目)	4	—	—	2	6	0	0	
	教育経営・学級経営に関する領域	教育評価	講義	2	前期		2			
		教育相談(初等)	講義	2	前期		2			
		教育社会学	講義	3	後期		2			
		学校経営と学校図書館	講義	4	前期		2		2	学校図書館司書教諭免許の資格科目
		学校図書館メディアの構成	講義	4	前期		2		2	学校図書館司書教諭免許の資格科目
		読書と豊かな人間性	講義	4	前期		2		2	学校図書館司書教諭免許の資格科目
		学習指導と学校図書館	講義	4	後期		2		2	学校図書館司書教諭免許の資格科目
		情報メディアの活用	講義	4	後期		2			学校図書館司書教諭免許の資格科目
		(小計8科目)	8	—	—	0	16	0	8	
	教育実践の領域	表現教育アウトリーチ教育実習	演習	2	前期		2			
		国語科教育法	講義	2	前期		2			
		算数科教育法	講義	2	前期		2			
		体育実技の指導法	演習	2	前期		2			
		社会科教育法	講義	2	後期		2			
		理科教育法	講義	2	後期		2		2	
		理科実験の指導法Ⅰ(理科教師塾)	演習	2	後期		2			
		生活科教育法	講義	3	前期		2			
		家庭科教育法	講義	3	前期		2			
		体育科教育法	講義	3	前期		2			
		理科実験の指導法Ⅱ(理科教師塾)	演習	3	前期		2			
		音楽科教育法	講義	3	後期		2			
		図画工作科教育法	講義	3	後期		2		2	
		小学校英語科教育法	講義	3	後期		2			
		教育実践学(青年教師塾)	演習	4	後期		2			
		(小計15科目)	15	—	—	0	30	0	4	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<次世代教育学部 教育経営学科〔小学校教育専攻〕 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考	
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門		
コア科目	特別支援教育の領域	特別支援教育	講義	1	後期		2				
		特別支援教育総論	講義	1	後期		2				
		知的障害児の心理・生理・病理	講義	2	前期		2				
		肢体不自由児の心理・生理・病理	講義	2	後期		2				
		病弱児の心理・生理・病理	講義	2	前期		2				
		知的障害児教育Ⅰ	講義	2	前期		2				
		知的障害児教育Ⅱ	講義	2	後期		2				
		発達障害児教育総論	講義	2	後期		2				
		肢体不自由児教育	講義	3	後期		2				
		病弱児教育	講義	3	後期		2				
		重複障害児教育総論	講義	3	前期		2				
		障害児教育相談と心理アセスメント	講義	3	前期		2				
		視覚障害児教育論	講義	4	前期		2				
		聴覚障害児教育論	講義	4	前期		2				
		(小計14科目)	14	—	—	0	28	0	0		
	実践日本語領域教育	日本語教授法Ⅰ	講義	3	後期		2			日本語教師の資格科目	
		日本語評価法	講義	3	後期		2			日本語教師の資格科目	
		日本語教授法Ⅱ	講義	4	前期		2			日本語教師の資格科目	
		(小計3科目)	3	—	—	0	6	0	0		
	その他の教育経営・領域	音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)	実習	1	通年集中		2				
		音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)	実習	2	通年集中		2				
		音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)	実習	3	通年集中		2				
		音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)	実習	4	通年集中		2				
		(小計4科目)	4	—	—	0	8	0	0		
	教育実践	キャンプ実習	実習	2	集中		1			日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目	
		学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中		1				
		介護等体験実習	実習	2・3・4	集中		1				
		フィールドワーク入門	実習	2・3・4	集中		1				
		教育実習事前・事後指導(小学校)	実習	3・4	通年		1		1		
		教育実習Ⅰ(小学校)	実習	3・4	集中		2				
		教育実習Ⅱ(小学校)	実習	3・4	集中		2				
		日本語教育演習Ⅰ	演習	4	前期		2				
		日本語教育実習Ⅰ	実習	4	前期		1				
		日本語教育演習Ⅱ	演習	4	後期		2				
		日本語教育実習Ⅱ	実習	4	後期		1				
		教職実践演習	演習	4	後期		2				
		特別支援教育実習事前・事後指導	実習	3・4	通年		1				
		特別支援教育実習	実習	3・4	後期		2				
		(小計14科目)	14	—	—	0	20	0	1		
		インターンシップ	国際交流実習Ⅰ(基礎)	実習	1・2・3	前期		1			
			国際交流実習Ⅱ(応用)	実習	1・2・3	後期集中		1			
			海外研修	実習	1・2・3	集中		1			
	インターンシップⅠ		実習	3	集中		1				
	フィールドラーニングⅠ		演習	3	集中		2				
	インターンシップⅡ		実習	4	集中		1				
	フィールドラーニングⅡ		演習	4	集中		2				
	(小計7科目)		7	—	—	0	9	0	0		
	ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4					
		ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4					
		卒業研究	演習	4	通年集中	4					
		(小計3科目)	3	—	—	12	0	0	0		
	合計(72科目)		72	—	—	14	123	0	13		
その他科目		他学部・他学科科目									
		他大学科目									
合計(155科目)		155	—	—	37	262					

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		0	19

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜次世代教育学部 教育経営学科〔中高英語教育専攻〕 教育課程＞【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	次世代教育学	次世代教育学	講義	1	通年	2			2	
		(小計1科目)	1	—	—	2	0	0	2	
	教育・指導に関する領域	教育の思想と原理	講義	1	前期	2				
		教職入門	講義	1	後期		2			
		教育課程論	講義	2	前期		2			
		総合的な学習の時間の指導法	講義	2	後期		2			
		特別活動の指導法	講義	2	後期		2			
		生徒指導・進路指導論	講義	2	後期		2			
		道德教育の理論及び指導法	講義	3	前期		2			
		教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	講義	2	前期		2			
		特別支援教育論	講義	2	前期		2			
		(小計9科目)	9	—	—	2	16	0	0	
	英語に関する領域	英語文学	講義	1	前期		2			
		異文化コミュニケーション論	講義	1	前期		2		2	
		実践英文法(基礎)	講義	1	前期		2			
		英語文学史	講義	1	後期		2			
		実践英文法(応用)	講義	1	後期		2		2	
		リーディング・スキル(基礎)	講義	1	後期		2		2	
		4技能統合型英語Ⅰ(基礎)	講義	1	後期		2			
		4技能統合型英語Ⅱ(応用)	講義	2	後期		2			
		英語学概論	講義	2	前期		2			
		比較文化論	演習	2	前期		2		2	
		英語文法	講義	2	後期		2		2	
		リーディング・スキル(応用)	講義	2	後期		2		2	
		スピーキング・スキル	演習	2	前期		2			
		上級英語文法	講義	3	前期		2		2	
		ライティング・スキル	講義	3	後期		2			
		リーディング・スキル(実践)	講義	3	後期		2			
		上級オーラル・コミュニケーションⅠ	演習	3	後期		2			
		上級オーラル・コミュニケーションⅡ	演習	4	後期		2			
		(小計18科目)	18	—	—	0	36	0	14	
	日本語に関する領域	日本語教育概論Ⅰ	講義	2	後期		2			日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
		日本語学Ⅰ	講義	2	後期		2			
		日本語教育概論Ⅱ	講義	3	前期		2			
		日本語学Ⅱ	講義	3	前期		2			
		言語学	講義	3	前期		2			
		社会言語学	講義	3	前期		2			
		(小計6科目)	6	—	—	0	12	0	0	
	に教育 域する 社会 領学	社会学概論	講義	2	後期		2			
		社会調査法	講義	3	前期		2			
		(小計2科目)	2	—	—	0	4	0	0	
	合計(33科目)		36	—	—	4	68	0	16	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜次世代教育学部 教育経営学科〔中高英語教育専攻〕 教育課程＞【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	心理 領域・社会 の	教育心理学	講義	1	前期	2				学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目 学校図書館司書教諭免許の資格科目
		発達心理学	講義	2	前期		2			
		教育の諸問題	講義	3	後期		2			
		地域の教育と文化	講義	4	後期		2			
		(小計4科目)	4	—	—	2	6	0	0	
	教育経営・学級経営に 関する領域	教育評価	講義	2	前期		2			
		教育相談(中等)	講義	2	後期		2			
		教育社会学	講義	3	後期		2			
		学校経営と学校図書館	講義	4	前期		2		2	
		学校図書館メディアの構成	講義	4	前期		2		2	
		読書と豊かな人間性	講義	4	前期		2		2	
		学習指導と学校図書館	講義	4	後期		2		2	
		情報メディアの活用	講義	4	後期		2			
		(小計8科目)	8	—	—	0	16	0	8	
	英語教育実践の 領域	英語科教育法Ⅰ(基礎)	講義	2	前期		2		2	
		英語科教育法Ⅱ(応用)	講義	2	後期		2			
		英語のリズムとイントネーション	講義	1	後期		2			
		英語科教育法Ⅲ(発展)	講義	3	前期		2			
		英語科教育法Ⅳ(実践)	講義	3	後期		2			
		第二言語習得論	講義	3	後期		2			
		英語教授法特論	講義	3	前期		2			
		(小計7科目)	7	—	—	0	14	0	2	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<次世代教育学部 教育経営学科〔中高英語教育専攻〕 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	実践日本語領域育	日本語教授法Ⅰ	講義	3	後期		2			日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
		日本語評価法	講義	3	後期		2			
		日本語教授法Ⅱ	講義	4	前期		2			
		(小計3科目)	3	—	—	0	6	0	0	
	その他の教育経営・領域	音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)	実習	1	通年集中		2			
		音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)	実習	2	通年集中		2			
		音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)	実習	3	通年集中		2			
		音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)	実習	4	通年集中		2			
		(小計4科目)	4	—	—	0	8	0	0	
	教育実践	キャンプ実習	実習	2	集中		1			日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目 日本語教師の資格科目
		学校支援ボランティア	実習	2・3・4	集中		1			
		介護等体験実習	実習	2・3・4	集中		1			
		教育実習事前・事後指導(英語)	実習	3・4	通年		1		1	
		教育実習Ⅰ(中学校・高等学校)	実習	3・4	集中		2			
		教育実習Ⅱ(中学校)	実習	3・4	集中		2			
		日本語教育演習Ⅰ	演習	4	前期		2			
		日本語教育実習Ⅰ	実習	4	前期		1			
		日本語教育演習Ⅱ	演習	4	後期		2			
		日本語教育実習Ⅱ	実習	4	後期		1			
		教職実践演習	演習	4	後期		2		2	
		(小計11科目)	11	—	—	0	16	0	3	
	インターンシップ	国際交流実習Ⅰ(基礎)	実習	1・2・3	前期		1			
		国際交流実習Ⅱ(応用)	実習	1・2・3	後期集中		1			
		海外研修	実習	1・2・3	集中		1			
		インターンシップⅠ	実習	3	集中		1			
		フィールドラーニングⅠ	演習	3	集中		2			
		インターンシップⅡ	実習	4	集中		1			
		フィールドラーニングⅡ	演習	4	集中		2			
		(小計7科目)	7	—	—	0	9	0	0	
	ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4				
		ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4				
		卒業研究	演習	4	通年集中	4				
		小計(3科目)	3	—	—	12	0	0	0	
	合計(47科目)		47	—	—	14	75	0	13	
その他科目		他学部・他学科科目								
		他大学科目								
合計(135科目)			135	—	—	37	224			

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		0	29

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜経済経営学部 現代経営学科 教育課程＞【2025年度入学生対象】											
科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考	
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門		
専門基礎科目	経済経営領域	社会調査法	講義	1	前期		2				
		公共経営論	講義	1	前期		2		2		
		経営学概論	講義	1	前期	2					
		経済学概論	講義	1	前期	2			2		
		マーケティング総論	講義	1	前期		2				
		プロジェクト・ゼロ	講義	1	前期		2				
		経済数学入門	講義	1	前期		2				
		簿記入門	講義	1・2	前期		2		2		
		現代経営論	講義	1	後期		2				
		統計学基礎	講義	2	前期		2				
		ミクロ経済学	講義	1	後期	2			2		
		マクロ経済学	講義	1	後期	2			2		
		SDGs入門	講義	1	後期		2				
		リーダーシップ論	講義	2	前期		2				
		データサイエンス入門	講義	2	後期		2				
		現代企業論	講義	2	後期		2				
		世界経済論	講義	2	後期		2				
		ビジネスデータ分析	講義	2	後期		2				
		ビジネスマナー	講義	2	後期		2				
		スポーツ産業論	講義	2	後期		2				
		プロジェクト研究	演習	2	後期		2				
		公務員と法	講義	3	集中		2		2		
		公務員と法Ⅱ	講義	3	後期		2				
	(小計23科目)	23	—	—	8	38	0	12			
	国際コミュニケーション領域	日本語表現Ⅰ	講義	1	前期		2				IPUNZ単位読替科目 IPUNZ単位読替科目
		総合英語Ⅰ（基礎）	講義	1	前期		2				
		英語表現Ⅰ（基礎）	演習	1	前期		2				
		English SkillsⅠ	演習	1	前期		2				
		TOEIC入門Ⅰ（基礎）	演習	1	前期		2				
		日本語表現Ⅱ	講義	1	後期		2				
		総合英語Ⅱ（応用）	講義	1	後期		2				
		英語表現Ⅱ（応用）	演習	1	後期		2				
		English SkillsⅡ	演習	1	後期		2				
		TOEIC入門Ⅱ（応用）	演習	1	後期		2				
		日本ビジネス事情	講義	1	後期		2				
		総合日本語Ⅰ（基礎）	講義	2	前期		2				
		日本語教育概論Ⅱ	講義	2	前期		2				
		日本語学Ⅱ	講義	2	前期		2				
		言語学	講義	2	前期		2				
		社会言語学	講義	2	前期		2				
		日本語教育概論Ⅰ	講義	2	後期		2				
		日本語学Ⅰ	講義	2	後期		2				
		文章作成	講義	2	後期		2				
		総合日本語Ⅱ（応用）	講義	2	後期		2				
		(小計20科目)	20	—	—	0	40	0	0		
		合計(46科目)		43	—	—	8	78	0		

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜経済経営学部 現代経営学科 教育課程＞【2025年度入学生対象】											
科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考	
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門		
コア科目	総合経営学	経営戦略論	講義	2	前期		2				
		企業経営実践論Ⅰ	講義	2・3	前期		2				
		経営組織論	講義	2	後期		2				
		ビジネス特別講義Ⅰ	講義	2・3	後期		2				
		ビジネス特別講義Ⅱ	講義	2	後期		2				
		環境経済学	講義	2	前期		2				
		中小企業論	講義	3	前期		2				
		人的資源論	講義	3	前期		2				
		国際経営論	講義	3	前期		2				
		企業経営実践論Ⅱ	講義	3・4	前期		2				
		ベンチャー企業論	講義	3	後期		2				
		経営情報論	講義	3	後期		2				
		異文化コミュニケーション	講義	1	後期		2				
		地域政策論	講義	1	後期		2				
		応用マクロ経済学	講義	2	前期		2				
		応用ミクロ経済学	講義	2	前期		2				
		国際経済学	講義	2	後期		2				
		財政学	講義	2	後期		2				
		公共経済学	講義	2	後期		2				
		経済政策論	講義	3	前期		2				
		金融論	講義	3	前期		2				
		流通論	講義	1	後期		2				
		消費者行動論	講義	2	前期		2				
		マーケティング特論	講義	2	前期		2				
		マーケティングリサーチ	講義	2	後期		2				
		ビジネス心理学	講義	2	後期		2				
		労働経済学	講義	2	後期		2				
		会社法	講義	3	前期		2				
		経済情報処理	講義	3	前期		2				
		情報分析論	講義	3	後期		2				
		ブランド戦略論	講義	3	後期		2				
		行動経済学	講義	3	集中		2				
			(小計32科目)	32	—	—	0	64	0	0	
		スポーツ ビジネス	スポーツ経営学入門	講義	1	後期		2		2	
			スポーツイベント論	講義	2	前期		2			
			スポーツメディア論	講義	2	前期		2			
			スポーツ施設論	講義	2	前期		2			
			スポーツマーケティング論	講義	3	前期		2		2	
			スポーツマネジメント実践論	講義	3	前期		2			
			スポーツマネジメント演習	講義	3	後期		2			
		(小計7科目)	7	—	—	0	14	0	4		
		公共経営	公共経営セミナー	講義	1	後期		2			
			法学概論	講義	1	前期		2			
			民法Ⅰ	講義	1	後期		2			
			民法Ⅱ	講義	2	前期		2			
			キャリアマネジメントⅠ	講義	2	後期		2			
	行政学		講義	2	後期		2				
	行政法Ⅰ		講義	2	後期		2				
	行政法Ⅱ		講義	3	前期		2				
	キャリアマネジメントⅡ		講義	3	前期		2				
	地方自治論		講義	3	前期		2				
	キャリアマネジメントⅢ		講義	3	後期		2				
	税法		講義	3	後期		2				
	キャリアマネジメントⅣ		講義	4	通年		2				
	(小計13科目)	13	—	—	0	26	0	0			
	会計	簿記演習	演習	1	後期		2				
		工業簿記	講義	1	後期		2				
		簿記論Ⅰ	講義	1	前期		2				
		簿記論Ⅱ	講義	1	後期		2				
		会計演習Ⅰ	講義	1	後期		2				
		原価計算	講義	2	前期		2				
		財務会計	講義	2	前期		2				
		管理会計	講義	2	後期		2				
		資格検定対策Ⅲ(簿記系)	演習	2	前期		2				
		財務諸表論Ⅰ	講義	2	前期		2				
		財務諸表論Ⅱ	講義	2	後期		2				
		会計演習Ⅱ	講義	2	前期		2				
		財務諸表分析	講義	3	前期		2				
		小計(13科目)	13	—	—	0	26	0	0		

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜経済経営学部 現代経営学科 教育課程＞【2025年度入学生対象】										
科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	キャリア形成	現代経営実践演習基礎Ⅰ	演習	1	前期		2			
		資格検定対策Ⅴ (ICTスキル系)	演習	1	前・後		2		2	
		現代経営実践演習基礎Ⅱ	演習	1	後期		2			
		経済学特講Ⅰ	講義	1	前期		2			
		経営学特講Ⅰ	講義	1	後期		2			
		経済学特講Ⅱ	講義	2	前期		2			
		経営学特講Ⅱ	講義	2	後期		2			
		資格検定対策Ⅰ (語学系)	演習	1・2	前期		2		2	
		資格検定対策Ⅱ (情報系)	演習	1・2	後期		2			
		フィールドワーク	実習	1・2	前・後		1			
		国際交流実習Ⅰ (基礎)	実習	1・2・3	前期		1			
		国際交流実習Ⅱ (応用)	実習	1・2・3	後期		1			
		海外研修	実習	1・2・3・4	前期		1			
		現代経営実践演習基礎Ⅲ	演習	2	前期		2			
		公衆衛生学	講義	2	前期		2			
		運動生理学	講義	2	前期		2			
		解剖生理学	講義	2	前期		2			
		資格検定対策Ⅳ (ビジネス系)	演習	2	前期		2			
		インターンシップⅠ	演習	3	前期		2			
		インターンシップⅡ	演習	3	通年		4			
		スポーツバイオメカニクス	講義	2	後期		2			
		救急処置	演習	2	集中		2			
		特別演習Ⅲ	演習	3・4	通年		4			
		日本語教授法Ⅱ	講義	3	前期		2			
		日本語教育演習Ⅰ	演習	3	前期		2			
		日本語教育実習Ⅰ	実習	3	前期		1			
		経済学特講Ⅲ	講義	3	前期		2			
		経営学特講Ⅲ	講義	3	後期		2			
		経済学特講Ⅳ	講義	4	前期		2			
		経営学特講Ⅳ	講義	4	後期		2			
		労働衛生学	講義	3	前期		2			
		健康管理とスポーツ医学	講義	3	後期		2			
		日本語教授法Ⅰ	講義	3	後期		2			
		日本語評価法	講義	3	後期		2			
		日本語教育演習Ⅱ	演習	4	後期		2			
		日本語教育実習Ⅱ	実習	4	後期		1			
		(小計36科目)	36	—	—	0	70	0	4	
		ゼミナール	ゼミナールⅠ (基礎)	演習	3	通年	4			
			ゼミナールⅡ (応用)	演習	4	通年	4			
			卒業研究	演習	4	通年		4		
			(小計3科目)	3	—	—	8	4	0	
		合計(104科目)		104	—	—	8	204	0	
その他科目	他学部・他学科科目									
	他大学科目									
合計(199科目)			199			16	282			

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		—	20

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜国際経済経営学部 国際経済経営学科 教育課程＞【2025年度入学生対象】										
科目区分		授業科目の名称	授業 種別	配当		単位数		実務経験のある教員 等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
教養科目	言語・文化 領域	多文化共生のための異文化理解	講義	2	後期		2			
		英語Ⅰ	演習	1	前期	2			2	
		英語Ⅱ	演習	1	後期		2		2	
		英語Ⅲ	演習	2	前期		2			
		英語Ⅳ	演習	2	後期		2			
		(小計5科目)	5	—	—	2	8	0	4	
	汎用的 技能 領域	コンピュータリテラシーⅠ	演習	1	前期	2				
		コンピュータリテラシーⅡ	演習	1	後期	2				
		コンピュータリテラシーⅢ	演習	2	前期		2			
		コンピュータリテラシーⅣ	演習	3	前期		2			
		TOEICⅠ	講義	1	前期		2		2	
		TOEICⅡ	講義	1	後期		2		2	
		TOEICⅢ	講義	2	前期		2			
		TOEICⅣ	講義	2	後期		2			
		体育実技Ⅰ	実技	1	前期		1		1	
		体育実技Ⅱ	実技	1	後期		1		1	
		統計学	講義	3	前期		2			
	(小計11科目)	11	—	—	4	16	0	6		
	リベラル アーツ 領域	心理学	講義	1	前期		2			
		コミュニケーションの心理学	講義	1	後期		2			
		人間と法	講義	1	後期		2			
		数学基礎Ⅰ	講義	2	前期		2			
		数学基礎Ⅱ	講義	2	後期		2			
		労働法規	講義	2	前期		2			
		国際関係論	講義	2	前期		2			
		(小計7科目)	7	—	—	0	14	0	0	
	キャリア 領域	基礎ゼミナールⅠ	演習	1	通年	2				
		基礎ゼミナールⅡ	演習	2	通年	2				
		フレッシュマンセミナー	講義	1	通年	2				
		ボランティア活動	演習	1	集中		2			
		キャリアディベロップメントⅠ	講義	2	前期	1				
		キャリアディベロップメントⅡ	講義	2	後期	1				
		キャリアデザインⅠ	講義	3	前期	1				
		キャリアデザインⅡ	講義	3	後期	1				
		キャリアサポート	講義	4	前期		2			
		(小計9科目)	9	—	—	10	4	0	0	
	合計(32科目)		32	—	—	16	42	0	10	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

＜国際経済経営学部 国際経済経営学科 教育課程＞【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
専門基礎科目	経済経営領域	経営学概論	講義	1	前期	2				
		経済学概論	講義	1	前期	2				
		マーケティング総論	講義	1	前期	2				
		簿記入門Ⅰ	講義	1	前期	2			2	
		簿記入門Ⅱ	講義	1	後期	2			2	
		社会調査法	講義	1	前期		2			
		SDGs入門	講義	1	後期		2			
		マクロ経済学	講義	2	前期	2				
		ミクロ経済学	講義	2	後期	2				
		民法Ⅰ（総則）	講義	2	前期		2			
		マーケティングリサーチ	講義	2	後期		2			
		ビジネス心理学	講義	1	後期		2			
		ビジネス特別講義Ⅰ	講義	2	前期		2			
		ビジネス特別講義Ⅱ	講義	2	後期		2			
		ビジネスマナー	講義	2	後期		2			
		プロジェクト研究	演習	2	後期		2			
		（小計16科目）	16	—	—	14	18	0	4	
	国際経済経営領域	アジア太平洋のビジネス環境	講義	1	後期		2			
		地域企業経営論	講義	2	前期		2			
		世界経済論	講義	2	後期		2			
		国際経営論	講義	3	前期		2			
		サービス経済論	講義	3	後期		2			
		アジア経済論	講義	3	後期		2			
		（小計6科目）	6	—	—	0	12	0	0	
	国際コミュニケーション領域	プレゼンテーション技法	講義	2	前期		2			
		比較文化論	講義	2	前期		2			
		韓国語Ⅰ	講義	2	前期		2			
		韓国語Ⅱ	講義	2	後期		2			
		メディアカルチャー論	講義	2	後期		2			
		（小計5科目）	5	—	—	0	10	0	0	
	情報システム領域	VR・AR入門概論	講義	1	前期		2			
		eSports産業概論	講義	1	後期		2			
		ドローンの社会応用と演習	演習	2	前期		2			
		情報科学とAI入門	講義	2	前期		2			
		プログラミング入門（Python）	講義	2	前期		2			
		プログラミング演習Ⅰ（Excel関数とPython）	演習	2	後期		2			
		プログラミング演習Ⅱ（Python）	演習	3	前期		2			
		経営情報論	講義	3	後期		2			
		情報分析論	講義	3	後期		2			
		（小計9科目）	9	—	—	0	18	0	0	
	ホテル・観光領域	ホテル経営Ⅰ	講義	2	前期		2			
		ホテル経営Ⅱ	講義	2	後期		2			
		観光行動論	講義	3	前期		2			
		観光地経営論	講義	3	前期		2			
		（小計4科目）	4	—	—	0	8	0	0	
	合計（40科目）		40	—	—	14	66	0	4	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

<国際経済経営学部 国際経済経営学科 教育課程> 【2025年度入学生対象】

科目区分		授業科目の名称	授業種別	配当		単位数		実務経験のある教員等による授業科目		備 考
				年次	学期	必修	選択	学部共通	学科専門	
コア科目	経営総合領域	簿記演習	演習	1	後期		2			
		流通論	講義	1	後期		2		2	
		消費者行動論	講義	2	前期		2			
		原価計算	講義	2	前期		2			
		財務会計	講義	2	前期		2			
		管理会計	講義	2	後期		2			
		経営組織論	講義	1	後期		2			
		企業経営実践論Ⅰ	講義	2	前期		2			
		企業経営実践論Ⅱ	講義	3	前期		2			
		金融論	講義	3	前期		2			
		マーケティング戦略論	講義	1	後期		2			
		会社法Ⅰ	講義	2	前期		2			
		会社法Ⅱ	講義	2	後期		2			
		民法Ⅱ(債権)	講義	2	後期		2			
		ベンチャー企業論	講義	3	後期		2			
		経営戦略論	講義	1	後期		2			
		企業取引法	講義	3	後期		2			
		税法	講義	3	後期		2			
		経営財務入門	講義	2	後期		2			
		ブランド戦略論	講義	2	後期		2			
		(小計20科目)	20	—	—	0	40	0	2	
	情報システム領域	情報社会論	講義	2	後期		2			
		情報倫理と情報セキュリティ	講義	2	後期		2			
		メディア・リテラシー	講義	2	前期		2			
		デジタル・メディア論	講義	3	後期		2			
		情報産業と職業・起業	講義	3	前期		2			
		統計学入門(統計とデータ利用)	講義	1	後期		2			
		データサイエンス入門	講義	2	前期		2			
		ビジネスデータ分析	講義	3	前期		2			
		(小計8科目)	8	—	—	0	16	0	0	
	ホテル・観光・ホスピタリティ領域	ホスピタリティ論	講義	1	前期		2		2	
		ホスピタリティ・マネジメント論	講義	1	後期		2		2	
		観光産業論	講義	2	前期		2			
		サービスビジネス実務論Ⅰ	講義	2	前期		2			
		サービスビジネス実務論Ⅱ	講義	2	後期		2			
		ホテルアセットマネジメント論	講義	2	後期		2			
		ホテル・ブライダル総合演習	演習	2	後期		2			
		旅行業経営実務	講義	2	後期		2			
		サービス産業実務実習Ⅰ	実習	3	前期		1			
		サービス産業実務実習Ⅱ	実習	3	後期		1			
		ホスピタリティ管理会計論	講義	3	後期		2			
		ラグジュアリー論	講義	3	後期		2			
		(小計12科目)	12	—	—	0	22	0	4	
	キャリア形成	現代経営実践演習基礎Ⅰ	演習	1	前期		2			
		現代経営実践演習基礎Ⅱ	演習	1	後期		2			
		現代経営実践演習基礎Ⅲ	演習	2	前期		2			
		フィールドワーク	実習	1・2	前・後		1			
		海外研修	実習	1・2・3・4	前期		1			
		資格検定対策Ⅰ(語学系)	演習	1・2	前期		2			
		資格検定対策Ⅱ(情報系)	演習	1・2	後期		2			
		資格検定対策Ⅲ(簿記系)	演習	2	前期		2			
		資格検定対策Ⅳ(ビジネス系)	演習	2	前期		2			
		資格検定対策Ⅴ(ICTスキル系)	演習	2	前・後		2			
		インターンシップ(企業)Ⅰ	実習	2	前・後		2			
		インターンシップ(企業)Ⅱ	実習	2	前・後		2			
		特別講義Ⅰ	講義	3・4	通年		4			
		特別講義Ⅱ	講義	3・4	前期		2			
		特別講義Ⅲ	講義	3・4	後期		2			
		特別演習Ⅰ	演習	3・4	通年		4			
		特別演習Ⅱ	演習	3・4	通年		4			
		特別演習Ⅲ	演習	3・4	通年		4			
		(小計18科目)	18	—	—	0	42	0	0	
	ゼミナール	ゼミナールⅠ(基礎)	演習	3	通年	4				
		ゼミナールⅡ(応用)	演習	4	通年	4				
		卒業研究	演習	4	通年		4			
		(小計3科目)	3	—	—	8	4	0	0	
	合計(61科目)		61	—	—	8	124	0	6	
	合計(133科目)		133			38	232	0	20	

実務経験のある教員等による授業科目単位数	計	学部共通	学科専門
		—	20

科目コード	13101		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	日本国憲法		担当者名	山本 満理子			○		
			実務経験 との関連	県議会議員、裁判所調停委員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、裁判例・通説を前提とした我が国の現行憲法（日本国憲法）の解釈論を中心について検討していく。また、学術的に重要な論点のみならず、各種公務員試験に臨むにあたって最低限必要となる日本国憲法に関する知識や、教員が備えるべき素養としての日本国憲法に関する知識にも配慮した講義を行う。

<授業の到達目標>

- ① 授業で扱った主要なテーマについて、重要な憲法学的知識（基本概念、条文・判例・学説など）を論述することができる。
- ② 各種公務員試験等の本格的対策をするに際して学習を進めやすい素養を獲得している。

<授業の方法>

シラバスの予定に沿い、教科書を参照しながら講義形式で進行する予定ですが、この限りではありません。毎回教科書の指定範囲をあらかじめ通読して臨みましょう。ディスカッションやディベート、Google Classroomを使用した小テストをや振り返りシートやレポート等を行う予定です。

※教科書を指定しますが、他の基本書を持っている学生は相談してください。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッションやディベート、事例研究発表の実施を予定）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・課題レポート・小テスト 50%、定期試験 50%により総合的に成績評価

<教科書>

毛利透（2021年2月）『グラフィック憲法入門 第3版』 新世社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	講義の進行方法や学習方法、評価方法について解説します。
2	日本国憲法とは	憲法の基礎知識と日本国憲法の歴史と構成について
3	国民主権と象徴天皇制	国民主権、象徴天皇制、皇位継承のルール、天皇の権限
4	平和主義	我が国の平和主義の歴史的沿革や意義
5	基本的人権 (1)	基本的人権の尊重
6	基本的人権 (2)	法の下での平等
7	基本的人権 (3)	精神的自由
8	基本的人権 (4)	経済的自由
9	基本的人権 (5)	人身の自由
10	基本的人権 (6)	社会権
11	基本的人権 (7)	参政権・国務請求権
12	統治機構 (1) (2)	国会、内閣
13	統治機構 (3)	裁判所
14	統治機構 (4)	地方自治
15	憲法改正、全体総括	憲法改正についてとこれまでの授業内容の要点およびまとめ

科目コード	13100		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー〔通年〕		担当者名	宮原 舞/畠中 要輔 三垣 雅美/仙波 慎平 江波戸 智希/河野 儀久			○			
			実務経験との関連	担当者の中で、アナウンサー、高等学校教員、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修	

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間渕 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10）「スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル」実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	言語力・文章力の必要性（オンデマンド）
5	環トレ	文章力検定①
6	コミュニティ形成	ニュースポーツ体験
7	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動①	本の要約と図書館利用
9	クラス活動②	図書館利用と本の要約
10	クラス活動③	図書館利用と本の要約③
11	ビブリオバトル	クラス内において本の要約を発表を行う
12	環トレ	文章力検定試験対策
13	環トレ	文章力検定試験対策
14	環トレ	文章力検定試験対策
15	環トレ	文章力検定試験
16	後期にむけて	クラス活動・履修登録・個人面談
17	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く
18	体育イベント運営の方法①	体育イベントの方法とリスクマネジメント①
19	体育イベント運営の方法②	体育イベントの方法とリスクマネジメント②

全学共通・教養科目

20	体育イベントの方法	体育イベントの方法とリスクマネジメント③
21	コミュニティ形成	スポーツレクリエーション計画
22	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
23	クラス間交流	スポーツレクリエーション実行
24	環トレ	文章力検定試験対策
25	プレゼンテーション	スポーツレクリエーションフェス実施報告
26	環トレ	文章力検定試験対策
27	環トレ	文章力検定試験対策
28	環トレ	文章力検定試験対策
29	環トレ	文章力検定試験
30	ゲストスピーカー（講話）	社会人になった自分を描く

科目コード	13200		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	キャリアディベロップメント [通年]		担当者名	小崎 遼介/高橋 章二 宇都宮 浩司/坂本 康輔 田中 耕作/坂本 賢広			○		
			実務経験 との関連	担当者の中で会社員、特別支援学校教員、高等学校教員、柔道整復師としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。
2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。
3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）
3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）

- 5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%

レポート課題 40%

環境レ言語力目標達成 30%

必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

公益財団法人 日本漢字能力検定協会「文章検公式テキスト」

株式会社KEIアドバンス「運動部学生のためのスポーツ探求ことば入門」

<参考書>

吉原恵子他「スタディスキルズ・トレーニング」実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	・授業の内容の理解 ・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・建学の精神について講話を聴いて深める。 ・資格免許について考える
3	クラス対抗チームビルディング	クラス対抗チームビルディングを実施する
4	イベントスキルアップ講座（オンデマンド）	イベントに関して作り方を学ぶ
5	環境レ（言語力を高める）①	文章力検定3級試験の受験を行い、言語力を検証する
6	イベント内容の検討①	イベントを知る
7	イベント内容の検討②	外部講師によるイベント作成方法を学ぶ
8	イベント内容の検討③	SNS投稿について クラス内役割決定②
9	イベント内容の検討④	担当イベント コンセプト検討
10	イベント内容の検討⑤	担当イベント コンセプト発表（クラス内）
11	イベント内容の検討⑥	クラス間 コンセプト発表
12	イベント内容の検討⑦	先輩たちのお話（昨年度のイベントについて）
13	イベント準備①	イベント企画・準備

全学共通・教養科目

14	イベント準備②	イベント内容 中間報告会
15	環トレ（言語力を高める）②	文章力検定模擬試験を実施し、言語力を検証する
16	2年生後期における学びのデザイン	自分の進路を見直し、履修訂正および資格免許を検討する
17	進路別講話①	教員・公務員・企業コースの担当者から話を聞き、自分の進路を決めていく
18	進路別講話②	教員・公務員・企業コースの先輩・卒業生から話を聞き、自分の進路を決めていく
19	人権学習	外部講師による人権学習を行う
20	外部イベントでの活動①	外部イベントを実施する
21	外部イベントでの活動②	振り返り、データのまとめ
22	外部イベントでの活動③	振り返りプレゼンデータ作成
23	外部イベントでの活動④	プレゼンの方法を学ぶ
24	外部イベントでのプレゼンコンテスト①	クラス内発表
25	外部イベントでのプレゼンコンテスト②	クラス間発表
26	ゼミ選択を行う①	ゼミ選びとは何かを学ぶ
27	チームビルディング	クラス間交流
28	ゼミ選択を行②	各ゼミの説明会を行う
29	環トレ（言語力を高める）③	文章力検定最終試験
30	2年を振り返り、3年生を考える	後期学期末集会 / 振り返りを行う

科目コード	14002		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔企業〕		担当者名	佐藤 典子/眞鍋 芳江 鈴木 真理子/本庄 慶樹 濱嶋 幸司			○		
			実務経験との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIは具体的な就活能力の向上につながる授業とする。

<授業の到達目標>

自己分析や学生時代の経験の棚卸ができるようになり、将来のキャリアをデザインをする力が付く。

<授業の方法>

アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招へいしての講義や、クイズや動画も使う。履修者は300名を超えることが想定されるが、毎回前半Aと後半Bに分けて、45分授業を2回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

クイズ、ペア・ワーク、グループ・ワーク、ディスカッションなど。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60%、提出物 40%。フィードバックとして、振り返りのコメントの中から代表的なものを全体で共有することがある。

<教科書>

適宜配布物を提供する。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス シラバス説明、キャリアセンター担当者紹介	前期の授業内容の紹介、ならびにキャリア支援や就活基礎知識についてキャリアセンターから伝える。また現在の就職活動を取り巻く環境についても情報を提供して理解を促す。
2	A. キャリアとは B. 就職活動の支援環境を把握する	就活支援状況ワークや、マッチプラスのワークを活用する。
3	海外で起業した事例から学ぶ	アフリカでチョコレート・ビジネスを起業した外部講師を招聘して、起業の難しさや遣り甲斐について学ぶ。
4	キャリアアンカーと就活の軸	自己理解を進めるワークをオンデマンドで実施する。
5	A. インターンシップとは？ B. リクナビからの情報提供	エントリーの方法やオープンカンパニーについて学ぶ。キャリアアンカーと繋げて考える。
6	業界研究・企業研究ワーク	業界について理解を深める。企業のミッション、ビジョン、バリューについて学ぶ。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
7	ライフプランニング	先週の逆のグループ構成で対面とオンデマンドになる。全体を2つに分けて、たすき掛けの内容となる。人生の必要経費について考える。
8	A. 自己理解ワーク B. 先輩の経験談	ジョハリの窓のワークやIPU先輩の就活体験を聞く。
9	新卒市場について	売り手市場、離職率、ジョブ型雇用について学ぶ。
10	就活プランシート	IPU生のタイプ別就活プランを立てる。
11	A. 就職活動を先輩から学ぶ B. 就活について必要な知識を身につける	4年生パネルディスカッションから就活への理解を深め、ビジネス・マナーについて学ぶ。
12	人生をデザインする	ライフワーク、ライフラインチャートを作成する。
13	業界研究・企業研究	働き方の多様化について学ぶ。ブラック企業についての理解を深める。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる
14	自己分析	先週と逆のグループ構成で対面とオンデマンドとなり、自己PRの作成、棚卸をする。
15	SMART目標の作り方	夏休みの目標設定をする。

科目コード	14002		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔教職〕		担当者名	練 亨 千之/坂根 清貴/奥山 優 安井 正郎/千葉 照久 大崎 卓己/延原 まどか 岩田 清隆/中野 隆重			○		
			実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠは子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を志望する学生が対象である。教員としての働くことの意義や自己理解を深める中で、必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

1. 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。
2. 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。
3. 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明を行う。
- ・課題についてグループディスカッションを行う。
- ・課題についての演習を行う。
- ・レポートの提出。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・テーマについて5、6人のグループに分かれてディスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。
- ・事後課題として授業での学びを振り返り、気づきや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、 受講態度 20%、 講義内での課題等 20%、 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション (キャリアデザインとは・学習のルール・一年間の予定) 学校支援ボランティア	本講座の目的・意義・概要 教員を志望する理由 学校支援ボランティアの意義
2	立ち居振る舞い、教員採用試験の概要、進路調査	社会人としての五つの基本、教員になるための心構え、進路調査
3	学長講話	教員としてのやりがい
4	教育現場の課題①「学力の向上」	学力向上への方策 ＊講話・レポート
5	授業の基礎・基本	授業と板書：板書の文字（チョークを持って書く）
6	講話「生徒指導提要の理解」	現場の実態を踏まえた、児童生徒への接し方
7	教育現場の課題②「いじめ問題の解決」	いじめ問題の現状と課題 ＊講話・グループディスカッション
8	教育現場の課題③「不登校の解消」	不登校の現状と解消への方策 ＊講話・グループディスカッション
9	教育現場の課題④「特別支援教育の充実」	特別支援教育の現状と課題 ＊講話・グループディスカッション
10	教育現場の課題⑤「家庭・地域との連携」	家庭・地域との連携と必要性 ＊講話・グループディスカッション
11	講話 「現場が求める人材」	学校現場の現状と期待される人材 玉野市立荘内中学校生徒との交流
12	キャリア演習「荘内中学校生徒との交流」	・進路選択についての経験談 ・どんな先生を求めているか
13	教員に求められる資質や能力①「信頼される教員」	信頼される教員としての資質 ＊講話・グループディスカッション
14	教員に求められる資質や能力②「授業力の向上」	授業力向上のための取組 ＊講話・グループディスカッション
15	教員になるための取組の成果と課題	教員になるために努力していること 後期に向けての課題 夏季休業中の過ごし方 レポート試験

科目コード	14002		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔健康科学用〕		担当者名	畑島 紀昭			○			
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修	

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題に対してグループワークを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：30%授業中の意見交換：20%授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探索）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業との面談を体験する。
15	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔公務員〕		担当者名	森 利治			○		
			実務経験との関連	担当者の中で民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅠ（公務員）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公務員試験に取り組む姿勢を養い、後期から始まる試験勉強に向けて覚悟を決めさせていく。

<授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。
2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

<授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用に当たっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（10）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（11）	面接試験について（自己分析）
15	公務員試験の概要（12）	面接試験について（自己PR）

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔幼保〕		担当者名	檜 寄 日 佳			○		
			実務経験との関連	幼稚園教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠ〔幼保〕は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育職を選択した意思を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。
2. 自己理解を深め、将来の生き方について考える。
3. 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明
- ・課題についてのグループワーク
- ・課題についての演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

- ・アクティブ・ラーニングの要素有
- ・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、試験30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と見通し	授業の目的・意義・概要
2	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人の探し方
3	社会人のマナー（1）	社会人の身だしなみ、挨拶、立居振舞
4	社会人のマナー（2）	言葉遣い
5	学長講話	働くことの意義と職業選択
6	面接（1）	面接試験の基礎知識、面接準備
7	面接（2）	学生相互の面接練習
8	面接（3）	先輩による面接練習
9	論作文（1）	構成メモと文章の作成（1）
10	論作文（2）	構成メモと文章の作成（2）
11	保育実技（1）	手遊び・集団遊び
12	保育実技（2）	絵本の読み聞かせ、紙芝居
13	保育実技（3）	わらべ歌・弾き歌い
14	前期のまとめ（1）	期末テスト
15	前期のまとめ（2）	期末テストの振り返り長期休業期間の就職活動について

科目コード	14003		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	キャリアデザインⅡ [企業]		担当者名	佐藤 典子/眞鍋 芳江 濱嶋 幸司/大久保 諒 鈴木 真理子/本庄 慶樹			○		
			実務経験 との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必須

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

<授業の到達目標>

業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

<授業の方法>

講義やグループディスカッションなど。毎回1つもしくは2つのテーマを設ける。2つの場合は、AとBの45分程度の授業を続けて実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

各回でアイスブレイクの演習をペアで実施したり、リアルタイムでアンケートに参加・回答したりする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60% 提出物40% 提出物へのフィードバックについてはグーグルクラスルームを活用する。

<教科書>

随時印刷物を配布する。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	A. 初回ガイダンス B. 自分を知る(自己分析)	キャリアデザインIIとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えについてキャリアセンター職員からアドバイスを提供する。また自己分析でさらに自己理解を深める。
2	A. ビジネスマナー、身だしなみ講座 B. スタートアップセミナー	翌年3月1日の就活解禁までのスケジュールを把握し、どのようなスキルをいつまでに身に付けたいかについて知見を得る。ビジネスマナーも習得する。
3	A. インターンシップ報告会 B. 就活エージェントと上手に付き合う	現役3年生がインターンシップの成果を報告する。またエージェントをどのように就活に活用するかを学ぶ。
4	A. OB・OGから学ぶ～転職する時に必要な力 B. 企業研究の方法	卒業生に登壇してもらい、講話を聴く。また企業研究の効果的なやり方を理解する。
5	A. 履歴書を書いてみよう B. 自己PRの書き方	書類選考を通過する履歴書とはどのようなものか。他者と差別化できる志望動機はどのようにして書くのかについて理解を十分に深めてもらい、異なる業界、職種へのエントリーに際しても学生自身がカスタマイズできるレベルにまでスキルが上がることを目指す。
6	A. OB・OGから学ぶ B. ガクチカの書き方(実践)	理解しているようで理解できていないベンチャー企業や大手企業について、そこで働く先輩達からリアルな体験を聞く。学生のうちに力を入れたことをどう効果的に書くかを演習する。
7	A. 一般常識・時事問題を知ろう B. 給与明細の見方、社会保険税金の考え方	時事問題についての関心を高める。また社会人にとって重要項目である「お金」「保険」「税金」にまつわる知識を身に付ける。
8	A. 学生の意向、志向から今の就活を読み解く B. 社会人の先輩から学ぶ大切なこと	履修学生の就活動向をアンケートでリアルタイムで集計し公表、学生の意欲を高める。また担当教員のキャリア形成のストーリーを知ることで長期的なビジョンを持つ。
9	ゲストスピーカーによる講話	社会で活躍する外部講師を呼び学生の視野を広げる。
10	A. 企業研究① B. 企業研究②	各企業で活躍するビジネスパーソンから学ぶ。
11	A. 学長講話 B. 志望動機の書き方	大橋節子学長より「社会に出るにあたって」また「企業就職」について講話頂き、人生において大切なことを学ぶ。
12	A. 人生設計をしよう B. 企業研究おさらい+自己PRブラッシュアップ	長期的な人生設計を学生のうちから試みる。また企業研究や自己PRを更に進める。
13	A. 海外志向を持つ B. 外資系企業で働く	青年海外協力隊の体験を聞き、グローバルな視野を持つ。また本学からは就職実績がまだ少ない外資系企業で働くことについて理解を深める。
14	A. 就活直前モチベーションアップ講座 B. 学内合同企業研究会参加企業の説明	就活を目前に控え、各自のモチベーションを上げる。合同企業研究会に参加して成果を上げるコツを習得する。
15	A. 合同企業説明会の周り方、就活バスツアーについて B. 4年生になっても覚えておくこと	キャリアデザインIIの最終回にあたり、4年生になって覚えておくべき大学での手続きについて学ぶ。あと1か月に迫った解禁日を前に事務的連絡なども含む。

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ〔教職〕		担当者名	練 亨 千之/坂根 清貴/奥山 優 安井 正郎/千葉 照久 大崎 卓己/延原 まどか 岩田 清隆/中野 隆重			○		
			実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、より実践的な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

- 1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。
- 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。
- 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明を行う。
- ・課題についてグループディスカッションを行う。
- ・課題についての演習を行う。・レポートの提出。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

- ・テーマについて5、6人のグループに分かれてディスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。
- ・事後課題として授業での学びを振り返り、気付きや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・学習意欲 20% ・受講態度 20% ・講義内での課題等 20% ・最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員採用試験合格への取組 キャリアデザインの後期の予定 個別面談・学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力 *対策講座について *個別面談・学習進行表について
2	教師に求められる資質や能力③「保護者対応」	保護者に対応するために必要な心構えと力 *講話・グループディスカッション
3	教育課題への対応① 「時事問題への対応」 ～情報モラル教育～	情報モラル教育の理解とその対応 *講話・グループディスカッション
4	出前講座 「学校現場が必要としている教員像～授業づくり～」	主体的・対話的で深い学びの実現 ・広島県教委「ワークショップ」
5	教育課題への対応②「人権尊重の教育」 ～いじめ・児童虐待・LGBT～	人権尊重の教育の基本的な考え方と取組 *講話
6	合格の秘訣を探る①「教採合格者の体験」	教員採用試験合格者の体験発表 *「私はこうして合格した」
7	合格の秘訣を探る②「個人面接・場面指導」	教採における個人・集団面接の概要と留意点 *先輩の個人面接・場面指導
8	合格の秘訣を探る③「模擬授業」	教採における模擬授業の概要と留意点 *先輩の模擬授業
9	合格の秘訣を探る④「集団面接・集団討論」	教採における集団討論等の概要と留意点 *先輩の集団面接・集団討論
10	教育課題への対応③ 「令和の日本型教育について」 ～個別最適な学び、協働的な学びの実現～	個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた取組 *講話
11	講話①「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例 *中学校長の講話
12	講話②「学級集団の育て方」	学級集団づくりについての基本的な考え方と実践事例 *小学校長の講話
13	教育課題への対応④ 「家庭・地域・専門機関等との連携」 ～チーム学校～	チーム学校の体制づくりの必要性 *講話・グループディスカッション
14	教育課題への対応⑤「学校安全」	学校安全の取組の必要性 *講話・グループディスカッション
15	教採に向けた取組の成果と課題	教員採用試験に向けた取組の振り返り来年度に向けての方策春季休業期間の学習 レポート試験

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	キャリアデザインⅡ [健康科学用]		担当者名	畑島 紀昭			○		
			実務経験 との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有。

必要に応じてグループワークを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：30%授業中の意見交換：20%授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保険制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めとした社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	春季休暇ならびに来年度の就職活動に向けたプランを設計する
15	キャリアプランの設計③	自分自身のキャリアプランを他者と共有する

全学共通・教養科目

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ〔公務員〕		担当者名	森 利治			○		
			実務経験との関連	担当者の中で民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることとなりたい職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際との相違を学び、４年生から始まる本試験に向けて仕事の意味を理解した上で試験に臨んでいくことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。
2. 各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対しての覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

<授業の方法>

講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有。

問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験70%、単元別レポート15%、授業に取り組む姿勢15%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどとのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（１）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（１）	消防士の仕事内容（１）
4	実践演習（２）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（２）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（１）	公務員試験合格者の体験談（１）
7	実践演習（３）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（３）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（２）	公務員試験合格者の体験談（２）
10	講話「現場が求める人材」（４）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（３）	公務員試験合格者の体験談（３）
12	講話「現場が求める人材」（５）	自衛官の仕事内容について
13	講話「学長講話」	本試験まであと三か月、追い込み時期を乗り切るために学長先生から学生にメッセージをいただく。
14	講話「現場が求める人材」（６）	市職員の仕事内容について
15	講話「現場が求める人材」（７）	消防士の仕事内容について（２）

全学共通・教養科目

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ〔幼保〕		担当者名	檜 寄 日佳			○		
			実務経験との関連	幼稚園教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠ〔幼保〕は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象である。保育職を選択し、働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育職を選択した意思を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。
2. 自己理解を深め、将来の生き方について考える。
3. 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有。

- ・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20％、課題50％、小テスト30％

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的・意義・概要
2	論作文（1）	原稿用紙の使い方と表記
3	論作文（2）	自己分析シートを活用した自分の強みと課題
4	論作文（3）	保育内容に関する論作文
5	論作文（4）	保育の時事問題にかんする論作文
6	採用情報の探し方	採用情報の探し方、求人票の見方
7	就職説明会、インターンシップへの参加準備	就職説明会・インターンシップの申込、参加準備、マナー、情報の整理
8	合同就職説明会の参加	保育職合同説明会及び保育ICT見本市への参加
9	保育職の仕事とやりがい（1）	公立保育園で働く先輩の講話
10	保育職の仕事とやりがい（2）	私立保育園で働く先輩の講話
11	保育職の仕事とやりがい（3）	児童福祉施設で働く先輩の講話
12	保育職の仕事とやりがい（4）	学童保育で働く先輩の講話
13	採用試験の準備（1）	受験計画の作成
14	採用試験の準備（2）	合格に向けての対策と準備
15	後期のまとめ	最終テスト及び振り返り

科目コード	14001		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	キャリアサポート [企業]		担当者名	佐藤 典子/濱嶋 幸司 本庄 慶樹			○		
			実務経験 との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このキャリアサポート（企業）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している企業就職を希望する学生対象の講義である。

就職活動だけではなく、社会に出てすぐに役立つスキルを習得することもできる。また、履修者それぞれの進路に合わせて、授業内容を選択できるように設定しており、履修者が社会に出るにあたって感じる「課題」をタイムリーに解決できるように構成している。なおこの授業は、進路決定届を提出した時点でオンデマンドに切り替え可能。また、学内で随時行われている企業説明会に参加することで、出席代替えとする。

<授業の到達目標>

- 1) 納得した進路決定をする。
- 2) 実践に役立つプレゼンのスキル、ビジネスマナーの知識を身につける。

<授業の方法>

グループ・ワーク、オンデマンド、学内企業説明会への出席など。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有。

毎回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲・態度 60%、内容理解 40%

<教科書>

随時配布物を配る。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・授業説明	本授業の目的・意義・システムを理解する。
2	企業パンフレットのみかた	企業パンフレットやHPを見て、会社の情報を得る。
3	求人票のみかた	求人票から読み取れる情報を知る。
4	一番入ってみたい企業／気になる企業	オンデマンド回 一番気になる企業の理由などを、フォームで提出。
5	一番気になる企業	第4回の課題をグループに分かれてプレゼン。
6	自己紹介スライド作成①	採用面接のみならず、内定式や入社後の自己紹介で使える面白自己紹介スライドを作成。
7	自己紹介スライド作成②	採用面接のみならず、内定式や入社後の自己紹介で使える面白自己紹介スライドを作成。
8	ビジネスマナー①（書類）	履歴書などだけではなく、内定承諾初などを企業に送る際のカバーレターの作り方、並びに封筒での送り方などを学ぶ。
9	ビジネスマナー②（名刺・席次など）	社会に出てから役に立つビジネスマナーを実施。
10	ビジネスマナー③（電話）	社会に出てから役に立つビジネスマナーを実施。
11	先輩のキャリアを知る	先輩に、進路相談をしてみる。
12	社会人の人間関係	社内における人間関係について考える。
13	福利厚生について	福利厚生に関して知る。
14	多様なキャリアを知る	それぞれのキャリア形成。
15	総論	これまでの振り返りをして学びの総括をする。

科目コード	14001		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート [教職]		担当者名	千葉 昭久/坂根 清貴/奥山 優 安井 正郎/練苧 千之/大崎 卓己 延原 まどか/岩田 清隆/中野 隆重			○		
			実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法についての講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

- ・教師としての基礎知識や学校現場の課題を理解することができる。
- ・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができる。
- ・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができる。

<授業の方法>

講話を通して、課題の提示や説明。課題についてのグループ協議。課題についての演習。Googleクラスルームによる課題管理

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

- ・5, 6人のグループに分かれてテーマに沿ってディスカッションし、意見をまとめてグループごとに発表する。
- ・個人面接や集団面接など、実践に即した演習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20% 受講態度 20% 講義内での課題等 20% 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員採用試験合格に向けて 教員採用試験の事務手続き キャリアサポートの概要	採用試験合格に向けた取り組みについて 提出願書の記入方法や注意事項 調査票の記入・提出 等
2	社会人のマナー 自己PR作成について	立ち振る舞い、服装とあいさつ 自己PR作成のこつ、自己PR作成 自己アピールの仕方
3	自己アピールの仕方 学習進行表	グループで自己アピール演習 学習進行表を基にした情報交換
4	教育現場の課題 1 「いじめ・不登校への対応」 ＜オンデマンド授業＞	いじめ・不登校への対応についての講義 自分に取り組むことについてのレポート
5	学長講話	進路に向けてのメッセージ
6	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方 自分の考えをわかりやすく伝える手立て 集団討論・グループ活動の実施形態
7	集団討論等の攻略法	複数の受験者との討論の進め方 課されるテーマの過去問の分析 ※形態によって自治体別に分かれる
8	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際：現場で起こりうる場面での対処法
9	教育現場の課題 2 「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
10	受験に際しての心構え個人面接の攻略法	一次試験（二次試験）に臨む心構え 聞き手を意識した回答の仕方、IPUに関する質問への回答の仕方
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要、先輩の模擬授業（VTR視聴） 学習指導案の書き方と模擬授業の実際
12	教育現場の課題 3 「主体的・対話的で深い学び」	グループに分かれて集団討論
13	実践に即した面接演習（1）	授業に関する面接対策を中心に 夏期対策講座について
14	実践に即した面接演習（2）	面接の評価の観点を意識した面接の仕方 上手な展開の仕方 面接講座の仕上げ 本講座のまとめをする。
15	まとめ 最終レポート	最終レポートの作成 課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」（90分）

科目コード	14001		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	キャリアサポート〔健康科学 科用〕		担当者名	河野 儀久			○		
			実務経験 との関連	柔道整復師、一般企業経験者としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：面接練習

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内の討論参加度合 30%、講義内での課題遂行度合 30%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る。
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15	まとめ	就職活動を振り返って

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート [公務員]		担当者名	横内 浩平			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」
2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り：集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
9	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
10	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
11	二次試験対策 (4)	集団討論・集団面接等 (4)
12	二次試験対策 (5)	集団討論・集団面接等 (5)
13	二次試験対策 (6)	集団討論・集団面接等 (6)
14	二次試験対策 (7)	集団討論・集団面接等 (7)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート [幼保]		担当者名	檜 寄 日 佳			○		
			実務経験との関連	幼稚園教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

<授業の到達目標>

1. 保育者としての資質や能力を高めることで、保育者として働くことへの意思を明確にする。
2. 保育職に進むために必要な論作文、面接、保育実技などの技術を高め、志望する自治体や法人の採用試験に合格する。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。

- ・アクティブ・ラーニングの要素有
- ・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的と概要
2	合格までの計画	採用情報と求人票の整理、将来を見通した長期計画と短期計画
3	願書の作成	自分の強みを生かした願書の作成
4	願書の郵送	封筒の書き方と願書送付のマナー
5	面接（1）	面接ノートの整理希望自治体、法人の試験傾向と対策
6	面接（2）	集団面接攻略のポイント学生相互の集団面接演習
7	面接（3）	学科教員による集団面接演習
8	面接（4）	個人面接攻略のポイント学生相互の個人面接演習
9	面接（5）	学科教員による個人面接
10	面接（6）	集団討論攻略のポイント学生相互の集団討論演習（1）
11	面接（7）	集団討論演習（2）
12	論作文（1）	保育の時事問題に関する論作文（1）
13	論作文（2）	保育の時事問題に関する論作文（2）
14	学びのまとめ（1）	学びのまとめと振り返り
15	学びのまとめ（2）	合格までの就職活動保育職のキャリア形成

科目コード	21106		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育原理		担当者名	橘高 真紀子			○		
			実務経験との関連	保育士、保育所園長としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育の基本理念・歴史・制度・実践について学び、保育者としての基礎的な知識を身につける。講義およびグループワークを取り入れた授業を行う。

<授業の到達目標>

1. 保育の理念や基本原則を説明できる。
2. 子どもの発達と保育の関係について理解できる。
3. 保育者の役割と求められる資質について考え、自らの姿勢を明確にできる。
4. 保育に関する課題をグループで議論し、考察できる。

<授業の方法>

- ・授業テーマに即したワークやグループディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。
- ・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。
- ・まとめの講義を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション等を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・受講態度、グループディスカッションの参加態度（30%）
- ・リアクションペーパーの提出（適切な着眼点の意見や感想）（30%）
- ・最終レポート（40%）

<教科書>

特になし

<参考書>

- 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
- 「保育所保育指針解説」 フレーベル館
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション	授業計画説明、養護と保育の一体化、保育内容領域、幼児教育保育の社会における役割
2	・保育の理念と概念	0～2歳児について
3	・子どもの発達をふまえた保育①	3～5歳児について
4	・子どもの発達をふまえた保育②	オンデマンド：施設形態、子どもの保育施設での一日（延長保育、一時保育、病児保育等々）、自由保育、一斉保育、縦割り保育、等々
5	・さまざまな幼児教育保育形態	保育所保育指針より：子どもが主体的に関わることのできる環境を保育者が計画的に準備することの重要性について。
6	・環境による保育	保育所保育指針の概要、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿、育みたい資質・能力
7	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づく教育保育	保育計画の必要性、それぞれの計画の役割、評価の方法
8	・PDCAに基づく保育	子育て支援が求められる背景と必要性
9	・子育て支援、連携	保幼小連携の意義や課題
10	・保幼小の連携	保育施設における安全防災対策、子どもの虐待防止と保育
11	・子どもの安全をふまえた保育	保育施設における安全防災対策、子どもの虐待防止と保育
12	保育所保育指針の考え方（５）保育のねらいと内容	・グループごとに前回まとめたものを発表し、質疑応答する
13	・諸外国の保育の思想と歴史②	・グループワーク：グループごとに日本の教育学者、思想家等について調べまとめる
14	・日本の保育の思想と歴史①	・グループごとに前回まとめたものを発表し、質疑応答する
15	・日本の保育の思想と歴史②	・子ども子育て支援制度
		・家庭教育環境の現状と課題（貧困、虐待）
		・保育士のキャリアアップ研修
		・レポートテーマを伝える

科目コード	21400		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	器楽演習 I		担当者名	高崎 展好			○		
			実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、器楽演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること（教職の手引き「教育実習履修内規より」）

<授業の到達目標>

- ① 楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。
- ② ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身につける。
- ③ 歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。
- ④ ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

<授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月）「わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた」環太平洋大学
坪野春枝 著（発行2021年3月15日）「最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付」有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名、フラッシュ読譜演奏
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号、フラッシュ読譜演奏
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ基礎練習課題、フラッシュ読譜演奏
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ちょうちょう」
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「チューリップ」
10	楽典と演習3	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ぶんぶんぶん」
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「こぎつね」
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「おべんとう」
13	楽典と演習6	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「かたつむり」
14	楽典と演習7	音楽理論の復習及び、確認テスト
15	総括・試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、まとめ

科目コード	21401		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	器楽演習Ⅱ		担当者名	高崎 展好／三好 啓子			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせ、授業を行う。

講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。

本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜授業の到達目標＞

- ① 楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。
- ② ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。
- ③ 歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。
- ④ ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。
- ⑤ コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。
- ⑥ 人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き歌い公開実技試験を実施する。

＜授業の方法＞

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせ、授業を行う。

講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。

本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20%、ピアノ弾き歌いレポートリー及びバイエル40%、実技テスト 40%

＜教科書＞

坪野春枝 著（発行2021年3月15日）「最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付」有限会社ケイ・エム・ピーkmp

＜参考書＞

特になし

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い「かたつむり」
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
14	楽典と演習13	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
15	楽典と演習14	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
16	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34210		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	子どもの理解と援助		担当者名	大久保 諒			○		
			実務経験との関連	スクールカウンセラーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、子どもの発達に関する様々な知見を踏まえ、それに基づいた子どもや保護者の理解と援助の在り方を演習形式で学ぶ。第1回に授業の目的や性質を学ぶ。第2回から第5回までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について学ぶ。第6回から第10回までは「子どもを理解する視点」について学ぶ。第11回から第12回までは「子どもを理解する方法」について学ぶ。第13回から第15回までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

<授業の到達目標>

- ① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。
- ② 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
- ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
- ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<授業の方法>

各回の授業は、概ね次の要領で進む。まず、その回の学習内容について、ポイントを提示する。つづいて、その回の学習内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。そして、その回の講義内容について、体験的に学習を深めるための演習課題への取り組みを求める。また、学習内容について、事前学習を促す小課題や、事後的に理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：25%、小課題の成績：25%、学期末レポートの成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

特になし

<参考書>

高嶋景子・砂上史子（編著）（2019/4）「子どもの理解と援助」ミネルヴァ書房

遠藤利彦（編著）（2021/6）「情動発達の理論と支援」金子書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、子どもの理解と支援に必要な観点
2	子どもの実態の理解①	広範な個人差
3	子どもの実態の理解②	生物学的背景に基づく個人差
4	子どもの実態の理解③	社会・文化的背景に基づく個人差
5	子どもの実態の理解④	個人差に配慮した共感や、保育・養護・教育
6	子どもの保護者の理解と支援①	保護者と子どもの相互規定関係、保護者の持つ背景
7	子どもの保護者の理解と支援②	子どもの特徴から保護者が被る影響
8	子どもの集団生活の理解と支援①	子どもの安全の確保、子どもの生活習慣の確立、子どもが身に着けるルール
9	子どもの集団生活の理解と支援②	子どもの遊びや仲間関係を通じた経験
10	環境の変化	家庭生活と園生活の関係
11	子どもを理解する方法①	子どもの観察に関する方法と記録の取り方、評価と省察
12	子どもを理解する方法②	子どもの情報の収集と共有の方法（職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション）
13	子どもの理解に基づく発達援助①	発達の段階や個人差に応じた課題に対する援助
14	子どもの理解に基づく発達援助②	特別な配慮を要する子どもや、その保護者の理解と援助
15	子どもの理解に基づく発達援助③、まとめ	発達の連続性と就学への支援、授業全体の振り返り

科目コード	23202		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育社会学		担当者名	濱嶋 幸司			○		
			実務経験との関連	独立行政法人のアシスタントフェローとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会学的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会学的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を見つけることのできる技術を養う。専門知識だけでなく、事例を用いながら説明する。自分のこれまでの生活を振り返り、視野を広げ、今後の進路に役立つ機会としたい。

<授業の到達目標>

- ① 教育に関する社会的事項（社会や子どもの変化）の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解する。学校をめぐる社会的事項を理解する。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解する。近年の教育政策、教育改革を理解する。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得る。
- ② 現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解する。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解する。教育制度の諸課題の例示ができる。
- ③ 学校経営の観点からの学校や教育行政機関の目的と実際を理解する。学校経営の理念を知る。学校の年間計画と学校評価の方法を理解する。学級経営仕方を理解し、教職員と学校外機関との連携を理解する。
- ④ 学校と地域との連携の意義や方法を理解する。学校と地域との連携の意義や方法に関して学び、その経緯を理解する。
- ⑤ 学校安全への対応を理解する。保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。過去の事例や実情を踏まえ学校の危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性についても理解する。生活安全、交通安全、災害安全及び新たな安全上の課題について、具体的な取り組みを理解する。
- ⑥ その他、教育の社会的な側面の理解を深める。教育現象に対する社会学の見方を学ぶ。

<授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の視聴課題（15%）、リアクション（25%）、最終課題[選択式テストと記述式小レポート]（60%）

<教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

<参考書>

岩永雅也（2019年）『教育社会学概論』放送大学出版会

中村高康・松岡亮二（2021年）『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房

高野良子・武内清編著（2024）『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕学文社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：教育社会学とは？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
3	教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在	
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。
7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア）	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア）	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。
10	ライフコースと教育社会学⑦居住・成熟・老い	一見、学校、教育と関係のないように思われるが、人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。
11	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナ	これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来

次世代教育学部こども発達学科

	リズム	の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
12	教育社会学の観点②教育格差とは何か	経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
13	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
14	教育社会学の観点④教師への期待と役割	教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
15	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	14回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどういう学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52006		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導ⅠB(施設)		担当者名	松本 好生/檜寄 日佳 増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で福祉系専修学校教員・幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

- ・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。
- ・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。
- ・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習ⅠB既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021)「保育実習の手引き」保育士養成協議会

厚生労働省「保育所保育指針（平成29年告示）」フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領」フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の実際	保育実習ⅠB既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について
14	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
15	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52005		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導ⅠA(保育所)		担当者名	橘高 真紀子/檜寄 日佳 増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠAの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。
2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20%※授業は全出席すること

※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会（2023）「保育実習の手引き」

<参考書>

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府（2018）「認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標実習園希望調査
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任
5	指導案の作成（1）	子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ
6	指導案の作成（2）	保育士の援助・配慮、作成上の留意事項
7	保育教材の作成（1）	シルエットクイズの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	ペープサートの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習日誌の書き方	実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成

科目コード	52002		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)		担当者名	橘高 真紀子/檜寄 日佳 増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習Ⅱの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、実習の総まとめをする。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。
2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育実習委員会（2023）「保育所実習の手引き」

<参考書>

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省「認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方 授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ 実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の基本と保育の目標 保育所保育指針の確認
5	指導案の作成（1）	子どもの発達段階や興味関心を考慮したねらいと活動
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための保育士の援助と配慮
7	保育教材の作成（1）	パネルシアターの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	スカッチブックシアターの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習書類の作成 実習前オリエンテーション	実習書類の作成 実習前オリエンテーションの意義と依頼、訪問のマナー
13	実習記録の書き方	わかりやすいエピソード記録と考察の書き方
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備 守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ 礼状の作成

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	51008		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)		担当者名	檀 寄 日佳/増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達の特徴、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。
2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%

<教科書>

環太平洋大学（2023.3）「教育実習の手引き（幼稚園）」

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成（1）	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成（1）	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成（2）	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
14	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	20305		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	次世代教育学		担当者名	畠中要輔/中安 翼/大野呂浩志 小川智勢子/羽田あずさ/渡邊 亮 竹下厚志/伊藤仁美/小澤尚子 中家 淳悟			○			
			実務経験との関連	担当者の中でアナウンサー、特別支援学校教員、小学校教員、高等学校教員、舞台俳優としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修	

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。また教育だけでなく、様々な分野の「次世代」に取り組む方々からヒントをもらい、次世代の教育について考察し、授業作りに落とし込みます。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目的とします。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代教育を考える 1	現代の教育に必要な事とは何か考える
3	次世代教育を考える 2	考えた内容を発表
4	次世代教育を考える 3	自分たちの体験してきていない学校を見てみよう
5	次世代教育を考える 4	学んだことを振り返り、ディスカッション
6	次世代教育を考える 5	発表
7	次世代について学ぶ 1	講話
8	次世代について学ぶ 2	ディスカッション
9	次世代について学ぶ 3	講話
10	次世代について学ぶ 4	ディスカッション
11	次世代について学ぶ 5	発表
12	次世代について学ぶ 6	講話
13	次世代について学ぶ 7	ディスカッション
14	次世代について学ぶ 8	発表
15	スクールフェスについて 1	発表
16	スクールフェスについて 2	授業を考える
17	スクールフェスについて 3	学習指導案作り
18	スクールフェスについて 4	プレゼンテーション
19	スクールフェスについて 5	模擬授業 1
20	スクールフェスについて 6	模擬授業 2
21	スクールフェスについて 7	スクールフェス実施
22	まとめ	スクールフェス、授業の振り返り、まとめ

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	22202		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	社会の理解		担当者名	鉦 悠介			○		
			実務経験との関連	独立行政法人特別支援教育に関する研究所の研究補佐員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、社会科授業者として授業実践するための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等から学びを深める。また、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、授業への参加意欲、社会的な見方・考え方をを用いた論理的思考力や表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、社会科の授業者として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

教科書や学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用して、社会科教育についての幅広い考えをもてる授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、社会科授業実践の基礎となる知識・技能の獲得を目指す。尚、ICT活用の観点から、個人パソコンの持参を必須とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内に設定する毎回のレポート(80%)、及び中間レポートと最終レポート(20%)

<教科書>

文部科学省「小学校学習指導要領解説社会編」日本文教出版社
北 俊夫 他 編「新編 新しい社会 3年～6年」東京書籍

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとチーム分け	授業の概要（目的や内容、成績評価等）の説明，グループ作り
2	目標・内容・方法	目標・内容・方法を区別すること，つなげて考えること
3	目標の多様性	社会科の目標の多様性を知ること
4	問い（１）	問いを中心に授業を構成すること，問いの価値を判断すること
5	問い（２）	問いを構造化すること
6	指導案作成（１回目）	第5回までの学習内容に基づき指導案を作成する
7	資料（１）	人文・社会諸科学と社会科の関連性
8	資料（２）	アクセスしうる資料の場所について
9	資料（３）	資料の加工の方法と重要性について
10	評価（１）	目標に準拠した評価について
11	評価（２）	多様な背景を持つ子どもとの関連の観点から評価を考える
12	指導案作成（２回目）	第11回目までの学習内容をもとに指導案をブラッシュアップする
13	社会科のはじまりについて	社会科の成立経緯や諸論点について
14	社会科の今後	社会科授業づくりに関する今後の諸論点について
15	最終レポート作成	授業の総括と最終レポート作成に向けた準備

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	22103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	美術の理解		担当者名	村上 尚徳			○		
			実務経験との関連	小学校教員、文部科学省教科書調査官としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。
2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。
2. 美術や美術教育に関する基礎的な知識を理解するための講義。
3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術、絵画の役割
3	美術とは何か③	美術について考える
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着色の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解（1）	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解¥n（グループワーク）
12	美術の幅広い理解（2）	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）¥n（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎（2）	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31400		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校経営と学校図書館		担当者名	浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、レポート・グループ課題 40%、特別課題 30%に基づき総合的に評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

「探究 学校図書館学」編集委員会 編著（2022年1月20日第2刷発行）

探究 学校図書館学第1巻「学校経営と学校図書館」

公益社団法人全国学校図書館協議会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する①
7	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する②
8	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する③
9	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する①
10	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する②
11	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する③
12	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫①
13	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫②
14	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫③
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31401		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校図書館メディアの構成		担当者名	木戸 和彦／浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

- ① 学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。
- ② 校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。
- ③ 学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）「学校図書館必携」悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31403		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性		担当者名	浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。
2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。
3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30%、レポート・グループ課題40%、特別課題30%により総合的に評価する。

<教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」
全国学校図書館協議会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法1	読み聞かせとブックトーク、ストーリーテリング
7	子どもと本を結ぶための方法2	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法3	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法4	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法5	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実例1	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実例2	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31402		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	小川 智勢子			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30％、レポート・課題30％、最終課題40％により総合的に評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）
 探求 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館
 全国学校図書館協議会

文部科学省（2018/2/28）
 小学校学習指導要領解説 総則編
 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習の時間と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	司書教諭が担う役割	学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。

科目コード	32305		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	理科教育法		担当者名	川村 康文			○		
			実務経験との関連	中学校教員、高等学校教員、公立科学館館長としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり模擬授業を担当し、先生役がその授業であたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に、半期のうちの前半は実験名人になれるよう、指導案なしで、実験をみなさんで楽しく共有できるよう先生役を担当してもらいます。また、後半は指導案を作成し、実験を含んだ45分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。模擬授業後は、全員で、模擬授業のふりかえりを行います。

<授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。
2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。
3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。
4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。
2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。
3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。
4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点を含む）40%、 模擬授業40%、 振り返り（レフレクション）20% 等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014）「理科教育法 独創力を伸ばす理科授業」講談社

<参考書>

文部科学省（2018.2.10）「小学校学習指導要領」

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？について、動画をまじえてディスカッションをしましょう。 https://www.youtube.com/watch?v=Fm9m_hDcTn4 4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか、まとめたものを発表してもらいます。 さて、組んだ班で、2つのタイプの模擬授業をしてもらいます。 1つは、実験だけに特化したぶち模擬授業です。実験名人のつもりで楽しく授業して下さい。前提条件はいりません。ただし、何年生のどの単元かだけ明言して下さい。 もう1つは、フル模擬授業です。45分で結構です（といっても、最初は45分のつもりが60分ぐらに伸びてしまうこともあります）。学習指導案をきちんと作って模擬授業をします。 なお、ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。 ひとつの理科の伝え方・特に環境問題の伝え方のビデオをみて下さい。 プリント穴埋め学習が終わり、子どもたちの探究が大事だといわれています。
2	オンデマンド これからの理科授業を考えるために	1 https://www.youtube.com/watch?v=lymxBzY9R8E 2 https://www.youtube.com/watch?v=tW6bqsAgpnU 3 https://www.youtube.com/watch?v=Je74blUZPnBM 4 https://www.youtube.com/watch?v=tcIB-3Bm958 5 https://www.youtube.com/watch?v=WCApPaVRRhA 6 https://www.youtube.com/watch?v=occAVOqRYXU
3	各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成して下さい。	あなたなら、これからの理科授業をどのようにしていきたいかをA4用紙1枚程度にまとめて提出して下さい。 各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成して下さい。なので、学級委員長と副委員長も立候補など積極的決めて下さい。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

4	物理領域の模擬授業	物理学な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
5	オンデマンド 教科書の実験 浮沈子をつくろう	教科書の浮沈子をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
6	化学領域の模擬授業	化学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
7	教科書の実験 ホバークラフトをつくろう	教科書のホバークラフトをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
8	生物領域の模擬授業	生物的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	地学領域の模擬授業	地学的な分野の実験指導の模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
10	教科書のストローウエーブマシンをつくろう	教科書のストローウエーブマシンをつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
11	模擬授業 1	学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
12	教科書のペットボトル顕微鏡をつくろう	教科書のペットボトル顕微鏡をつくって、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
13	模擬授業 2	学習指導案付き模擬授業を行い、その後、反省会を行います。授業は30分でまとめて下さい。2班、行いふりかえりを行います。
14	教科書のペーパークロマトグラフィの実験	教科書のペーパークロマトグラフィの実験を行い、動画で撮影し、学籍番号と名前を明記して提出してください。予習をして、持ち物をもってきてください。
15	リフレクション・まとめ	全体のふりかえりを行います。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32312		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	図画工作科教育法		担当者名	村上 尚徳			○		
			実務経験との関連	小学校教員、文部科学省教科書調査官としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。
2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。
2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。
3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート・小テスト等 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018）「小学校学習指導要領解説図画工作編」日本文教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ

科目コード	51009		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》		担当者名	小川智勢子/安井正郎/奥山 優/木野正一郎/坂根清貴/三堀 仁/千照久/本藤展康/藤井健太郎/内田仁志/中安 翼/羽田あずさ/練苧千之/鈺悠介/西田修斗/村上尚徳/岸本勝義			○		
			実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

<授業の方法>

講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、教育経営学科のDP 4（周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。）及びDP 6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。教育実習を通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養う。多様化・複雑化する社会に対応できる総合的な実践力を育むための科目である。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習の意義と心構え	教育実習の概要と意義を理解する。
2	教育実習の進め方	教育実習の手引きや実習録をもとに、実習に参加する際の注意事項を理解する。
3	研究授業（模擬授業）の方法（1）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
4	研究授業（模擬授業）の方法（2）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
5	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
6	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
7	研究授業（模擬授業）の方法（5）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
8	研究授業（模擬授業）の方法（6）	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15～20人程度のグループに分かれて行う。
9	研究授業（模擬授業）の方法（7）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
10	研究授業（模擬授業）の方法（8）	個別学習、グループ学習の進め方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
11	研究授業（模擬授業）の方法（9）	授業のまとめの仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
12	研究授業（模擬授業）の方法（10）	ノート、学習プリント（ワークシート）のつくり方と活用の仕方※15～20人程度のグループに分かれて行う。
13	研究授業（模擬授業）の方法（11）	評価について※15～20人程度のグループに分かれて行う。
14	教育実習における表現教育の位置づけ方	児童とのコミュニケーション手段の1つとして、表現活動の設定の仕方を理解する。
15	教育実習のふり返り	教育実習録をもとに、実習の成果と課題を明らかにする。【事後指導】

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	20305		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学		担当者名	畠中要輔/中安 翼/大野呂浩志 小川智勢子/羽田あずさ/渡邊 亮 竹下厚志/伊藤仁美/小澤尚子 中家 淳悟			○		
			実務経験との関連	担当者の中でアナウンサー、特別支援学校教員、小学校教員、高等学校教員、舞台俳優としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。また教育だけでなく、様々な分野の「次世代」に取り組む方々からヒントをもらい、次世代の教育について考察し、授業作りに落とし込みます。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることを目的とします。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出することを、出席確認としても扱います。・授業形態は、講義形式だけではなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度 20%、発表資料（プレゼンテーションの内容と方法・技術） 30%、レポート 50%により判断。
※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は各回の担当教員が行います。

<教科書>

※特にありません。授業内で資料を配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代教育を考える 1	現代の教育に必要な事とは何か考える
3	次世代教育を考える 2	考えた内容を発表
4	次世代教育を考える 3	自分たちの体験してきていない学校を見てみよう
5	次世代教育を考える 4	学んだことを振り返り、ディスカッション
6	次世代教育を考える 5	発表
7	次世代について学ぶ 1	講話
8	次世代について学ぶ 2	ディスカッション
9	次世代について学ぶ 3	講話
10	次世代について学ぶ 4	ディスカッション
11	次世代について学ぶ 5	発表
12	次世代について学ぶ 6	講話
13	次世代について学ぶ 7	ディスカッション
14	次世代について学ぶ 8	発表
15	スクールフェスについて 1	発表
16	スクールフェスについて 2	授業を考える
17	スクールフェスについて 3	学習指導案作り
18	スクールフェスについて 4	プレゼンテーション
19	スクールフェスについて 5	模擬授業 1
20	スクールフェスについて 6	模擬授業 2
21	スクールフェスについて 7	スクールフェス実施
22	まとめ	スクールフェス、授業の振り返り、まとめ

科目コード	24104		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	異文化コミュニケーション論		担当者名	羽田 あずさ			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します。

<授業の到達目標>

- ① 異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。
- ② 相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付ける。
- ③ 自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界（特に英語圏）の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。
- ④

<授業の方法>

- (1) 講義（教員による解説と問いの提示）
- (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）
- (3) ディスカッション（問いに対する回答）
- (4) 省察活動（まとめと発表）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、 まとめテスト 20%

<教科書>

原沢伊都夫（2013）「異文化理解入門」研究社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは①	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。
3	文化とは②	私たちが属している文化に気づき、そこから異文化とは何か考える。
4	異文化適応①	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
5	異文化適応②	ゲームを行い、異文化に接触したときの疑似体験をする。その体験から感じたことを話し合う。
6	視点を変える	いくつかの活動を通じて、視点を変える練習をする。
7	ステレオタイプ	自分が持っている固定観念に気付く活動を行う。また、固定観念を持つ理由を学ぶ。
8	差別と異文化理解	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
9	世界の価値観	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
10	異文化トレーニング	異文化を理解するトレーニングを1つ体験し、異文化理解の方法を知る。
11	異文化受容	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
12	自分を知る	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
13	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非言語コミュニケーションをしているか内省する。
14	コミュニケーションスタイル	自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
15	まとめ	多文化共生社会に参画するために、異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるとは。

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	65020		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	実践英文法（基礎）		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（整序問題）をもとにグループ教え合いを行い、解説を傾聴後、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生にとっても、副専攻とする学生にとっても、アクティブ・ラーニングの醍醐味を体験できる貴重な機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。
2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。
3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

<授業の方法>

事前課題の教え合い（50分）

解説の傾聴（30分）

意見交換（10分）

※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%，グループワーク 20%，理解度確認テスト 40%，意見交換 10%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、品詞解析①	授業の進め方、教材の使い方、品詞解析①
2	品詞解析②	教え合い、解説、振り返り
3	品詞解析③	教え合い、解説、振り返り
4	品詞解析④	教え合い、解説、振り返り
5	品詞解析⑤	教え合い、解説、振り返り
6	品詞解析⑥	教え合い、解説、振り返り
7	品詞解析⑦	教え合い、解説、振り返り
8	品詞解析⑧	教え合い、解説、振り返り
9	品詞解析⑨	教え合い、解説、振り返り
10	品詞解析⑩	教え合い、解説、振り返り
11	品詞解析⑪	教え合い、解説、振り返り
12	品詞解析⑫	教え合い、解説、振り返り
13	品詞解析⑬	教え合い、解説、振り返り
14	品詞解析⑭	教え合い、解説、振り返り
15	品詞解析⑮	教え合い、解説、振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	65021		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	実践英文法（応用）		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、実践英文法（基礎）のステップ講座であり、前期授業内容（整序問題演習）の発展編となります。協働学習を通して、さらに難度の高い英文の解析力と他者への説明力を養います。成績評価は、事前課題（演習課題の出来栄）、協働学習への態度、理解度確認テスト、意見交換の質を軸に行います。この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参して臨んでください。高等学校で英語指導を行うためのスキルを養う絶好の機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（整序問題演習）に粘り強く取り組み、詳細なノートを作成・提出できる。
2. 協働学習で教え合いを行い、難度の高い構文解析を説明できる。
3. 理解度確認テストを受験し、高い理解度を残すことができる。
4. 意見交換の場で、自身の学びを適切に言語化できる。

<授業の方法>

教え合い（50分程度）

解説の傾聴（30分程度）

意見交換（10分）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 40%、理解度確認テスト 40%、意見交換 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、品詞解析	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
2	動詞の語法①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
3	動詞の語法②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
4	動詞の語法③	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
5	動詞の語法④	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
6	動詞の語法⑤	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
7	前置詞・接続詞①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
8	前置詞・接続詞②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
9	関係詞①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
10	関係詞②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
11	名詞・代名詞	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
12	形容詞・副詞	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
13	総合演習①	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
14	総合演習②	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト
15	総合演習③	グループワーク、解説、振り返り、理解度確認テスト

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	65022		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リーディング・スキル（基礎） [英語教員希望者限定]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検2級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検2級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。
2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。
3. 事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。

※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日
2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ
3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Generations Helping Each Other	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Metal Foam	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	A New Type of Chocolate	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	A New Way to Use a Computer	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Price of a Song	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	A Model Tourist Town	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	The Mysterious Mummies	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Female Pioneers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Counting Every Children	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Smart Stickers	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Bibliotherapy	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Bringing Back Ancient Plants	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03

科目コード	24201		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	比較文化論		担当者名	羽田 あずさ			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

異文化理解入門です。私たちは “様々な文化”の中で生活しています。その文化とはいったいどのようなことを指すのかについて、私たちの日常生活から改めて見つめていきます。そして、異文化は自分（たち）の文化とどのように違うのかについて理解を深め、皆さんが “地球市民”として生きていくために必要なことを一緒に考えていきたいと思います。

<授業の到達目標>

- ・文化とは何を指すのかについて理解している。
- ・自分に影響を与える（与えてきた）文化とは何かについて理解している。
- ・他者に影響を与えている（与えてきた）と思われる文化について多面的に理解している。
- ・異文化適応に必要な方略を身につけている。

<授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度 30% レポート等の課題 30% 発表 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

八代京子 町恵理子 小池浩子 吉田友子（2022年4月20日）「異文化トレーニング」三修社
原沢 伊都夫（2021年12月10日）「異文化理解入門」研究社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、外国人とのかかわり、日本文化、他国のイメージ
2	多文化と日本文化の比較分析（発表）①	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	多文化と日本文化の比較分析（発表）②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
4	異文化コミュニケーション①	私の文化ーあなたの文化
5	異文化コミュニケーション②	見える文化ー見えない文化、パラダイムシフトー交渉トレーニング
6	コミュニケーション①	内容面と関係面、非言語コミュニケーション
7	コミュニケーション②	低コンテクストー高コンテクスト、自己開示ー相互コミュニケーション
8	見えない文化①	価値観、集団主義ー個人主義
9	見えない文化②	権力格差、差別意識
10	異なる文化のとらえ方①	ステレオタイプ、カテゴリー化、差別意識
11	異なる文化のとらえ方②	自文化中心主義ー文化相対主義
12	演習	異文化適応トレーニング
13	スピーチまたはプレゼンテーション①	これからの「私の文化」
14	スピーチまたはプレゼンテーション②	これからの「私の文化」
15	リフレクション	振り返りレポート

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	24200		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語文法		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、オンデマンド形式で実施します。課題提出、採点・返却、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですので、教職課程を履修していない学生による他学科履修についてはお断りさせて頂く予定です。

<授業の到達目標>

1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。
2. 理解度確認テストで高得点を残すことができる。
3. 授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

<授業の方法>

1. 例題・類題演習の提出（90分程度）
 2. 採点・返却
 3. 提出課題の修正（1時間程度）
 4. 理解度確認テスト（30分程度）
 5. 意見交換（10分）
- ※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月3日）「これからの英語教師のための深くて苦い英語文法」一粒社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、シミュレーション	授業の進め方、課題提出の方法など
2	英文の構造	自動詞と他動詞、修飾語と付加詞、補語と目的語、OOとOC、文型の判別
3	語順と意味	前置詞と動詞、第4文型から第3文型に、文末焦点
4	基本時制	時制の一致、未来を表す表現、いろいろな未来、名詞節と副詞節
5	完了時制	ニュアンス、用法の判別、完了を表すキーワード、複合問題
6	法助動詞	ニュアンス、種類、丁寧な用言、書き換え、be to、慣用表現
7	仮定法	時制、反実仮想、倒置、様々な構文
8	文末焦点と態	文体の自然性、態の変換、特殊な変換、前置詞の使い方
9	不定詞	用法、時制、不定詞と動名詞、原形不定詞、特殊な構文
10	動名詞	時制を意識した書き換え、形態、語順、慣用表現
11	分詞	前置就職と後置修飾、形態、感情動詞、付帯状況、補語、分詞構文
12	比較	強調、様々な構文、書き換え
13	関係代名詞	情報量、格、制限用法と非制限用法、特殊な用法
14	関係副詞	関係代名詞との違い、関係副詞の成り立ち、特殊な用法、複合関係詞
15	接続詞と前置詞	等位接続詞と接続副詞、従位接続詞、前置詞のニュアンス
16	期末試験	

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	65023		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リーディング・スキル（応用） [英語教員希望者限定]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。

<授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。
2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。
3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。

※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで
2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ
3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
2	Dog Colors	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
5	Review 1	Review Test_01実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
8	REDD+	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
9	Summer Jobs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
10	Review 2	Review Test_02実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
13	Young People and Sports	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題＋理解度確認テスト＋意見交換
15	Review 3	Review Test_03実力テスト_03

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	24303		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	上級英語文法〔英語教員希望者限定〕		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。

<授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。
2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。
3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

<授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）
2. 採点・返却
3. 理解度家訓テスト（30分程度）
4. 意見交換（5分）

※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月）「上級英語文法：攻略ポイント210」一粒書房

※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	動詞の語法①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	動詞の時制	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	態の変換	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	不定詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	動名詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	関係詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	比較表現①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
15	比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
16	名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
17	代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
18	形容詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
19	副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
20	接続詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
21	接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
22	前置詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
23	前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
24	疑問・否定・倒置・強調・一致まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
25	総復習	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
26	期末試験・まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	31400		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校経営と学校図書館		担当者名	浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、レポート・グループ課題 40%、特別課題 30%に基づき総合的に評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

「探究 学校図書館学」編集委員会 編著（2022年1月20日第2刷発行）

探究 学校図書館学第1巻「学校経営と学校図書館」

公益社団法人全国学校図書館協議会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する①
7	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する②
8	学校図書館の運営	学校図書館運営計画を作成する③
9	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する①
10	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する②
11	学校図書館の運営	図書館だよりを作成する③
12	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫①
13	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫②
14	学校図書館の運営	学校図書館展示の工夫③
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

科目コード	31401		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校図書館メディアの構成		担当者名	木戸 和彦／浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

- ① 学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。
- ② 校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。
- ③ 学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）「学校図書館必携」悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

科目コード	31403		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性		担当者名	浅田 栄里子			○		
			実務経験との関連	高等学校教員、図書館司書教諭としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。
2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。
3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進めるが、グループワークや体験的な取り組みも行うので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30%、レポート・グループ課題40%、特別課題30%により総合的に評価する。

<教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」
全国学校図書館協議会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法1	読み聞かせとブックトーク、ストーリーテリング
7	子どもと本を結ぶための方法2	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法3	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法4	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法5	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実例1	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実例2	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	31402		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	小川 智勢子			○		
			実務経験 との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

教科書に基づき授業を進める。毎回課題を提示する。主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度30%、レポート・課題30%、最終課題40%により総合的に評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

「探求 学校図書館学」編集委員会（2020.9.25）
 探求 学校図書館学 第3巻 学習指導と学校図書館
 全国学校図書館協議会

文部科学省（2018/2/28）
 小学校学習指導要領解説 総則編
 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習の時間と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性と学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	司書教諭が担う役割	学習指導と学校図書館における司書教諭が担う役割について理解する。

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21204		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅰ(基礎)		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生を力強く支援します。

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。
2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。
3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

<授業の方法>

グループ討論（30分）

解説（30分）

プレゼンテーション（30分）

※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

<教科書>

JACET教育問題研究会（2017年11月30日）「行動志向の英語科教育の基礎と実践—教師は成長する—」三修社

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）
2	外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	英語教育課程	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	リスニングリーディング	基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導
9	スピーキングライティング	基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導
10	技能統合型の指導：インタラクション	基本概念、協同学習
11	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
12	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
13	PPPF演習（1）	指導案の作成（概案）
14	PPPF演習（2）	指導案の作成（概案）
15	プレゼンテーション	私が目指す英語教師像

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	51010		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)《通年》		担当者名	竹下 厚志/伊藤 仁美 武 幸枝			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

<授業の到達目標>

- ① 事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付ける。
- ② 事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立する。

<授業の方法>

- (1) 講義（教員による解説と問いの提示）
- (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）
- (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）
- (4) 省察活動（まとめと発表）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20 %、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% （一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。）

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、準備
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成（1）	指導案作成の手順
5	指導案の作成（2）	指導技術の工夫
6	模擬授業（1）	模擬授業を実施
7	模擬授業（2）	模擬授業を実施
8	模擬授業（3）	模擬授業を実施
9	模擬授業（4）	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告①	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告②	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告③	実習報告とディスカッション
14	教育実習の報告④	実習報告とディスカッション
15	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	53012		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校) [英語]		担当者名	竹下 厚志/伊藤 仁美			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。より高度な実践力として概念化学習、教材作成、テスト作成に加え、海外交流も視野に入れた実践的コミュニケーション力の育成も同時に行います。

<授業の到達目標>

- ① 英語力および授業力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。
- ② 教育実習の経験を踏まえたうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。
- ③ 海外交流に必要な英語力を身に着けることができる。

<授業の方法>

- (1) 講義（教員による解説と問いの提示）
- (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）
- (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）
- (4) 省察活動（まとめと発表）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②発表（模擬授業） 50%、③課題・レポート 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教職実践演習の目的、基本的な言語習得研究の確認、英語力の確認
2	単元のまとめ学習 1	各単元や年間のまとめ学習指導 1
3	単元のまとめ学習 2	各単元や年間のまとめ学習指導 2
4	概念化学習 1	教科書のテーマを概念化から再分析 1
5	概念化学習 2	教科書のテーマを概念化から再分析 2
6	教材作成	テーマの概念化に基づき、教科書の応用としての教材開発
7	概念化学習発表	概念化に基づく授業づくりの発表
8	海外交流 1	リサーチに基づく発表準備 1
9	海外交流 2	リサーチに基づく発表準備 2
10	海外交流 3	リサーチに基づく発表準備 3
11	テスト作成	テスト作成発表準備
12	テスト作成発表 1	作成したテスト内容の発表 1
13	テスト作成発表 2	作成したテスト内容の発表 2
14	テスト作成発表 3	作成したテスト内容の発表 3
15	まとめ	全体の振り返り

科目コード	25100		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育原理		担当者名	早田 剛			○		
			実務経験との関連	医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認（約10分）

2. テーマに沿った解説と問いの提示①（約10分）

3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分）

4. テーマに沿った解説と問いの提示②（約10分）

5. 上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分）；字数制限有

6. プレゼン発表もしくは課題レポート作成次週課題の確認（☑自宅学習：約30～60分）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）

3から4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

<教科書>

B5判／218ページ（令和4年度発行版）<https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59>

現代高等保健体育 保体「701」 () ISBN:9784469663198

大修館書店

<参考書>

友添秀則、岡出美則 編（2016年）「教養としての体育原理」大修館書店

高橋 徹 編（2021年）「はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学」サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する
2	体育とは	2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
3	体育とスポーツは何が違うのか	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
6	体育における人間形成	体育における競争とはどういう位置付けられるかを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
14	スポーツと社会	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
15	スポーツとコミュニティまとめ	スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する 1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する2) 体育原理を総括する

体育学部体育学科

科目コード	25103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	発育と発達		担当者名	田中 耕作			○		
			実務経験との関連	民間会社（スポーツ科学企業）・専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変容していく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70％）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト(30%)を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各單元ごとに資料を配布する。

（公財）日本スポーツ協会(2019)「公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト」（公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子(2014)「幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-」ミネルヴァ書房

<参考書>

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）「健康運動指導士養成講習会テキスト」（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時間の講義内容のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	36501		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動器の解剖と機能		担当者名	河野 儀久			○		
			実務経験との関連	医療機関所属のストレングス＆コンディショニングコーチ、アスレティックトレーナーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。

但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」日本スポーツ協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	上肢・下肢・体幹の機能解剖と運動
2	運動器の構造と機能①	上肢帯の運動
3	運動器の構造と機能②	肩関節の運動
4	運動器の構造と機能③	肘関節の運動
5	運動器の構造と機能④	手関節の運動
6	運動器の構造と機能⑤	股関節の運動
7	運動器の構造と機能⑥	股関節の運動
8	運動器の構造と機能⑦	足関節の運動
9	運動器の構造と機能⑧	足関節の運動
10	運動器の構造と機能⑨	手指関節の運動
11	運動器の構造と機能⑩	上肢帯の筋・血管・神経
12	運動器の構造と機能⑪	下肢の筋・血管・神経
13	運動器の構造と機能⑫	頸部の筋・血管・神経
14	運動器の構造と機能⑬	腰部の筋・血管・神経
15	まとめ	総合学習

科目コード	38200		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎) PP+他学科		担当者名	久田 孝			○		
			実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。
2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。
3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答）
2. 省察活動（まとめと振り返り）
3. 協働的活動とディスカッション
4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）「学校学習指導要領解説―保健体育編―」東山書房
高橋健夫他（2010）「体育科教育学入門」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える

科目コード	38201		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP 教員希望者用]		担当者名	坂本 康輔/清田 美紀			○		
			実務経験との関連	高等学校教員、小学校教員、教育委員会職員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。
2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。
3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。
4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答）
2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）
3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）
4. 省察活動（まとめと振り返り）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。
また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%, レポート 20%, 指導案20%, 模擬授業20%, 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房

文部科学省（平成30年7月）「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」東山書房

衛藤 隆、友添 秀則 ほか（2022年3月20日）「現代高等保健体育」大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021）「体育科教育学入門」大修館書店

杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009）「保健体育科教育法」大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について
2	学習指導要領を理解する①	②良い体育授業とは何かを考える
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領が示している内容について理解を深める
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
5	学習指導案の書き方について②	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
6	確認テスト	単元計画の作成
7	運動領域の特性について①	学習指導要領の理解度を測るテストの実施
8	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
13	確認テスト/指導案の作成	学習指導要領の理解度チェック及び模擬授業に向けた取り組み
14	模擬授業を実践する①	マイクロティーチング
15	模擬授業②	マイクロティーチング

体育学部体育学科

科目コード	65047		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	キャリアマネジメントⅠ		担当者名	岩田 知郎/延原 まどか			○		
			実務経験 との関連	中学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

中学校・高等学校の教員採用試験を受験するために、体育の基本となる内容（スポーツのルール等）を習得する。（3年、4年で保健体育の教員採用試験を受験者対象）

<授業の到達目標>

- ・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。
- ・様々なスポーツ種目の特性やルール等を理解する。
- ・プレゼンテーション能力を身に付ける。

<授業の方法>

- ①与えられた課題（各種目のルール等）をグループごとで協力し合い調べ、プレゼンテーションをする。
- ②教壇に立つことを意識し、わかりやすいプレゼンができるようにする。
- ③グループで調べまとめることにより学生同士の相互の学びあいを大切にしていく。
- ④毎回、前時のミニテストとミニレポートを実施し、学びを深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。

前時のミニテストをすることにより、理解度を深めることが出来る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・グループ活動：20％、レポート得点：30％、ミニテスト：20％、最終テスト：30％

<教科書>

2025年9月1日予定「27年度 中高保健体育の完全攻略」
時事通信社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	授業内容を理解する
2	オリンピック 先輩からのアドバイス	グループの確認・分担確認 教員採用試験について（先輩からのアドバイス） オリンピックについて学ぶ
3	器械運動	器械運動について理解する 前時のミニテスト実施
4	水泳	水泳について理解する：前時のミニテスト実施
5	体づくり運動 陸上競技	体づくり運動、陸上競技について理解する：前時のミニテスト実施
6	陸上競技	陸上競技について理解する：前時のミニテスト実施
7	陸上競技	陸上競技について理解する：前時のミニテスト実施
8	球技：ベースボール型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
9	球技：ゴール型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
10	球技：ゴール型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
11	球技：ネット型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
12	球技：ネット型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
13	武道	武道について理解する：前時のミニテスト実施
14	ダンス	ダンスについて理解する：前時のミニテスト実施
15	まとめ 確認テスト	これまでの授業のまとめ、確認テストを実施する

科目コード	65019		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	公務員と法		担当者名	平野 正樹			○		
			実務経験 との関連	公務員（大蔵省官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

<授業の方法>

その都度、資料を配布する。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。各講義の終わりに、講義内容を踏まえた双方向のディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。
講義内容の理解度を確認するため、ディスカッションやPPTの活用などによる双方向での授業を実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	市場の失敗とは	市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	総括	財政実態の国際比較

体育学部体育学科

科目コード	36505		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価		担当者名	畑島 紀昭			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に 実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。

検査法などと実際に体験し、学生間でグループワークを実施し評価を互に行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題・発表 （最終課題，発表）40%

<教科書>

特になし

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」
（財）健康・体力づくり事業財団（2008）「健康運動指導士養成講習会テキスト<下>」（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義 およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	62008		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	健康管理とスポーツ医学		担当者名	河合 洋二郎			○		
			実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育期の子供の生理的特徴、運動時に対する応答、特異的な障害について学習することをねらいとする。内科的メディカルチェックでは、メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習することをねらいとする。ドーピングコントロールでは、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などをアスレティックトレーナーが理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようになることをねらいとする。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：無

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など呼吸器系疾患（慢性肺炎疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

科目コード	40102		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]		担当者名	十河 直太			○		
			実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有

グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート

科目コード	40101		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)		担当者名	國友 亮佑			○		
			実務経験との関連	事業団スポーツチームのストレングス＆コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

- 1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。
- 2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。
- 3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。グループワーク

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2 メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3 メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験

科目コード	40119		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ラグビー		担当者名	小村 淳			○		
			実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

科目コード	40120		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	サッカー		担当者名	降屋 丞			○		
			実務経験との関連	プロスポーツチームスクールコーチとしての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

科目コード	40121		区 分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	山本清人/原田 悠平 佐藤 伸之			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。

1. グループワーク（予習内容に関する確認）
2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。
3. ディスカッション（問題提示に対する回答）
4. 省察活動（まとめ）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会「ソフトボール指導者教本」日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

科目コード	40104		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボールⅠ(基礎)		担当者名	仙波 慎平			○		
			実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。（1クラスの定員50名とする。）

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

グループワーク（7～10人グループにわかれ、運営等を行う）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則（2003）「Tactics of Handba in The Word」財団法人日本ハンドボール協会

酒巻清治（2012）「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得（2）	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15	ゲーム（7）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（6）

科目コード	40202		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
			実務経験との関連	実業団チーム指導者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

グループ・ディスカッションや指導実習など

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版）「コーチングバレーボール（基礎編）」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループ・ディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）（1）	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法（2/4/6/9）（2）	練習方法と指導実習
14	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート

体育学部健康科学科

科目コード	25103		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	発育と発達		担当者名	田中 耕作			○		
			実務経験との関連	民間会社（スポーツ科学企業）・専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変容していく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各單元ごとに資料を配布する。

（公財）日本スポーツ協会（2019）「公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト」（公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子（2014）「幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-」ミネルヴァ書房

<参考書>

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）「健康運動指導士養成講習会テキスト」（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時限の講義内容のまとめ

科目コード	27104		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)		担当者名	坂本 賢広			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では頭部顔面骨折・胸骨骨折・肋骨骨折・脊椎骨折・前腕遠位端部骨折・手根骨骨折・中手骨骨折・指骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し、必要に応じて資料を配付する。基礎柔道整復学Ⅱ(骨折)は、ディプロマポリシー2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。
確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogle classroomにて配信する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）
5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％ 小テスト20％ 評価試験50％

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂
全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 改訂第2版」南江堂
目崎 登監修「運動器疾患ワークブック」医歯薬出版

<参考書>

標準整形外科学「医学書院」

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	頭部・顔面骨折	頭蓋骨骨折 眼窩底破裂骨折
2	頭部・顔面骨折	上顎骨骨折 頬骨および頬骨弓骨折
3	頭部・顔面骨折	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折及び下顎骨骨折
4	胸骨骨折	胸骨骨折（胸骨柄部・体部・剣状突起部）
5	肋骨骨折	肋骨骨折及び肋軟骨骨折
6	脊椎骨折	頸椎・胸椎・腰椎骨折
7	前腕遠位端部骨折	コーレス骨折
8	前腕遠位端部骨折	スミス骨折 パートン骨折 ショーファー骨折
9	手根骨骨折	舟状骨骨折
10	手根骨骨折	その他の手根骨
11	中手骨骨折	中手骨骨折
12	中手骨骨折	その他中手骨骨折
13	指骨骨折	基節骨・中節骨骨折
14	指骨骨折	マレットフィンガー・末節骨骨折
15	まとめ	総合評価

体育学部健康科学科

科目コード	27200		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	病理学 I		担当者名	高畠 清文			○		
			実務経験との関連	現職の歯科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

- 1 病理学の役目を理解する。
- 2 臓器・組織・細胞の退行性・進行性病変を習得する。
- 3 充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。
- 4 炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著「病理学概論 改訂第3版」医歯薬出版株式会社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病理学とは	病理学とは何か、病理学における観察方法
2	疾病の一般	疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
3	細胞障害（退行性病変）Ⅰ	萎縮と変性
4	細胞障害（退行性病変）Ⅱ	代謝障害と疾病
5	細胞障害（退行性病変）Ⅲ	壊死、死
6	循環障害 Ⅰ	血液の循環障害
7	循環障害 Ⅱ	血栓症・塞栓症
8	循環障害 Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
9	進行性病変 Ⅰ	肥大、過形成、化生
10	進行性病変 Ⅱ	創傷治癒、移植
11	炎症 Ⅰ	炎症の一般
12	炎症 Ⅱ	炎症の分類
13	免疫、アレルギー Ⅰ	免疫の仕組み
14	免疫、アレルギー Ⅱ	免疫不全・自己免疫疾患
15	免疫、アレルギー Ⅲ	アレルギーの分類

体育学部健康科学科

科目コード	27202		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)		担当者名	福井 悠紀子			○		
			実務経験 との関連	柔道整復師、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を 授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

臨床に必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

<授業の到達目標>

各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する。各脱臼における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト 10%、定期試験 90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会「柔道整復学・理論編」南江堂

全国柔道整復学校協会「柔道整復学・実技編」南江堂

<参考書>

目崎 登「運動器疾患ワークブック」医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の心構え
2	脱臼の総論	脱臼の定義/分類
3	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	第1回目小テスト	顎関節から頸椎、胸椎、腰椎の復習
6	上肢脱臼/鎖骨脱臼	胸鎖関節脱臼/肩鎖関節脱臼/発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼①	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肩関節脱臼②	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	第2回目小テスト	鎖骨脱臼～肘関節脱臼までの復習
11	肘内障/手関節部の脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
15	まとめ	総説

体育学部健康科学科

科目コード	27302		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅰ		担当者名	平林 大輔			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である上肢・体幹の骨格系、筋系、神経系、脈管系、免疫系、呼吸器系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習 I では、筋骨格系、神経系、脈管系および関節などのいわゆる運動器を中心に、臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末テスト 100%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修「解剖学」医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修「生理学」南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	症例1	上肢帯損傷①
2	症例2	上肢帯損傷②
3	症例3	上肢損傷①
4	症例4	上肢損傷②
5	症例5	上肢損傷③
6	症例6	頸部損傷
7	振り返り 1	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ①
8	振り返り 2	上肢帯・上肢損傷・頸部損傷まとめ②
9	症例7	体幹損傷①
10	症例8	体幹損傷②
11	症例9	神経損傷
12	症例10	内臓損傷①
13	症例11	内臓損傷②
14	振り返り 3	解剖生理学のまとめ①
15	振り返り 4	解剖生理学のまとめ②

体育学部健康科学科

科目コード	27203		区 分	専門基礎科目				実務経験のある教員等による授業科目	
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅳ(捻挫)		担当者名	平林 大輔				○	
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

<授業の概要>

近年、超高齢化社会に伴い臨床現場で多くの高齢者を対象とすることがある。高齢者の多くは様々な基礎疾患を持っている事が多いため、骨折や脱臼、軟部組織損傷などの骨筋系のみならず内科系疾患について理解する事は必須である。本科目では、診療現場における病態の把握、治療指針に対する知識の習熟が学習の中心となる。

<授業の到達目標>

1. 医療機関の診療方法を理解し、他の医療従事者との情報共有をはかることができる。
2. 2. 骨筋系疾患のみならず内科系疾患の疑いをかけ、病態を判断することができる。
3. 3. 症状に適した対応手法を判断する事ができる。

<授業の方法>

冒頭に前回の授業範囲から小テストを実施する。動画や資料については必要に応じてGoogle classroomなどで配信する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験70%，学習意欲30%（事前課題の提出物含む）

<教科書>

全国柔道整復学校協会「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会「一般臨床医学」南江堂

全国柔道整復学校協会「整形外科学」医歯薬出版株式会社

<参考書>

全国柔道整復学校協会「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病態観察（1）	問診、視診について
2	病態観察（2）	姿勢、異常運動、歩行について
3	病態観察（3）	打診、聴診の定義、実施方法について
4	病態観察（4）	打診、聴診の実施
5	病態観察（5）	触診、身体測定について
6	病態観察（6）	身体のランドマークの触診、身体計測の実施
7	病態観察（7）	感覚検査、反射検査の定義、症状、疾患について
8	病態観察（8）	感覚検査、反射検査の実施
9	生命徴候（1）	生命徴候（バイタルサイン）について
10	生命徴候（2）	生命徴候（バイタルサイン）の測定実施
11	臨床症状と代表的疾患（1）	発熱、出血傾向を伴う疾患について
12	臨床症状と代表的疾患（2）	意識障害、チアノーゼを伴う疾患について
13	臨床症状と代表的疾患（3）	浮腫、肥満、やせを伴う疾患について
14	臨床症状と代表的疾患（4）	関節症状を伴う疾患について
15	総復習	病態観察、生命徴候、臨床症状と代表的疾患について

体育学部健康科学科

科目コード	36505		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	検査・測定と評価		担当者名	畑島 紀昭			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に 実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。

検査法などと実際に体験し、学生間でグループワークを実施し評価を互に行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題・発表 （最終課題，発表）40%

<教科書>

特になし

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」
（財）健康・体力づくり事業財団（2008）「健康運動指導士養成講習会テキスト<下>」（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義 およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議

科目コード	62008		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [PP/PH用]		担当者名	河合 洋二郎			○		
			実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育期の子供の生理的特徴、運動時に対する応答、特異的な障害について学習することをねらいとする。内科的メディカルチェックでは、メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習することをねらいとする。ドーピングコントロールでは、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などをアスレティックトレーナーが理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようになることをねらいとする。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：無

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

科目コード	3F104		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅰ(骨折Ⅰ)		担当者名	橋口 浩治			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

臨床に必要な骨折について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各骨折の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨折、前腕骨骨折について学習する。

<授業の到達目標>

各骨折の発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について理解する各骨折における保存療法の限界について理解する。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、評価試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会「柔道整復学・理論編」南江堂

全国柔道整復学校協会「柔道整復学・実技編」南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	鎖骨骨折（１）	鎖骨骨折（中央）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
2	鎖骨骨折（２）	鎖骨骨折（近位および遠位）における概要、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法について
3	肩甲骨骨折（１）	肩甲骨骨折（肩甲骨体部骨折、肩甲骨辺縁部骨折、肩甲骨関節窩骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
4	肩甲骨骨折（２）	肩甲骨骨折（肩甲骨頸部骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折）における概要、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について
5	上腕骨近位端部骨折（１）	結節上骨折（上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
6	上腕骨近位端部骨折（２）	結節下骨折（外科頸骨折、大結節骨折、小結節骨折、結節部貫通骨折）、骨端線離開における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
7	上腕骨骨幹部骨折（１）	上腕骨骨幹部骨折における概要、発生機序、転位について
8	上腕骨骨幹部骨折（２）	上腕骨骨幹部骨折における症状、合併症、整復法、固定法について
9	上腕骨遠位端部骨折（１）	上腕骨顆上骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
10	上腕骨遠位端部骨折（２）	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
11	前腕骨近位端部骨折（１）	橈骨近位端部骨折（橈骨頭骨折、橈骨頸部骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
12	前腕骨近位端部骨折（２）	尺骨近位端部骨折（肘頭骨折、尺骨鉤上突起骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
13	前腕骨骨幹部骨折（１）	橈骨骨幹部骨折、尺骨骨幹部骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
14	前腕骨骨幹部骨折（２）	前腕骨脱臼骨折（モンテジア脱臼骨折、ガレアッツィ脱臼骨折）における概要、発生機序、症状、合併症、治療法について
15	まとめ	授業の総合評価を行う。

体育学部健康科学科

科目コード	3F204		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)		担当者名	橋口 浩治			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

下肢はヒトとしての特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点より学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。
2. 骨折の状態から治療指針について判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。

自分や家族がその症例に遭遇したと想定し、与えられた課題に対してグループ形式にて学習をし発表をおこなう。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験70%，学習意欲30%（出席、小テスト）

但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

柔道整復学校協会「柔道整復学・理論編」南江堂

<参考書>

伊黒浩二 責任編集「柔道整復理論サブノート 柔道整復師国家試験対策」アルテミシア

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨盤骨単独骨折（1）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（2）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（1）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頸部骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（2）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機転、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（1）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機転、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（2）	大腿骨顆部骨折、内側側副韌帯付着部剥離骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機転、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（1）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
15	足趾骨骨折	中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について

体育学部健康科学科

科目コード	3F300		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	病理学Ⅱ		担当者名	高畠 清文			○		
			実務経験との関連	現職の歯科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	講義

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

- 1 腫瘍の本態、発生原因、分類。治療の概略を習得する。
- 2 奇形を含む先天性異常の発生原因と種類が理解できる。
- 3 内因・外因を含め病因を知り、その対処方法が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修、関根一郎 著「病理学概論 改訂第3版」医歯薬出版株式会社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	腫 瘍 I	腫瘍とは
2	腫 瘍 II	腫瘍細胞とは
3	腫 瘍 III	腫瘍の生体への影響、癌の診断と治療
4	腫 瘍 IV	腫瘍の分類
5	腫 瘍 V	主要な癌
6	先天性異常 I	先天性異常総論、遺伝形式
7	先天性異常 II	奇形の原因、奇形の種類
8	病 因 I	内因1
9	病 因 II	内因2
10	病 因 III	物理的原因
11	病 因 IV	化学的原因
12	病 因 V	生物学的原因
13	運動器の病理 I	感染性の疾患
14	運動器の病理 II	非感染性疾患
15	運動器の病理 III	全身性の骨・軟部疾患

体育学部健康科学科

科目コード	3F301		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	整形外科科学Ⅱ		担当者名	石原 和泰			○		
			実務経験 との関連	現職の整形外科医としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学各論にあたる部分である。すなわち、整形外科身体部位別各論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）

定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。

出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。

試験時はノートの持ち込みは認めない。

（出欠確認）

出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。

点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。

（欠席届の取り扱いについて）

当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。

レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）

レポートの提出により出席点を与える。

（公欠の取り扱いについて）

学則に則る。

（その他）

講義資料の再配布は行わないので、自身で調達すること。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修「整形外科科学」南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修「標準整形外科科学」第13版医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体部位別各論 (1)	頸部 (1)
2	身体部位別各論 (2)	頸部 (2)
3	身体部位別各論 (3)	胸部
4	身体部位別各論 (4)	腰部 (1)
5	身体部位別各論 (5)	腰部 (2)
6	身体部位別各論 (6)	肩・肩甲帯
7	身体部位別各論 (7)	上腕・肘関節
8	身体部位別各論 (8)	前腕
9	身体部位別各論 (9)	手関節
10	身体部位別各論 (10)	手・手指
11	身体部位別各論 (11)	骨盤・股関節
12	身体部位別各論 (12)	大腿・膝関節
13	身体部位別各論 (13)	下腿・足関節
14	身体部位別各論 (14)	足・足趾
15	まとめ	総括

科目コード	3F307		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)		担当者名	古山 喜一			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は高くなっており、業務において重要な位置付けとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

<授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。
2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。
グループ学習において双方向で理解度を確認する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。
但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。
事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2022年3月15日)「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」南江堂
全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月20日)「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	授業ガイダンス、腱板断裂
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SLAP損傷、インピンジメント症候群
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、loose shouder
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
6	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靭帯損傷、野球肘、テニス肘
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
10	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、手根管症候群
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	ギヨン管症候群、キーンベック病
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	マーデルング変形、腱交叉症候群、ド・ケルバン病
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	側腹靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(5)	デュブイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15	まとめ	総合復習、総合討議

科目コード	3F308		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅵ(軟部組織Ⅱ)		担当者名	古山 喜一			○		
			実務経験との関連	柔道整復師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は近年益々高くなっており、業務において重要な位置づけとなっている。本講義では下肢の軟部組織損傷を大きく股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足関節部、足部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学習する。

<授業の到達目標>

各損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について説明ができる。

<授業の方法>

1. 教科書を中心とした講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。
グループ学習において双方向で理解度を確認する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。
但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。
事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」南江堂
全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	股関節の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
2	股関節の軟部組織損傷	成長期の障害及び加齢による障害
3	股関節の軟部組織損傷	その他の障害
4	大腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及びスポーツ障害
5	膝関節部の軟部組織障害	発育期の障害
6	膝関節部の軟部組織障害	靭帯損傷
7	膝関節部の軟部組織障害	半月板損傷
8	膝関節部の軟部組織障害	関節周囲の損傷
9	膝関節部の軟部組織障害	変形性膝関節症
10	膝関節部の軟部組織障害	その他の膝の損傷及び障害
11	下腿部の軟部組織損傷	筋・腱の損傷及び障害
12	足部の軟部組織損傷	靭帯損傷
13	足部の軟部組織損傷	足部の有痛性疾患
14	足部の軟部組織損傷	変形及び末梢神経障害
15	まとめ	総復習

体育学部競技スポーツ科学科

科目コード	25100		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育原理		担当者名	早田 剛			○		
			実務経験との関連	医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認（約10分）

2. テーマに沿った解説と問いの提示①（約10分）

3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分）

4. テーマに沿った解説と問いの提示②（約10分）

5. 上記テーマに即した意見提出とディスカッション（約20分）；字数制限有

6. プレゼン発表もしくは課題レポート作成次週課題の確認（☑自宅学習：約30～60分）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）

3から4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

<教科書>

B5判／218ページ（令和4年度発行版）<https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59>

現代高等保健体育 保体「701」 () ISBN:9784469663198

大修館書店

<参考書>

友添秀則、岡出美則 編（2016年）「教養としての体育原理」大修館書店

高橋 徹 編（2021年）「はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学」サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する
2	体育とは	2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
3	体育とスポーツは何が違うのか	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、〈できる〉とはどういうことかを検討する
6	体育における人間形成	体育における競争とはどういう位置付けられるかを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	スポーツとプレイ（遊び）について学び、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
14	スポーツと社会	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
15	スポーツとコミュニティまとめ	スポーツ需要の質的变化に対して、その課題を解決を促す新たな体育・スポーツ需要を検討する 1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する2) 体育原理を総括する

科目コード	62008		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	健康管理とスポーツ医学		担当者名	河合 洋二郎			○		
			実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育期の子供の生理的特徴、運動時に対する応答、特異的な障害について学習することをねらいとする。内科的メディカルチェックでは、メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習することをねらいとする。ドーピングコントロールでは、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などをアスレティックトレーナーが理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようになることをねらいとする。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：無

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など呼吸器系疾患（慢性肺炎疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

科目コード	40101		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)		担当者名	國友 亮佑			○		
			実務経験との関連	事業団スポーツチームのストレングス&コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

- 1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。
- 2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。
- 3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。グループワーク

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2 メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3 メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験

科目コード	40108		区 分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	剣道Ⅰ(基礎)		担当者名	大井 理緒/堀川 峻			○		
			実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに武道について指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	教職選択必修

<授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としている。すなわち、剣道を通して礼節を学び、心身を鍛え、社会で活躍できる立派な人間になるということである。剣道は、今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。剣道の技術は打つ、突く、かわすの三種類に分類されており、これらの技術習得には、基礎・基本動作を正しく身につけることが重要である。本授業では、剣道の礼法や基本動作を身につけると共に剣道を指導する際の留意点や安全性について理解する。

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場いいおいて剣道授業を実施できるようになる。

<授業の方法>

講義・実技・ディスカッション

剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設ける
Classroomを使用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）

グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

全日本剣道連盟（平成25年6月1日）「全日本剣道連盟編「剣道指導要領」」全日本剣道連盟

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。
5	基本動作について（素振りと立ち合いにおける礼法）	正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突をする方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。
13	実技確認試験	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14	試合審判規則に関する知識と実践	試合審判規則の大まかな内容を学習する。また互角稽古において審判を行い、1本の判定がある程度可能になるように学習をする。
15	授業のまとめと試合（団体戦における戦い方の学習）	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。

科目コード	40120		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	サッカー		担当者名	降屋 丞			○		
			実務経験との関連	プロスポーツチームスクールコーチとしての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

科目コード	40121		区 分	体育実技			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ソフトボール		担当者名	山本清人/原田 悠平 佐藤 伸之			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- (1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。

1. グループワーク（予習内容に関する確認）
2. 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。
3. ディスカッション（問題提示に対する回答）
4. 省察活動（まとめ）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会「ソフトボール指導者教本」日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

体育学部競技スポーツ科学科

科目コード	40119		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ラグビー		担当者名	小村 淳			○		
			実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

体育学部競技スポーツ科学科

科目コード	40102		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅠ(基礎)		担当者名	十河 直太			○		
			実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったのゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有

グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート

科目コード	40104		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ハンドボール I (基礎)		担当者名	仙波 慎平			○		
			実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。（1クラスの定員50名とする。）

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、 ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

グループワーク（7～10人グループにわかれ、運営等を行う）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則（2003）「Tactics of Handba in The Word」財団法人日本ハンドボール協会

酒巻清治（2012）「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得（2）	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術（1）	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム（1）
6	対人的技術・戦術（2）	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム（2）
7	グループ戦術（1）	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム（1）
8	グループ戦術（2）	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム（2）
9	ゲーム（1）	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム（2）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（1）
11	ゲーム（3）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（2）
12	ゲーム（4）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（3）
13	ゲーム（5）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（4）
14	ゲーム（6）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（5）
15	ゲーム（7）	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営（6）

科目コード	40202		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)		担当者名	坂本 博秋			○		
			実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有

グループ・ディスカッションや指導実習など

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版）「コーチングバレーボール（基礎編）」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループ・ディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）（1）	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法（2/4/6/9）（2）	練習方法と指導実習
14	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート

科目コード	3G216		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公共経営論		担当者名	小川 正人			○		
			実務経験との関連	海外の高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	2 単位

<授業の概要>

近年の大きな経済社会の変化のなかで、地域や公共分野で活躍する人材の育成が求められているこのような社会を構成し活躍する人材を「シチズンシップ」は日本語では「市民」と呼ばれる。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうのかを考え、現在そして未来においての「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シチズンシップ」の役割・活動について議論していく。その議論の中心となるのが、SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」である。2015年9月に国連で開かれたサミットで策定されたSDGsは、先進国と途上国が一丸となって地球が直面している課題（環境、経済、教育、社会等）の解決に向けた17の目標で構成されている。本授業ではSDGsの17の目標のうち、第3目標「すべての人に健康と福祉を」第12目標「つくる責任 つかう責任」第15目標「陸の豊かさを守ろう」に焦点をあて、農業をテーマに考えていく。

<授業の到達目標>

本授業では、公共経営の分野のうち、農林水産省中国四国農政局と連携し農業の問題を取り上げる。農林水産省が推進している政策でもある、みどりの食料システム戦略、有機農業、農福（農業＋福祉）について学んでいく。

<授業の方法>

対面授業だけでなく、ゲストによる講義や、農業の実地体験を含めて進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。
提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、「公共経営」とは
2	我が国農業の現状と課題～まずは現状を 知る～	みどりの食料システム戦略～SDGsにつながる～
3	なぜ今、有機農業なのか	有機農業を知ろう
4	有機農業ボランティア活動	・おかやまオーガニック：岡山市北区御津（予定） ・（有）吉備路オーガニックワーク：総社市
5	パネルディスカッション	複数の農業者によるキャリア教育としての人生観話
6	生産資材の役割を学ぶ	農業における肥料の役割を学ぶ
7	ワークショップ	有機農業と生産資材の関係性を考える
8	農福連携事業者の思いを聞く	（合）ど根性ファーム：笠岡市（予定）
9	農福連携事業ボランティア活動	（合）ど根性ファーム（予定）
10	ワークショップ	健康から農業と福祉を考える
11	ワークショップ	各グループでテーマ決定
12	プレゼンテーション準備（1）	グループによるプレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション準備（2）	グループによるプレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション（1）	グループプレゼンテーション
15	プレゼンテーション（2）	グループプレゼンテーション

経済経営学部現代経営学科

科目コード	28102		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	経済学概論		担当者名	田口 雅弘			○		
			実務経験との関連	海外大学研究所研究員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

<授業の方法>

講義形式で行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（60%）と最後のまとめテスト（40%）で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022）「入門経済学〔第四版〕」創成社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。

科目コード	28106		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門		担当者名	大池 淳一			○		
			実務経験との関連	実業系高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目及び後期開講の「簿記演習」と併せて日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため後期の「簿記演習」も履修すること。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つので、経済経営学部の学生は全員履修することが望ましい。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原則である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得するとともに、経済経営学部生全員で1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっても是非とも履修してもらい集団の中でリーダーシップを発揮してほしい。

<授業の到達目標>

- ① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解する。
- ② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。
- ③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。
- ④ 日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につける。

<授業の方法>

- ① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。
- ② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。
- ③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。
- ④ 本科目では、後期開講の「簿記演習」と併せて履修することで、日商簿記検定3級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を実践に身につけるため手書きを主体とする。
- ⑤ 解説動画をクラスルームに配信するため有効に活用すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70％フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/2/16)「2024年度版 スッキリわかる 日商簿記3級」TAC出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート

科目コード	3G200		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	ミクロ経済学		担当者名	赤木 邦江			○		
			実務経験 との関連	一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、まず最初に「経済学」とは何かを経営学との比較から理解することから導入し、「経済学の十大原理」を基に、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本を捉える。その上で、ミクロ経済学の基本的な考え方について、「市場の原理」「市場における需要と供給」「消費者選好」「再適配分」「ゲーム理論（競争とナッシュ均衡：最適解）」など、私たちの生活にも身近な現実の経済問題を理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

- ・経済学と経営学の違い・繋がりを出来、ミクロ経済とマクロ経済の違いを正確に捉えることが出来る。
- ・ミクロ経済の対象である、市場を構成する家計や企業といった経済主体の選択行動の基礎理論と市場メカニズムについて理解が出来る。
- ・ミクロ経済学入門として必要な「基礎知識」「経済学的な考え方」「分析手法の基礎」を修得する。

<授業の方法>

- ・対面授業およびグループディカッション等によるアクティブラーニングを実施する。
GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。
(GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること)
- ・グループディカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

リフレクション（振り返り）レポート 42% 学習意欲・授業態度 28%、最終まとめテスト 30%【配布レジュメ、手書きノート（コピー、写真コピー不可）等持ち込み可】

授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：授業の進め方、成績評価の方法 イントロダクション：「経済学とは」	経済学と経営学 経済学の「十大原理」 ミクロ経済学とマクロ経済学
2	市場のメカニズム	市場とは 最適化と均衡 需要と供給（需要曲線と供給曲線） 最適配分、パレート効率性
3	予算制約	予算制約とは 財モデルの一般性 ニュメラーレ（標準財）
4	選好	消費者選好とは 無差別曲線群 限界代替率（MRS）
5	効用	基数的効用 効用関数 限界効用と限界代替率（MRS）
6	選択	最適選択 トレードオフ 正常財と劣等財
7	需要	所得－消費曲線とエンゲル曲線 通常財とギッフェン財
8	顕示選好	顕示選好の考え方 顕示選好から選好へ 無差別曲線の推定
9	スルツキー方程式	替効果 所得効果 自由競争の市場において、市場メカニズムが働かない事例
10	市場の失敗	自然独占 外部性 情報の非対称性
11	ゲーム理論(1)	「ゲーム理論」とは ナッシュ均衡

		ゲーム理論の基本「囚人のジレンマ」
12	ゲーム理論(2)	支配戦略 残業ゲーム 合理的な豚 戦略型ゲーム
13	ゲーム理論(3)	サッカーのペナルティーキック 純粋戦略と混合戦略「チキンゲーム」
14	総括：「ミクロ経済学」の基本理解確認	授業の振り返り：「ミクロ経済学」の基本 全体のまとめ
15	期末試験：「ミクロ経済学」理解度確認まとめテスト 全体の振り返り 内容	「ミクロ経済学」理解度確認まとめテストの解答・解説 これからの「ミクロ経済学・市場のメカニズム」について 受講の自己評価

経済経営学部現代経営学科

科目コード	3G201		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	マクロ経済学		担当者名	歌代 哲也			○		
			実務経験 との関連	証券会社社員、商品取引所研究員としての実務経験から得られた専門的 知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。

<授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

家森信善「【ベーシック+】マクロ経済学の基礎(第2版)」中央経済社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアン考え方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド＝ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学

科目コード	65019		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	平野 正樹			○		
			実務経験との関連	公務員（大蔵省官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

<授業の方法>

その都度、資料を配布する。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。各講義の終わりに、講義内容を踏まえた双方向のディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。
講義内容の理解度を確認するため、ディスカッションやPPTの活用などによる双方向での授業を実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	市場の失敗とは	市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	総括	財政実態の国際比較

科目コード	35217		区 分	コア科目スポーツビジネス			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツ経営学入門		担当者名	平岡 師玄哉			○		
			実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

私たちが住んでいる社会の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

<授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要となるスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

<授業の方法>

講義とグループワークを織り交ぜながら行っていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30％、 授業内容についての課題 40％、レポートの課題 30％

<教科書>

畑攻・小野里真弓「基本・スポーツマネジメント」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活Ⅰ	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活Ⅱ	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指してⅠ	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指してⅡ	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ

科目コード	37506		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツマーケティング論		担当者名	小堀 浩志			○		
			実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員・役員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、消費者に求められているスポーツの本質的価値はどのようなことなのか、マーケティングとはどのようなことなのかを考え、その上でスポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、少人数でのグループワークを展開していく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題(毎回の小テスト) 30% レポート課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

原田宗彦 藤本淳也 松岡宏高 編著者(2020年9月1日)「スポーツマーケティング改訂版」大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か?	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランド戦略、ブランドエクイティとは何か、ライセンスリング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ

科目コード	54005		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅴ（ICTスキル系）		担当者名	岡田 健志			○		
			実務経験との関連	情報系一般企業経験者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指す。

<授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

MOS試験のうち、Word、Excelの3科目を受験対象科目として講義を行う。授業期間は前・後期の通期のため、概ね2週に1回程度の進度である。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに解説をオンデマンドで配信し、問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の提出 40%、模擬試験問題の達成状況 60%で評価する。

<教科書>

富士通エフ・オー・エム「MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集」FOM出版

富士通エフ・オー・エム「MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集」FOM出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	MOSの解説、試験概要
2	Word練習 (1)	Word文書管理
3	Word練習 (2)	文字、段落、セクション、書式設定
4	Word練習 (3)	表、リストの管理
5	Word練習 (4)	参考資料の作成管理
6	Word練習 (5)	グラフィック要素
7	Word練習 (6)	共同作業の管理
8	Word練習 (7)	Wordの出題範囲と模擬試験
9	Excel練習 (1)	ワークシート・ブックの管理
10	Excel練習 (2)	セルのデータ管理
11	Excel練習 (3)	テーブルのデータ管理
12	Excel練習 (4)	数式と関数
13	Excel練習 (5)	グラフ管理
14	Excel練習 (6)	Excelの出題範囲と模擬試験
15	理解度確認	Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント

科目コード	54002		区 分	キャリア形成科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅰ（語学系）		担当者名	溝越 隆興			○		
			実務経験との関連	国内大学附属日本語養成校職員、海外大学の日本語教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、海外または国内での1～2週間の短期研修を通じて、語学力・異文化理解・行動力・課題解決力など、グローバル社会で必要とされる力を実践的に育成する。研修前には、グローバル人材の定義や異文化理解、語学表現などの基礎を学び、研修後には成果の振り返りとプレゼンテーションを行う。

<授業の到達目標>

- ・グローバル人材に求められる資質・能力を理解する。
- ・研修先の文化・社会背景に関する基礎知識を身につける。
- ・語学的・文化的課題に対する主体的な対応力を高める。
- ・研修体験を振り返り、成果をプレゼンテーションとして発信できる。

<授業の方法>

対面による講義とグループワーク、研修（海外・国内）、帰国後のプレゼンテーションを組み合わせた実践型授業。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・授業参加・課題提出（30％）
- ・研修中の活動・態度（30％）
- ・成果発表（プレゼンテーション）（40％）
- ・フィードバック方法：授業内での口頭フィードバック、ピアレビュー、教員講評、研修記録へのコメントなど

<教科書>

Joseph Shaules「Intercultural Communications：Student Book」アプリコット出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、目的説明、自己紹介、グループ分け
2	グローバル人材とは何か①	世界で求められる人物像、SDGsと関連づけた考察
3	グローバル人材とは何か②	必要なスキルとマインドセット、事例研究
4	異文化理解	異文化との接し方、多様性と共生の視点
5	語学トレーニング①	基本表現、自己紹介、日常会話
6	語学トレーニング②	ロールプレイ（空港、買い物、ホームステイ等）
7	研修先の理解①	フィリピン・韓国の社会と文化背景
8	研修先の理解②	アメリカ・イギリス・フランスの文化比較
9	安全・健康管理	危機管理、保険、健康・食文化、現地のルール
10	目標設定	個人・グループの目的確認、研修準備
11	海外・国内研修①	現地での語学学習、文化体験、施設訪問等
12	海外・国内研修②	同上（中間評価・活動記録）
13	振り返りと準備①	写真・体験の整理、発表構成の検討
14	発表準備②	スライド・原稿作成、リハーサル
15	成果発表会	プレゼンテーション、相互評価、まとめ

科目コード	T110101		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語 I		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、他者との会話演習を実施することで、必要となる情報を英語で時間をかけることなく伝える練習を行う。また、まとまった英語を聞き取り、その内容について、自身の言葉で説明する練習を行う。

<授業の到達目標>

1. 基本的な文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、回答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を把握することができる。

<授業の方法>

2人以上のペアまたはグループとなり、毎回指定された文法テーマに則り英語でのやりとりを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 中間考査 口頭試問：15点 期末考査 口頭試問：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介の英語	相手に響く英語での自己紹介とその深掘りに必要な語句を習得する。
2	現在形・過去形：習慣に関する英語	現在形と過去形のほか、頻度副詞を用いて、グループで情報を集め、集めた内容について英語で共有する。
3	未来表現：未来の予定について述べる	be going to, will, be V-ingの表現を用いて、個人のスケジュールを説明するほか、他者に質問をしながら予定を埋める練習を行う。
4	助動詞：能力について述べる	can, be able toの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
5	助動詞：義務・提案の表現	must, have to, shouldの表現を用いて、規則や問題に対して英語で提案をする練習を行う。
6	助動詞：可能性の表現	must, should, may, can, will, would, couldの表現を用いて可能性を説明する練習を行う。
7	中間考査 口頭試問	第1回～第6回の表現を用いて、ひとりずつ英語にて質疑応答に対応する。
8	現在完了形	経験、継続、完了について現在完了形の意味を理解したうえで、出来事の詳細を説明する練習を行う。
9	仮定法現在	将来起こり得ることについて、第6回で学んだ助動詞を用いて説明する練習を行う。
10	仮定法過去・仮定法過去完了	事実と反する内容について説明する練習を行う。
11	関係詞	関係代名詞と関係副詞を用いて、示された事象について詳細な説明をする練習を行う。
12	比較級	同格を含めた比較の表現を学び、様々な事象やデータについて比較する練習を行う。
13	接続詞	接続副詞など、文と文をつなぐ表現を正確に把握したうえで、実際の英会話において使う練習を行う。
14	前置詞	場所や時間を示す前置詞の正しい用法を通して、より細かい表現を身につけ実際の会話に活かすことができる。
15	期末考査 口頭試問	第8回～第14回の表現を用いて、インタビューと英語での質疑応答に対応する。また、指定されたテーマのほか、データについて読み取り、英語で説明する。

科目コード	T110102		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	英語Ⅱ		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験 との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業 開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に 反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、英語Iで学んだ英語文法を用いて発展的な会話練習を行う。実際の使用現場を意識しながら、他者との会話演習を実施することで、語学運用に必要な実践力を身につける。なお、各授業で文法事項の再確認をするため、英語Iを履修していない学生も履修をすることはできる。

<授業の到達目標>

1. 中級程度の文法を用いて、他者に英語で発話をすることができる。
2. 他者が話す英語の質問を聞き取り、即答することができる。
3. 他者が話すまとまった英語を聞き取り、その内容を他者に伝えることができる。

<授業の方法>

2人以上のペアまたはグループとなり、毎回指定された場面を意識して英語でのやりとりを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回） 中間考査 口頭試問：15点 期末考査 口頭試問：20点

<教科書>

使用しない（独自プリント配布）

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	自己紹介で必要なこと	英語での自己紹介で求められる英語力とコミュニケーション力について考えながら実践する。
2	Integrated Speaking入門	示された英文を読み、その内容を他者に伝える練習を行う。パラフレーズの基本的な方法について学ぶ。
3	Integrated Speaking実践	示された英文を読み、自らの言葉でその内容を説明するほか、意見を述べる練習を行う。
4	Integrated Writing入門	示された英文を読み、その内容について文章にする練習を行う。パラフレーズをもってより自分の考えを反映した文章の作成に取り組む。
5	Integrated Writing実践	示された英文を読み、その内容について自分の意見で主張する練習を行う。
6	データ分析実践	示されたデータを見て、その内容について英語で説明する練習を行う。
7	中間考査 口頭試問	英文を読みその内容について自分の意見を述べる。英語力のほか、その内容の妥当性について判断する。
8	ノートテキング入門	リスニングを聞きメモをとる練習を行う。そのうえで、会話の内容を自分の言葉で説明する練習を実施する。
9	ノートテキング実践	実際の放送や会話を聞いて、その内容について自らの意見を述べる練習を行う。
10	速読入門	限られた時間で文章を読み、核となる内容を見つけ出す練習を行う。内容について自分の言葉で他者に伝える練習を行う。
11	速読実践	スキムリーディングを実践し、必要となる情報を瞬時に見つけ出す練習を行う。内容について自分の意見を述べる練習を行う。
12	情報補正入門	提示された内容に関して英語を聞き、内容についての正誤を把握し、間違っていれば瞬時に正しい内容に書き直す練習を実施する。
13	情報補正実践	英語で内容を把握しながら、必要となる情報を付け足す練習を行う。具体例や理由などの表現を瞬時に把握し書き出す練習を実施する。
14	実務入門	実際のビジネス環境を模索し、他者の英文や資料を確認しながら、自らの見解を英語で示す練習を行う。
15	期末考査 データ分析	架空の企業データを公表し、それに関する英文を聞いたうえで企業評価を英語で行う。

科目コード	T110205		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	TOEIC I		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEICの各PARTについて詳細な解法手法を提示し、高得点の獲得を目指す。

<授業の到達目標>

TOEICの各PARTについて、一つずつ丁寧に解説し、TOEIC本試験で500点台に到達することを目標とする。また、英語の使用に慣れた学生においては実用域である700点台以上のスコアを獲得することを目標とする。

<授業の方法>

各パートの模擬問題を行いつつ、必要な解法手法を提示し、手法通りに問題を解く練習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回）中間考査 TOEICハーフ模試：15点 期末考査 TOEIC IP（本試験）：20点

<教科書>

早川幸治 TOEIC L&Rテスト書き込みドリル 桐原書店

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Part 1 人物の動作と状態、物の状態と位置	Part 1で出題される発話文の文法を確認するほか、穴埋めリスニングを行い確実に文の内容を聞き取る練習を行う。
2	Part 2 疑問詞を使った疑問文、基本構文と応答の決まり文句、Yes/No疑問文	Part 2で出題される会話文の提携パターンを学ぶ。
3	Part 1, Part 2演習、Part 5 品詞	過去2回分の確認を図るリスニングテストの実施。また、問題を実際に作成し全体で解き合う。Part 5では頻出する品詞問題の解説を行う。
4	Part 5 動詞、代名詞、関係代名詞	Part 5で必ず出題される文法項目の確認及び練習問題を解く。
5	Part 5 接続詞・前置詞、Part 5復習	Part 5の難関問題である接続詞・前置詞の問題の解説を行う。そのうえで、文法問題の総復習を行う。
6	TOEICハーフ模試及び解説	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 3 日常場面での会話、電話での会話、オフィスでの会話①、オフィスでの会話②	Part 3で出題される頻度の高い会話文を聞き取る方法を学ぶ。
8	Part 4 アナウンス・ツアー、ラジオ放送・宣伝	Part 4で出題される頻度の高いスピーチ文を聞き取る方法を学ぶ。
9	Part 4 留守番電話、トークスピーチ・会議の一部	図表を伴うスピーチ文の聞き取り方法を学ぶほか、先読みができない場合の対処法を習得する。
10	Part 3, 4の復習	Part 3, 4の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。
11	Part 7 Skim Reading	Part 7の攻略に必要な速読で求められるSkim Readingを実践する。
12	Part 7 表・用紙、広告、チャット、手紙・Eメール	前回学んだskim readingを使ってpart 7の様々な問題を解く。
13	Part 7 ダブルパッセージ、トリプルパッセージ	時間のかかる複数パッセージ問題への取り組み方、skim readingの仕方を説明し問題を解く。
14	Part 6 時制・代名詞・語彙問題、つなぎ言葉・文の挿入	Part 6の全パターンの解説を行ったうえで、各パターンの解答手法を学ぶ。
15	Part 6, 7の復習	Part 6, 7の模擬問題を解答し、これまでの解答手法を習得できているか確認する。

科目コード	T110206		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	TOEICⅡ		担当者名	古賀 敢人			○		
			実務経験との関連	民間教育会社（教材開発会社・教育コンサルタント等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEICの各PARTを、時間を計りつつ実践形式で解く練習をする。本番を想定した解答手法を学び得点アップにつなげる。

<授業の到達目標>

現時点で保有するTOEICスコアを100～200点上げることが目標とする。

<授業の方法>

実践形式で解き、間違えたものについてその理由を自ら理解する力を身につける。独学でTOEICのほか、英語学習をするために必要な自己理解力の客観的把握を図る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題：65点（5点×13回）中間考査 TOEICハーフ模試：15点 期末考査 TOEIC IP（本試験）：20点

<教科書>

TOEIC TEST講座TOEIC TESTスコア激伸び模試 3回分 新形式問題対応編TAC出版

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Part 1, 2	TOEICで特に落とせない問題をピックアップし、すべて正答するために必要な知識・技能を学ぶ。
2	Part 5	文法事項を総ざらいし、語彙問題にも対応できるように接尾辞や接頭辞から意味を汲み取る練習を行う。
3	Part 5, 6	文法問題を素早く間違いなく解くために必要な文の見どころを再整理する。
4	Part 3	会話文の聞き方と、話者の意図を示す部分の聞き取り練習を行う。
5	Part 4	スピーチ原稿で出現するパターンや、難解なテーマに関する発話の聞き取り方を学ぶ。
6	TOEICハーフ模試	これまで学んだことの確認をするために、実際の問題の半分の量のTOEICを模試として解く。
7	Part 2, 3	得点源になるセクションで難解な問題を中心に正答する方法を学ぶ。
8	Part 3, 4	話者の意図を的確に把握するために必要な形容詞について学ぶ。
9	Part 5, 7	正答を導くために必要な語句や文章の把握を瞬時に行う練習をする。
10	Part 6, 7	文法規則から、読解を読み解く方法を学ぶ。
11	Part 1-4	リスニングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
12	Part 5-6	リーディングセクションを解き、ミスをした理由を突き止めるとともに、同じミスをしないために必要な方策を伝授する。
13	Part 7	精読が必要になる読解問題の攻略法を学ぶ。
14	Part 3, 4, 7	これまでの総復習を行う。
15	Part 1, 2, 5	これまでの総復習を行う。

科目コード	T110209		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技 I		担当者名	小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動量育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋内スポーツであるバレーボール、バスケットボール、バドミントン及びインディアカ、ボッチャ等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に室内で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる。

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ（10分） 2. 本時の学習の確認（10分） 3. 基礎技術の練習①（10分～30分） 4. グループ活動（10分～20分） 5. ミニゲーム、試合（20分～30分） 6. 振り返り・片付け（10分） ※Google formを活用してリフレクションペーパーの提出を実施

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%，グループ（チーム）内における態度・協調性30%，事前課題・事後課題 20%，技術の上達度20%によって評価する。〔受講上の注意〕グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴（体育館用）を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。授業時に指示

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的	からだを動かす意義 授業の進め方
2	スポーツ①/体力テスト	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
3	スポーツ①/体力テスト	体ほぐしの運動と体力を高める運動の実施
4	スポーツ②（個人種目）	ニュースポーツ（ボッチャ）の実施
5	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得
6	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得
7	スポーツ③（個人種目）	バドミントンの基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④（集団種目）	ニュースポーツ（インディアカ）の基礎技術の習得
9	スポーツ④（集団種目）	ニュースポーツ（インディアカ）の基礎技術の習得&簡易ゲーム
10	スポーツ⑤（個人種目）	バレーボールの基礎技術の習得
11	スポーツ⑤（個人種目）	バレーボールの基礎技術の習得
12	スポーツ⑤（集団種目）	バレーボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム
13	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得
14	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得
15	スポーツ⑥（集団種目）	バスケットボールの基礎技術の習得&簡易ゲーム

科目コード	T110210		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育実技Ⅱ		担当者名	小川 千尋			○		
			実務経験との関連	民間保育療育会社（個別運動療育施設）において、運動量育士としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実験・実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分自身の健康の維持推進を図り、スポーツの体験と基礎的技術の修得を行う。競技性の高いチームスポーツや個人スポーツに加え、年齢や体力、技術にかかわらず誰もが楽しめるスポーツも取り入れる。周りの人々とコミュニケーションをとりながら、生涯を通じてスポーツに親しむことができる知識や技術を身に付ける。そこで本科目では、屋外スポーツであるテニス、フットサル、ゴルフ及びタグラグビー、モルック等を行う。

<授業の到達目標>

本授業は、主に屋外(テニス・フットサル・ニュースポーツ等)で実施されるスポーツの基礎的技術の習得とゲームを実践することで、それらを余暇の積極的消費の手段として身につけることを目的とし、次の4点を到達目標とする。①各スポーツ種目の基礎的技術を身につけ、能力に応じ実践できる ②スポーツの実践を通して体力の自己管理・向上をはかることができる ③ゲームの流れとルールを理解し、審判ができる④生涯スポーツとしての位置づけが理解できる⑤リーダーシップおよび協調性、ならびに創造性を身につける。

<授業の方法>

1. 点呼・ウォーミングアップ(10分) 2. 本時の学習の確認(10分) 3. 基礎技術の練習①(10分～30分) 4. グループ活動(10分～20分) 5. ミニゲーム、試合(20分～30分) 6. 振り返り・片付け(10分) ※Google formを活用してリフレクションペーパーの提出を実施

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度30%, グループ(チーム)内における態度・協調性30%, 事前課題・事後課題 20%, 技術の上達度20%によって評価する。

〔受講上の注意〕 グループ学習となる為、授業は全出席を原則とする。ただし、病気などやむを得ない理由で欠席する場合でも、1/4 を超えてはならない。なお、3分の1以内の欠席については補講を実施する場合もある。また、遅刻は原則として認めない。実技の際は必ずトレーニングシャツ、トレーニングパンツ、運動靴(体育館用)を着用する。これ以外の服装での受講は認めない。

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。授業時に指示

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツの意義と目的	からだを動かす意義 授業の進め方
2	スポーツ①(個人種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の基礎ルールの理解
3	スポーツ①(個人種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の簡易ゲーム
4	スポーツ②(集団種目)	ニュースポーツ(タグラグビー)の簡易ゲーム
5	スポーツ②(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得
6	スポーツ③(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得
7	スポーツ③(集団種目)	ニュースポーツ(ゴルフ)の基礎技術の習得&簡易ゲーム
8	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得
9	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得
10	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
11	スポーツ④(個人種目)	テニスの基礎技術の習得&簡易ゲーム
12	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得
13	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得
14	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム
15	スポーツ⑤(集団種目)	フットサルの基礎技術の習得&簡易ゲーム

科目コード	T220104		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	簿記入門Ⅰ		担当者名	末原 聡			○		
			実務経験 との関連	民間会社の経理担当社員・会計事務所所員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。問題集を利用して、一つ一つの論点を確実に理解することに重点を置く。全国経理教育協会主催の簿記能力検定試験「3級商業簿記」（以下「全経3級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

① 全経3級に合格するための知識を身につける② 簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ③ 基本的な取引の仕訳ができるようになる④ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。

<授業の方法>

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う ②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること ④手書きの問題演習を主体とする ⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40%フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

（監修）新田忠誓（編著）桑原知之 2024年2月20日 全経簿記能力検定試験公式テキスト 3級商業簿記ネットスクール出版

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	身の回りの簿記
2	仕訳と転記	仕訳 勘定と転記 仕訳帳と総勘定元帳
3	現金と預金	現金と預金 当座預金 小口現金
4	商品売買	三分法 掛取引 返品 商品売買に係る帳簿 売上原価対立法
5	その他の収益と費用	収益の受取り 費用の支払い
6	決算の手続き①	決算とは 試算表の作成
7	その他の債権債務	貸付金と借入金 未収金と未払金 前払金と前受金
8	一時的な処理	仮払金と借受金 消費税の処理 立替金・預り金と給料の支払い 現金過不足
9	有価証券と有形固定資産	有価証券の取得・期末評価 有形固定資産の取得・減価償却
10	株式の発行	株式の発行 株式会社の資本構成
11	決算の手続き②	決算整理記入 売上原価の計算 貸倒の見積もり
12	決算の手続き③	消耗品費の処理 費用の繰延べ 費用の見越し
13	精算表①	精算表の作成方法
14	精算表②	損益計算書と貸借対照表 帳簿の締め切り
15	総演習	全経3級の過去問の演習と解説

科目コード	T220105		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門Ⅱ		担当者名	末原 聡			○		
			実務経験との関連	民間会社の経理担当社員・会計事務所所員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、企業の取引を記録し、財務諸表を作成するための「複式簿記」（以下「簿記」）というシステムの基本を学ぶ。簿記を学修することにより、経営・経済を理解するための基礎知識を修得することができる。また、簿記検定試験に合格することは、就職活動にも有利となり、業種・職種を問わず実社会で役立つ。簿記入門Ⅰで学んだ知識をもとに、全経３級では取り扱わなかった会計処理や帳簿組織等の論点に重点を置く。日本商工会議所主催の簿記検定試験「３級商業簿記」（以下「日商３級」）を履修者全員が受験し、合格することを目標とする。

<授業の到達目標>

①日商３級に合格するための知識を身につける ②簿記の意義を知り、複式簿記の原理を学ぶ ③基本的な取引の仕訳ができるようになる ④取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表の作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する

<授業の方法>

①授業の開始時に、前回のフィードバックを行う ②テキストの解説の後、問題演習および問題解説を行う ③仕訳や集計などの計算を行うので、各自電卓（スマートフォン不可）を持参すること ④手書きの問題演習を主体とする ⑤GoogleClassroomを用いたデジタル教材の配布等も行う

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度・授業の課題など60%：期末テスト40%フィードバック：次の授業において、問題の解説を行う。GoogleClassroomのデジタル教材などでフォローする。

<教科書>

（編著）TAC株式会社 2025年2月23日第15版 よくわかる簿記シリーズ合格テキスト日商簿記3級Ver15.0TAC出版

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	簿記の基本原理と会計処理
2	期中取引①	商品売買 現金・預金 小口現金 クレジット売掛金
3	期中取引②	手形取引・電子記録債権債務・その他取引
4	期中取引③	さまざまな帳簿の関係 現金出納帳・当座預金出納帳・商品有高帳・売掛金元帳・買掛金元帳
5	期中取引④	さまざまな帳簿の関係 仕入帳 売上帳 受取手形記入帳 固定資産台帳 / 試算表
6	決算①	決算整理仕訳：現金過不足・売上原価・貸倒れ
7	決算②	決算整理仕訳：減価償却・貯蔵品・当座借越
8	決算③	決算整理仕訳：経過勘定項目
9	決算④	決算整理後残高試算表 精算表
10	決算⑤	帳簿の締め切り
11	決算⑥	貸借対照表と損益計算書
12	株式会社会計	株式の発行・剰余金の配当・税金
13	証票と伝票①	証ひょう請求書 領収書 当座勘定照合表 法人税の領収済通知書
14	証票と伝票②	入金伝票 出金伝票 振替伝票
15	総復習	日商3級の過去問題の演習と解説

科目コード	T230102		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	流通論		担当者名	高橋 有弥			○		
			実務経験との関連	ビジネス系専門学校教員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ビジネスにおける商品流通（「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」）の重要性について学んでいきます。また、経済環境と消費者の変化、そして、情報技術が発展していく中における国内外の卸売業及び小売業の近年の動向についても学び、日本と海外の流通機構の違いなどについても学んでいきます。加えて、流通産業におけるDX化やグローバル化について、大手流通企業の事例を用いて実践的に学んでいきます。

<授業の到達目標>

- ① ビジネスにおける流通機構の役割の理解
- ② 国内外の流通産業の動向の理解及び日本と海外の流通機構の違いの理解
- ③ 流通産業における時代の変化に合わせた進化（DX化、グローバル化など）の理解

<授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。 2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。 3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、中間レポート 30%、授業態度・参加度40%

<教科書>

井上崇通, 村松潤一, 庄司真人 (2023/3/29ベーシック流通論 (第2版) 同文館出版

<参考書>

上原 征彦・坂上 眞介 (2008/3/11)手に取るようにわかる小売・流通がわかる本かんき出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1 授業概要の説明・オリエンテーション	「メーカー」→「卸」→「小売」→「消費者」についての詳細を学ぶ
2	2 小売業の役割(1) 社会における流通の役割について	国内外の大手総合量販店の事例から学ぶ
3	3 小売業の役割(2) 国内のコンビニのビジネスモデル	国内コンビニチェーン企業の事例からコンビニのビジネスモデルを学ぶ
4	4 小売業の役割(3) SPAビジネスモデルについて	国内外のSPAビジネスモデルについて企業の事例から学ぶ
5	5 小売業の役割(4) ディスカウントストア・ドラッグストア	国内外のディスカウントストア・ドラッグストアの成功事例から学ぶ
6	6 卸売業の役割とその事例(1) 卸売業とは・・・	国内大手卸売業企業の事例から学ぶ
7	7 卸売業の役割とその事例(2) 卸売業の役割	卸売企業の成功事例から学ぶ
8	8 ショッピングセンター(1) アウトレットモールについて	国内外のアウトレットモールから学ぶ小売業の役割を学ぶ
9	9 ショッピングセンター(2) 海外のショッピングセンターから学ぶ	ショッピングセンターに求められる提供価値や機能について学ぶ
10	10 PBプライベートブランド(流通業者の商品開発)(1) 総合量販店におけるプライベートブランドについて	プライベートブランドとは何か?なぜ流通業者は商品開発を行うのか?を企業の辞令から学ぶ
11	11 PBプライベートブランド(流通業者の商品開発)(2) プライベートブランドからナショナルブランドへ	無印良品などの事例を用いてプライベートブランドについて学ぶ
12	12 流通と情報(1) POS/EDI/リテールDX	流通産業における情報化について企業の事例を用いて学ぶ
13	13 流通と情報(2) 電子取引他	流通産業における情報化について企業の事例を用いて学ぶ
14	14 日本の流通構造と日本の取引慣行 日本的流通構造とは・・・日本の取引慣行とは・・・	日本的流通構造・取引慣行を海外と比較して学ぶ
15	15 まとめ これまでの授業の振り返り	

科目コード	T230301		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	ホスピタリティ論		担当者名	浜崎 統			○		
			実務経験 との関連	ホテル運営会社の社員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、ホスピタリティの基本概念とその重要性を学び、実践的な接客マナーや顧客対応技術を習得します。ロールプレイやディスカッションを通じて、コミュニケーション能力や異文化理解を深め、日常生活や職場でのホスピタリティを実践的に理解できるよう支援します。

<授業の到達目標>

1. ホスピタリティの基本概念を理解し、実生活で活用できるようになる。 2. 適切な接客マナーとコミュニケーションスキルを習得する。 3. 異文化理解を深め、多様な顧客に対する対応方法を身につける。

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（15分） 2. 講義（30分） 3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（35分） 4. 意見交換/まとめ（10分） ※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、課題/小テスト 30%、授業態度 30%

<教科書>

島田 裕巳（2020年5月7日）イスラム、ヒンズー、ユダヤ教……-宗教別 おもてなしマニュアル中央公論新社

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ホスピタリティとは？	ホスピタリティの基本概念、グループディスカッション「良いサービスとは？」
2	ホスピタリティの歴史と発展	歴史的背景、世界と日本の違い、事例研究と意見交換
3	接客・接遇の基本	第一印象の重要性、表情・声・姿勢、ロールプレイ「良い接客・悪い接客」
4	コミュニケーションスキル	言葉遣い、傾聴、共感、ロールプレイ「お客様対応」
5	異文化理解とホスピタリティ	異文化対応の基本、外国人視点のサービス、ケースワーク「文化の違いによる誤解」
6	チームワークとホスピタリティ	組織内での協力、グループワーク「連携が必要な接客シナリオ」
7	クレーム対応の基礎	クレーム対応の原則、ロールプレイ「クレーム対応の実践」
8	これまでの学びの整理（中間振り返り）	これまでの内容の復習、グループワーク「学びの共有」、小テスト
9	心のこもったおもてなし	心のこもったサービスとは？事例紹介とディスカッション
10	サービスの現場での判断力	状況判断力を鍛えるケーススタディ、グループワーク「とっさの対応」
11	顧客満足とリピーターの重要性	顧客満足とは？アンケート分析、グループディスカッション
12	サービスの演出と空間づくり	環境・雰囲気的重要性、グループワーク「理想の空間づくり」
13	現場で活かすホスピタリティ	実際の職場での応用例、ロールプレイ「ケース別対応」
14	まとめと発表準備	これまでの学びを整理し、各グループで発表準備
15	最終発表・まとめ	グループ発表、フィードバック、総括

科目コード	T230302		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	ホスピタリティ・マネジメン ト論		担当者名	浜崎 統			○		
			実務経験 との関連	ホテル運営会社の社員・管理職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、ホスピタリティマネジメントの基礎を学び、サービス業を中心に様々な業界での実践事例を考察します。アクティブラーニングを取り入れ、ディスカッションやロールプレイを通じて実践力を養います。異文化理解や最新技術の活用も視野に入れ、持続可能なホスピタリティのあり方を探究します。最終発表を通じて学びを深め、即戦力となるスキルを身につけることを目指します。

<授業の到達目標>

1. ホスピタリティマネジメントの基礎理解と応用力の習得：様々な業界でのホスピタリティの実践例を理解し、適切なサービス提供の方法を説明できる。 2. 顧客対応スキルと問題解決能力の向上：クレーム対応や顧客満足度向上の手法を実践的に学び、状況に応じた対応を適切に行える。 3. 多様性理解と持続可能なホスピタリティの探究：異文化理解や最新技術の活用を通じ、持続可能なホスピタリティの在り方を提案できる。

<授業の方法>

1. 出席確認と前回の振り返り（15分） 2. 講義（30分） 3. ロールプレイ/グループワーク/ディスカッション（35分） 4. 意見交換/まとめ（10分）※授業関連の活動（事前課題の提出、小テストの受験、事後課題等）については、Google Classroomを活用します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末課題 40%、課題/小テスト 30%、授業態度 30%

<教科書>

服部 勝人（2008年4月26日）ホスピタリティ・マネジメント入門 第2版丸善

<参考書>

なし

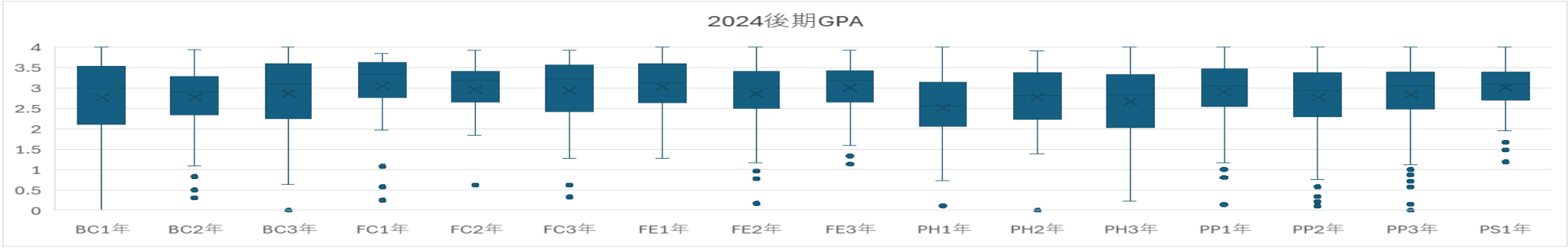
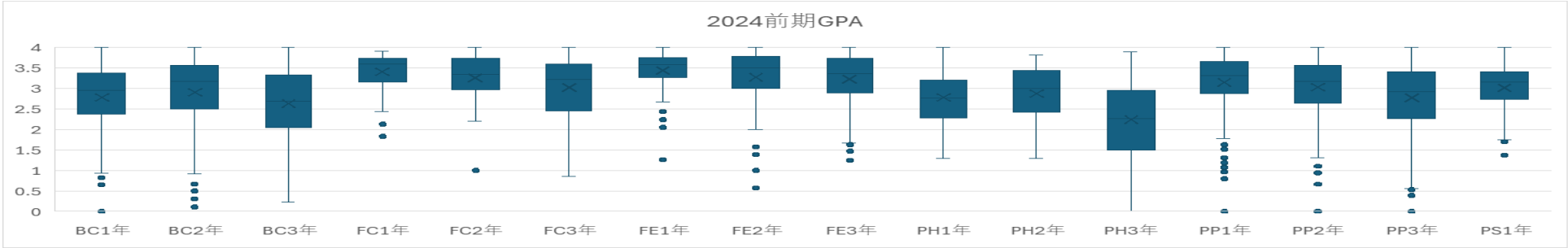
<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方、評価方法の説明。ホスピタリティマネジメントとは何か
2	ホスピタリティマネジメントの基本	ホスピタリティとマネジメントの関係、成功事例
3	サービス業におけるホスピタリティ	飲食業、ホテル業のホスピタリティ戦略
4	交通・観光業のホスピタリティ	航空、鉄道、観光業のサービス事例
5	医療・福祉業界のホスピタリティ	医療機関、介護施設でのホスピタリティ
6	小売・販売業のホスピタリティ	接客販売のポイント、顧客満足度向上策
7	クレーム対応とリカバリー	クレームの種類と適切な対応策
8	中間試験	これまでの学習内容をテスト形式で確認
9	IT・テクノロジーとホスピタリティ	AI・DXがホスピタリティ業界に与える影響
10	ホスピタリティとチームマネジメント	組織内でのホスピタリティの役割
11	ホスピタリティマーケティング	ブランド戦略、集客手法
12	SDGsとホスピタリティ	持続可能なホスピタリティのあり方
13	コンシェルジュの実務	実務での対応スキル、顧客満足度向上策
14	まとめと発表準備	学びの振り返りと最終発表準備
15	最終発表	学生のプレゼンテーションとフィードバック

学校法人創志学園 理事名簿

No.	役職	氏名	学外者
1	理事長	増田哲也	
2	副理事長	大塚敏弘	
3	理事	吉田洋一	
4	理事	福田富昭	○
5	理事	南風原朝和	○
6	理事	三浦恵美里	○

2024年度の学修状況(GPA分布) ※学科・学年別



2024前期	BC1年	BC2年	BC3年	FC1年	FC2年	FC3年	FE1年	FE2年	FE3年	PH1年	PH2年	PH3年	PP1年	PP2年	PP3年	PS1年
対象者	132	163	151	44	41	60	100	115	101	61	50	65	206	282	322	118
平均値	2.78	2.91	2.63	3.41	3.25	3.02	3.43	3.28	3.23	2.78	2.87	2.24	3.14	3.03	2.77	3.01
最小値	0.00	0.11	0.23	1.83	1.00	0.86	1.26	0.57	1.25	1.29	1.29	0.00	0.00	0.00	0.00	1.37
下位25%	2.39	2.50	2.07	3.20	3.00	2.48	3.28	3.00	2.91	2.32	2.46	1.52	2.88	2.64	2.27	2.75
中央値	2.96	3.17	2.68	3.59	3.35	3.23	3.58	3.50	3.36	2.76	3.00	2.26	3.31	3.17	2.92	3.16
上位75%	3.37	3.57	3.33	3.74	3.71	3.59	3.75	3.77	3.73	3.20	3.43	2.95	3.65	3.56	3.40	3.39
最大値	4.00	4.00	4.00	3.91	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.82	3.89	4.00	4.00	4.00	4.00

2024後期	BC1年	BC2年	BC3年	FC1年	FC2年	FC3年	FE1年	FE2年	FE3年	PH1年	PH2年	PH3年	PP1年	PP2年	PP3年	PS1年
対象者	146	182	152	44	41	60	100	116	101	61	50	65	206	283	323	118
平均値	2.76	2.76	2.86	3.05	2.95	2.93	3.03	2.86	3.00	2.51	2.77	2.67	2.91	2.76	2.84	3.01
最小値	0.00	0.30	0.00	0.25	0.62	0.33	0.59	0.17	1.13	0.11	0.00	0.22	0.14	0.10	0.00	1.19
下位25%	2.10	2.38	2.24	2.80	2.77	2.55	2.65	2.50	2.66	2.07	2.30	2.01	2.56	2.29	2.48	2.71
中央値	3.00	2.91	3.10	3.36	3.19	3.23	3.14	3.00	3.18	2.57	2.79	2.79	3.05	2.93	3.04	3.10
上位75%	3.52	3.26	3.59	3.60	3.41	3.54	3.58	3.40	3.43	3.16	3.36	3.33	3.47	3.38	3.38	3.38
最大値	4.00	3.94	4.00	3.84	3.93	3.92	4.00	4.00	3.92	4.00	3.91	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00

学科名称 BC 現代経営学科 FC こども発達学科 FE 教育経営学科 PH 健康科学科 PP 体育学科 PS 競技スポーツ学科

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

環太平洋大学

学部名	学科名	令和7(2025年)度			
		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
体育学部	体育学科	200人	—	1,000人	令和6年度から入学定員変更 定員振替(300→200)
	健康科学科	60人	—	240人	
	競技スポーツ科学科	100人	—	200人	令和6年度から学科届出設置 定員振替(0→100)
次世代教育学部	こども発達学科	80人	—	320人	
	教育経営学科	100人	—	400人	
	小学校教育専攻				
	中高英語教育専攻	20人	—	80人	
経済経営学部	現代経営学科	250人	50人	1,100人	令和4年度から入学定員変更 (200→250)
国際経済経営学部	国際経済経営学科	150人	—	150人	令和7年度から学部、学科届出設置
通学課程 計		960人	50人	3,490人	
次世代教育学部	教育経営学科				
	〔通信教育課程〕				
	初等教育専攻				
	中高英語教育専攻				
	中高数学教育専攻				
	看護教育専攻	80人	150人	380人	
通信課程 計		320人	340人	1,000人	
合 計		1,130人	390人	4,490人	

事業活動収支計算書

令和 4 年 4 月 1 日から

令和 5 年 3 月 3 1 日まで

(単位:円)

		科目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	12,691,490,000	12,730,430,841	△ 38,940,841	経常収入
		手数料	130,819,000	156,532,982	△ 25,713,982	
		寄付金	1,304,710,000	276,296,288	1,028,413,712	
		経常費等補助金	1,670,990,000	1,682,485,932	△ 11,495,932	
		付随事業収入	1,272,437,000	1,331,866,713	△ 59,429,713	
		雑収入	64,668,000	112,423,356	△ 47,755,356	
		教育活動収入計	17,135,114,000	16,290,036,112	845,077,888	
		支出の部	人件費	5,962,804,000	5,955,297,683	
	教育研究経費		6,135,695,000	6,091,042,520	44,652,480	
	管理経費		2,672,414,000	2,609,358,089	63,055,911	
教育活動支出計	14,770,913,000		14,655,698,292	115,214,708		
		教育活動収支差額	2,364,201,000	1,634,337,820	729,863,180	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	19,067,000	63,040,314	△ 43,973,314	経常支出
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	19,067,000	63,040,314	△ 43,973,314	
	支出の部	借入金等利息	46,067,000	112,232,464	△ 66,165,464	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	46,067,000	112,232,464	△ 66,165,464	
			教育活動外収支差額	△ 27,000,000	△ 49,192,150	
		経常収支差額	2,337,201,000	1,585,145,670	752,055,330	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	989,999	△ 989,999	
		その他の特別収入	290,527,000	1,250,769,278	△ 960,242,278	
		特別収入計	290,527,000	1,251,759,277	△ 961,232,277	
	支出の部	資産 処分 差額	112,827,000	127,782,856	△ 14,955,856	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	112,827,000	127,782,856	△ 14,955,856	
			特別収支差額	177,700,000	1,123,976,421	
		基本金組入前当年度収支差額	2,514,901,000	2,709,122,091	△ 194,221,091	
		基本金組入額合計	△ 3,654,320,000	△ 2,872,005,991	△ 782,314,009	
		当年度収支差額	△ 1,139,419,000	△ 162,883,900	△ 976,535,100	
		前年度繰越収支差額	△ 5,943,471,743	△ 5,943,471,743	0	
		基本金取崩額	0	177,579,313	△ 177,579,313	
		翌年度繰越収支差額	△ 7,082,890,743	△ 5,928,776,330	△ 1,154,114,413	
(参考)						
		事業活動収入計	17,444,708,000	17,604,835,703	△ 160,127,703	
		事業活動支出計	14,929,807,000	14,895,713,612	34,093,388	

事業活動収支計算書

令和 5 年 4 月 1 日から

令和 6 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

		科目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	13,273,170,000	13,269,730,464	3,439,536	経常収入
		手数料	157,590,000	181,805,020	△ 24,215,020	
		寄付金	13,979,000	16,062,477	△ 2,083,477	
		経常費等補助金	1,612,607,000	1,577,402,962	35,204,038	
		付随事業収入	1,280,677,000	1,311,237,683	△ 30,560,683	
		雑収入	63,344,000	78,621,119	△ 15,277,119	
		教育活動収入計	16,401,367,000	16,434,859,725	△ 33,492,725	
		支出の部	人件費	6,246,847,000	6,136,777,793	
	教育研究経費		6,220,641,000	6,227,168,880	△ 6,527,880	
	管理経費		2,873,188,000	2,878,237,718	△ 5,049,718	
教育活動支出計	15,340,676,000		15,242,184,391	98,491,609		
		教育活動収支差額	1,060,691,000	1,192,675,334	△ 131,984,334	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	7,803,000	187,353,217	△ 179,550,217	経常支出
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	7,803,000	187,353,217	△ 179,550,217	
	支出の部	借入金等利息	50,000,000	51,838,929	△ 1,838,929	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	50,000,000	51,838,929	△ 1,838,929	
				教育活動外収支差額	△ 42,197,000	
		経常収支差額	1,018,494,000	1,328,189,622	△ 309,695,622	
特別収支	収入の部	資産売却差額	1,414,000	1,447,245	△ 33,245	
		その他の特別収入	688,699,000	787,421,100	△ 98,722,100	
		特別収入計	690,113,000	788,868,345	△ 98,755,345	
	支出の部	資産 処分 差額	3,258,000	11,188,990	△ 7,930,990	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	3,258,000	11,188,990	△ 7,930,990	
				特別収支差額	686,855,000	
		基本金組入前当年度収支差額	1,705,349,000	2,105,868,977	△ 400,519,977	
		基本金組入額合計	△ 3,123,260,000	△ 3,146,058,023	22,798,023	
		当年度収支差額	△ 1,417,911,000	△ 1,040,189,046	△ 377,721,954	
		前年度繰越収支差額	△ 5,928,776,330	△ 5,928,776,330	0	
		基本金取崩額	0	372,322,996	△ 372,322,996	
		翌年度繰越収支差額	△ 7,346,687,330	△ 6,596,642,380	△ 750,044,950	
(参考)						
		事業活動収入計	17,099,283,000	17,411,081,287	△ 311,798,287	
		事業活動支出計	15,393,934,000	15,305,212,310	88,721,690	

事業活動収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日から

令和 7 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

		科目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	14,694,588,000	14,788,171,121	△ 93,583,121	経常収入
		手数料	172,230,000	187,394,447	△ 15,164,447	
		寄付金	12,581,000	14,764,931	△ 2,183,931	
		経常費等補助金	1,722,139,200	1,622,915,027	99,224,173	
		付随事業収入	1,538,987,000	1,560,827,476	△ 21,840,476	
		雑収入	45,037,000	60,081,465	△ 15,044,465	
		教育活動収入計	18,185,562,200	18,234,154,467	△ 48,592,267	
		支出の部	人件費	6,398,520,600	6,381,290,523	
	教育研究経費		7,151,872,130	7,094,276,897	57,595,233	
	管理経費		3,016,160,859	2,972,510,732	43,650,127	
教育活動支出計	16,566,553,589		16,448,078,152	118,475,437		
		教育活動収支差額	1,619,008,611	1,786,076,315	△ 167,067,704	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	41,574,000	70,135,573	△ 28,561,573	経常支出
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
		教育活動外収入計	41,574,000	70,135,573	△ 28,561,573	
	支出の部	借入金等利息	45,437,000	114,574,804	△ 69,137,804	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	45,437,000	114,574,804	△ 69,137,804	
			教育活動外収支差額	△ 3,863,000	△ 44,439,231	
		経常収支差額	1,615,145,611	1,741,637,084	△ 126,491,473	
特別収支	収入の部	資産売却差額	15,000	114,999	△ 99,999	
		その他の特別収入	105,914,000	147,439,816	△ 41,525,816	
		特別収入計	105,929,000	147,554,815	△ 41,625,815	
	支出の部	資産 処分 差額	18,367,716	22,038,049	△ 3,670,333	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	18,367,716	22,038,049	△ 3,670,333	
		特別収支差額	87,561,284	125,516,766	△ 37,955,482	
		基本金組入前当年度収支差額	1,702,706,895	1,867,153,850	△ 164,446,955	
		基本金組入額合計	△ 3,028,939,178	△ 3,743,858,442	714,919,264	
		当年度収支差額	△ 1,326,232,283	△ 1,876,704,592	550,472,309	
		前年度繰越収支差額	△ 6,596,642,380	△ 6,596,642,380	0	
		基本金取崩額	0	9,981	△ 9,981	
		翌年度繰越収支差額	△ 7,922,874,663	△ 8,473,336,991	550,462,328	
(参考)						
		事業活動収入計	18,333,065,200	18,451,844,855	△ 118,779,655	
		事業活動支出計	16,630,358,305	16,584,691,005	45,667,300	

貸 借 対 照 表

令和 7 年 3 月 3 1 日

(単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	42,679,696,588	40,977,786,695	1,701,909,893
有形 固定 資産	36,010,335,313	35,227,282,166	783,053,147
土 地	13,319,162,218	13,025,552,218	293,610,000
建 物	19,540,431,232	19,720,845,706	△ 180,414,474
その他の有形固定資産	3,150,741,863	2,480,884,242	669,857,621
特 定 資 産	5,588,585,426	4,606,344,601	982,240,825
その他の固定資産	1,080,775,849	1,144,159,928	△ 63,384,079
流動資産	13,346,653,340	13,804,802,970	△ 458,149,630
現 金 預 金	12,547,554,906	12,488,241,093	59,313,813
その他の流動資産	799,098,434	1,316,561,877	△ 517,463,443
資産の部合計	56,026,349,928	54,782,589,665	1,243,760,263

運用資産

科 目	本年度末	前年度末	増減
負債の部			
固定負債	4,148,606,201	4,977,750,371	△ 829,144,170
長期借入金	3,530,791,000	4,342,283,000	△ 811,492,000
退職給与引当金	588,585,426	606,344,601	△ 17,759,175
長期未払金	29,229,775	29,122,770	107,005
流動負債	7,803,127,701	7,597,377,118	205,750,583
短期借入金	1,311,492,000	1,311,742,000	△ 250,000
未 払 金	692,271,299	820,093,910	△ 127,822,611
前 受 金	5,187,893,778	4,744,562,887	443,330,891
その他の流動負債	611,470,624	720,978,321	△ 109,507,697
負債の部合計	11,951,733,902	12,575,127,489	△ 623,393,587
純資産の部			
基本金	52,547,953,017	48,804,104,556	3,743,848,461
第1号 基本金	46,570,953,017	43,827,104,556	2,743,848,461
第2号 基本金	5,000,000,000	4,000,000,000	1,000,000,000
第4号 基本金	977,000,000	977,000,000	0
繰越収支差額	△ 8,473,336,991	△ 6,596,642,380	△ 1,876,694,611
純資産の部合計	44,074,616,026	42,207,462,176	1,867,153,850
負債及び純資産の部合計	56,026,349,928	54,782,589,665	1,243,760,263

外部負債